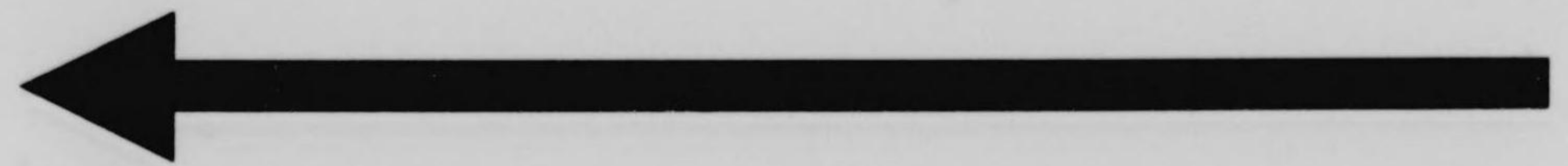


250
359
50



始



33.11.15

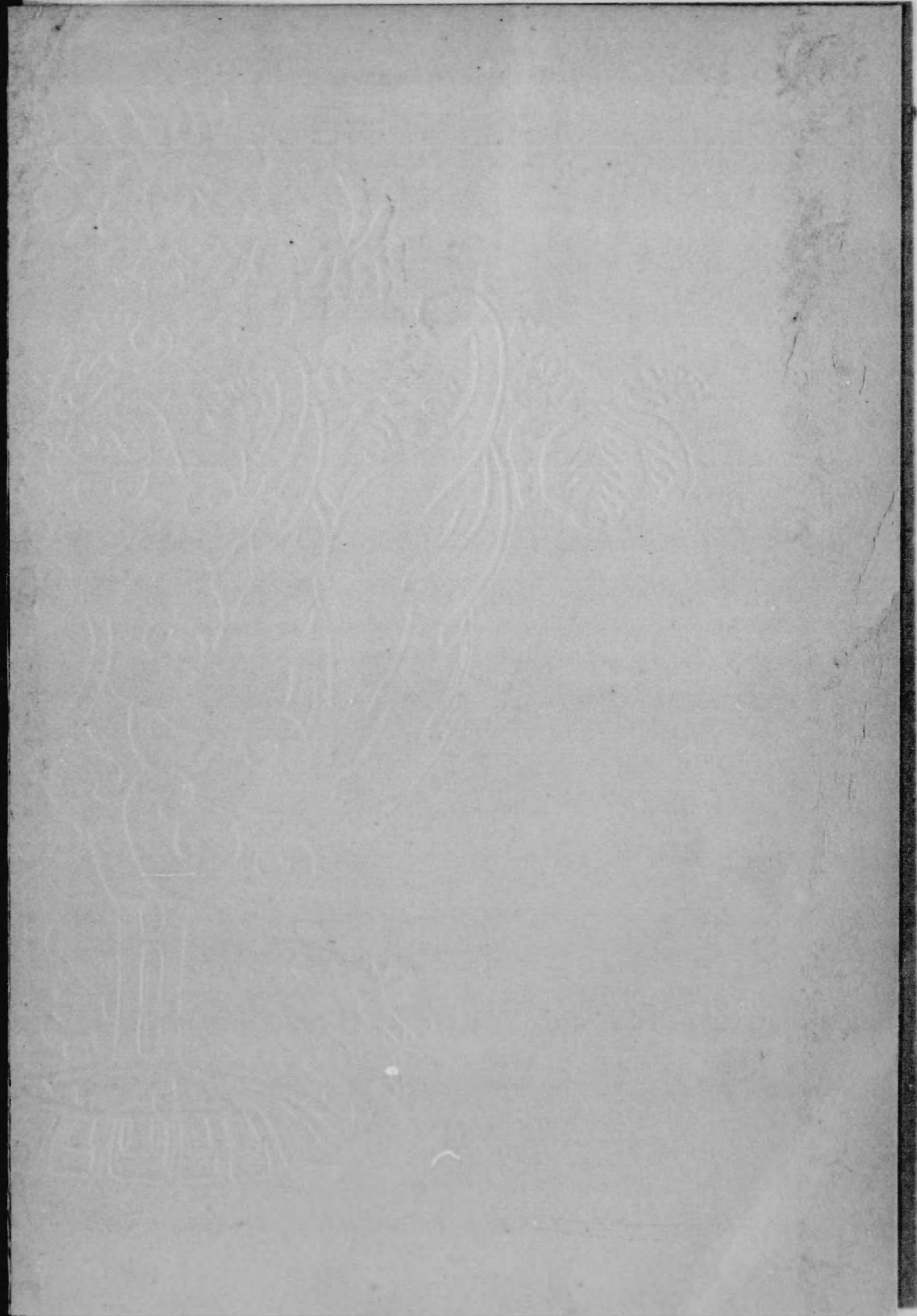
29 11 15

1-70-87

東京大正博覽會事務報告

上卷

東京大正博覽會總裁大勳位功二級載仁親王殿下



059-50



大正
5. 8. 18
内交

東京大五朝聖會縣縣大禮立也二縣辦二縣王強可



會保久
長田政
周



會宗
長像
政



士博學文長總查審
澄 謙 松 末 爵 子



長 奎
總 浦 查 清 審 爵 子
吾



局長 石橋 和



局長 平放 田武 二



理事 久保 義三 郎



理事 濱野 虎吉



理事 阿久 供王



理事 高橋 德太郎



事理
誠一 沖



事理
一雅橋舟



事理
吉順內竹



長部備警
吉卓崎川



長部備警
郎次松濱小



事主備警
郎三元野矢



長部二第査審
彦直木正



長部一第査審
治美所田



士博學農長部三第査審
直由在古



長部五第査審
助啓下



長部四第査審
實秀波松



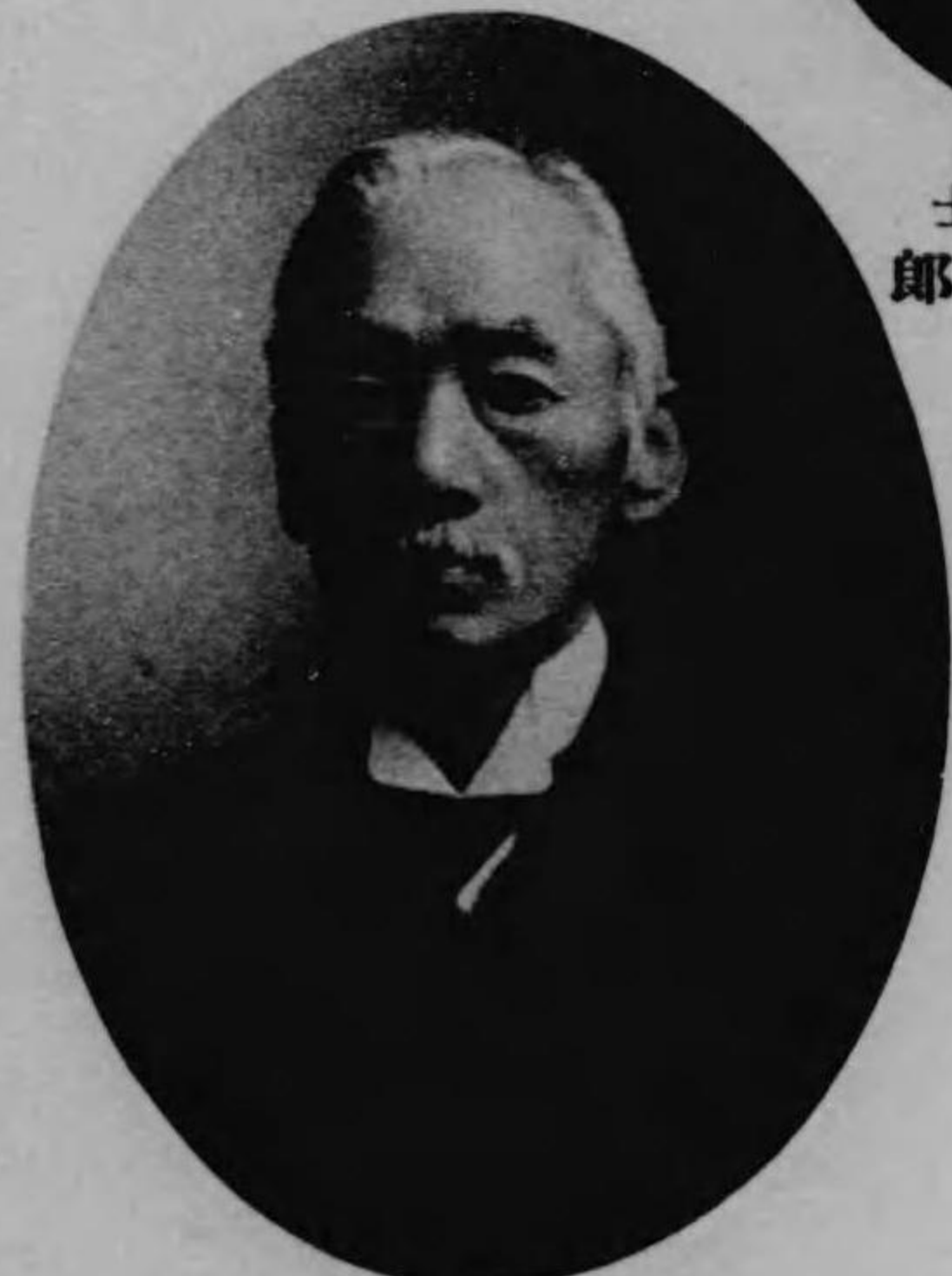
士博學工長部七第查審
渡 邊 渡



士博學藥長部六第查審
純 良 原 田



士博學工長部八第查審
郎 太 甚 山 高



長 部 十 第 查 審
一 精 島 手



士博學工長部九第查審
吉 豐 松 高



士博學工長部二十第査審
一 貞 田 坂



士博學工長部一十第査審
靖 本 塚



士博學工長部三十第査審
郎 五 虎 藤 近



長部匹馬査審
靖 敏 川 淺



長部四十第査審
太 一 橋 小

問 顧



錫野星



樹春脇山



浩部阿



稔田池



郎二精條中

問 顧



琢 野 股



道 兼 樂 安



正 守 井 武 爵 男

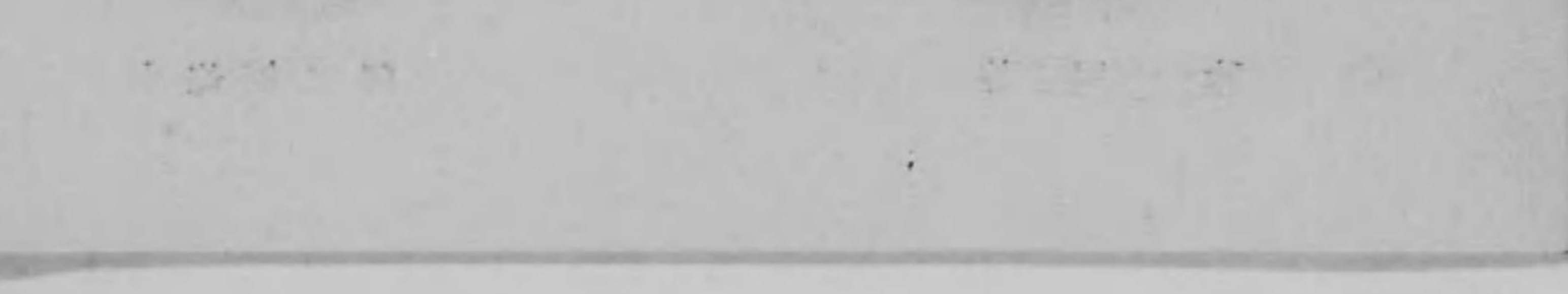


郎 太 辨 木 玉



信 盛 山 平

顧 問



問 顧



雄吉左見鶴



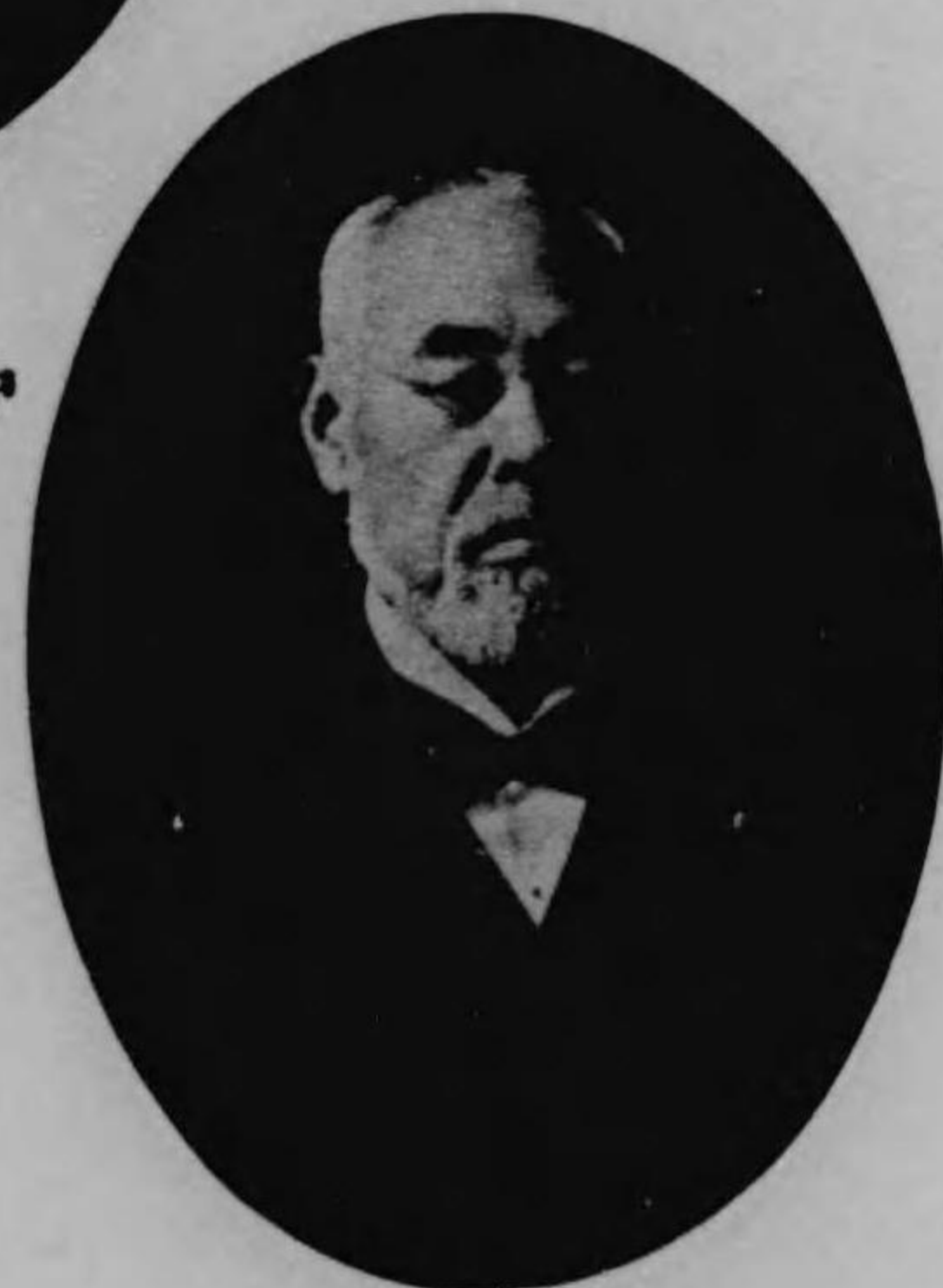
實 岡



士博學工
子初野中



敬久藤近



士博學醫
秀 宅 三

顧問



阪井徳太郎



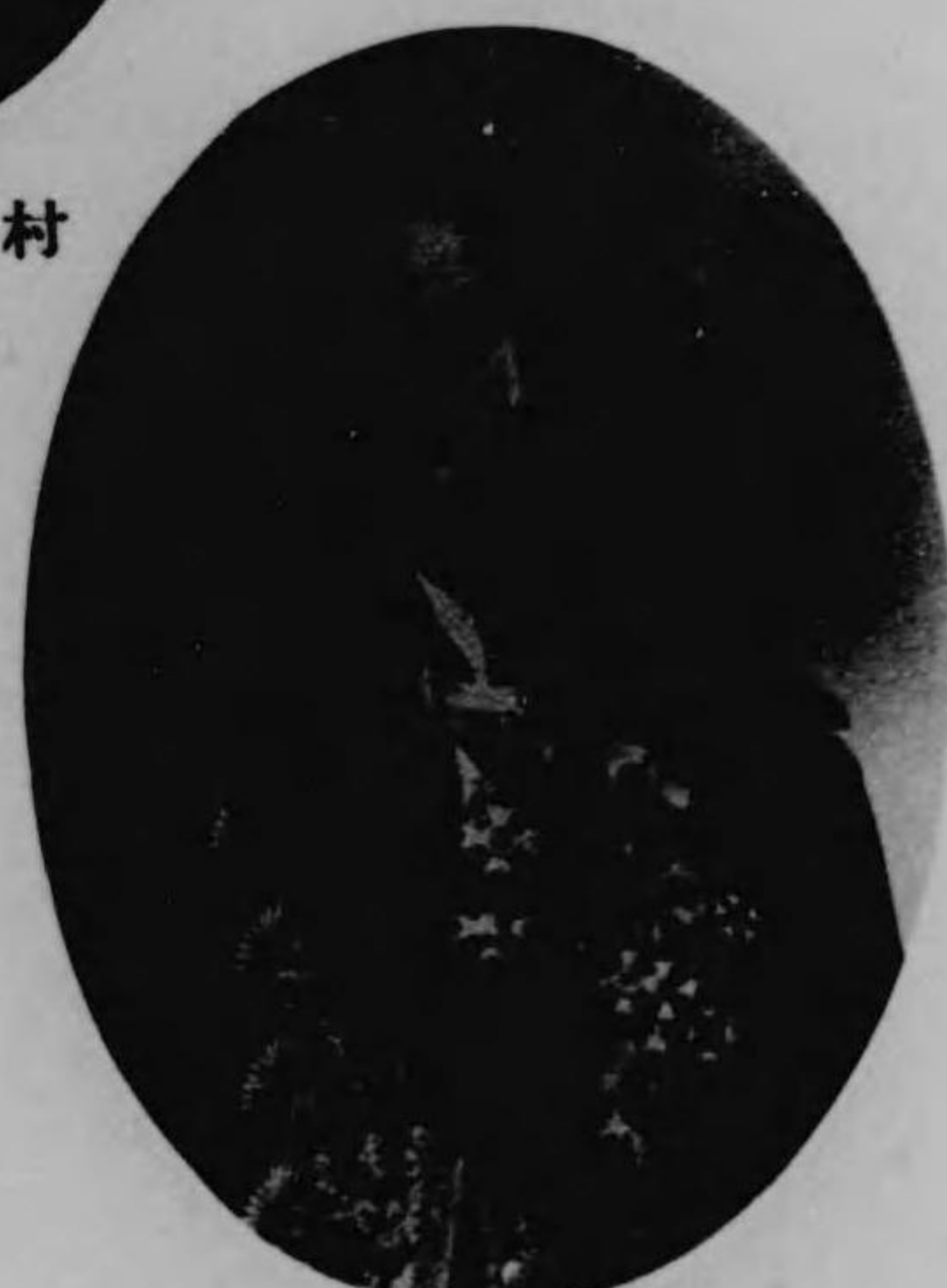
伊澤多喜男



村野常右衛門



高橋義信



吉田要作

顧問

顧問

顧問

顧問

顧問

顧問



長議會部部
衛兵喜澤相



長議會府
郎三架原杉



長議會部市
秦井酒

員 委



廣橋嘉七郎



松見文平



藤齋孝治



朝蔭玉次郎



成島菊四郎



小倉久兵衛

員 委



雄 彦 田 内



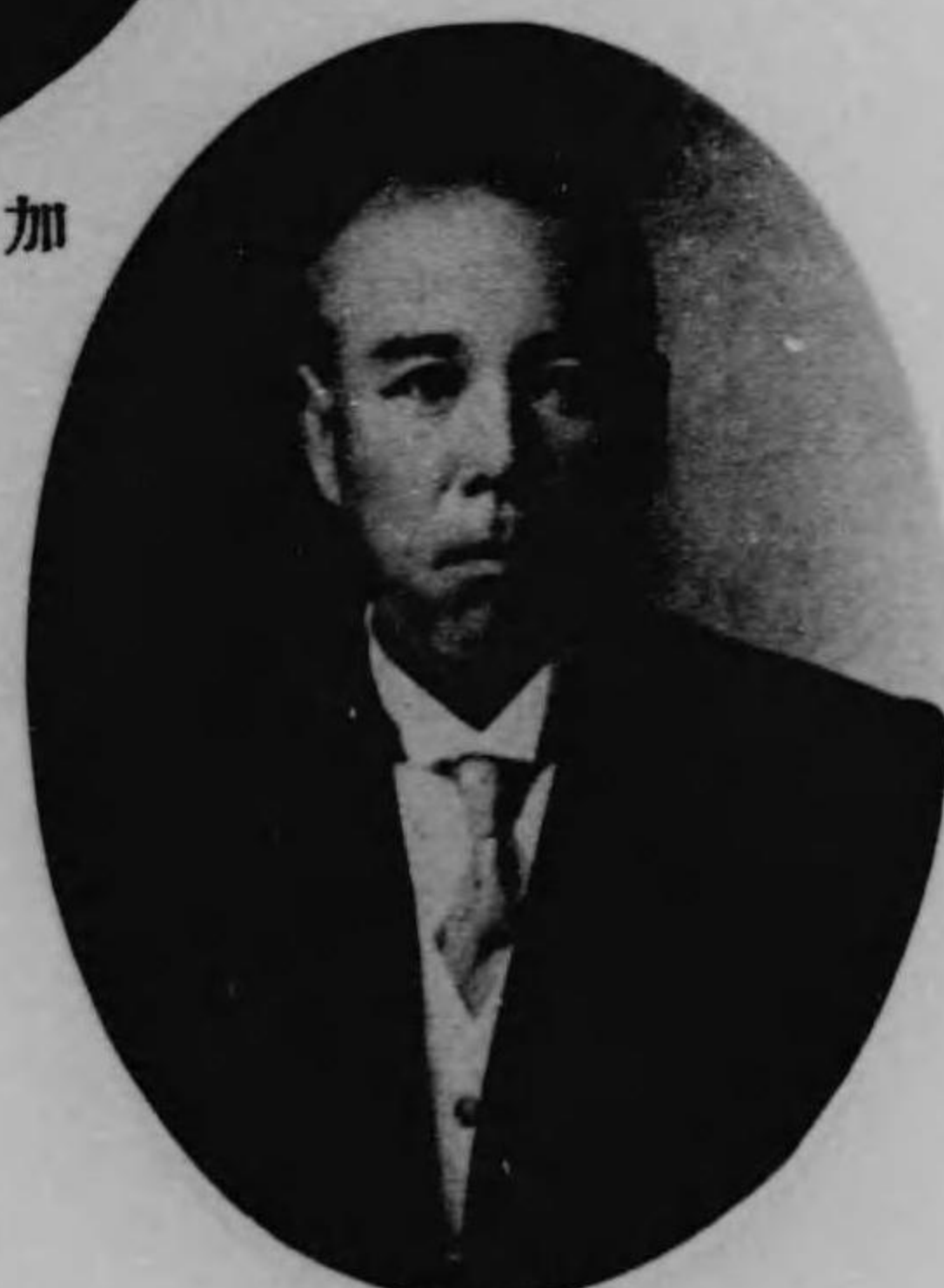
衛 兵 宗 木 鈴



吾 純 藤 加



吉 榮 塚 大



吉 新 尾 瀬

員 委



加藤三三郎



村田權次郎



曲木如長



小谷福平



苗村又右衛門



詫摩武彦

員 委



助 要 股 猪



厚 義 田 永



衛 兵 仁 塚 飯



一 太 良 世



助 廉 田 吉



洞 玄 井 大

員 委



高木信吉



岡本徳吉



田野辰五郎



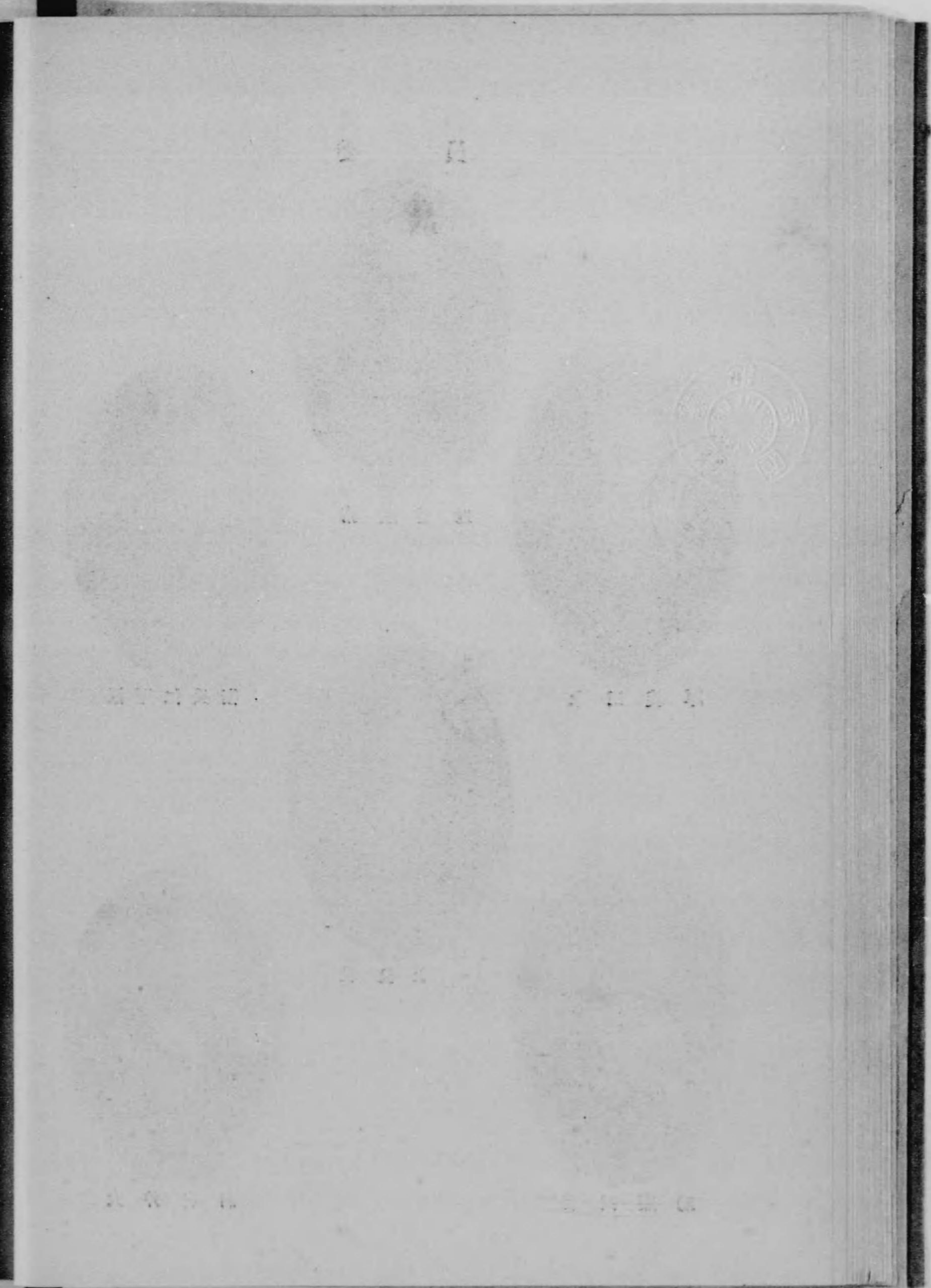
田本五郎吉



渡邊長次郎



中野豊作



員 委



伊藤 祐治



谷岡 慶治



村林 彦之



大木 金兵衛



井田 忠信

員 委



川口彌太郎



篠五郎作



佐々木東海



木庭榮



稻垣市兵衛



伊藤仁太郎

員 委



郎太芳井石



郎太福中田



吉清村松



郎次芳内照



郎三仁竹大



郎三金戸關

員 委

員 委

員 委

員 委

員 委

員 委

員 委



郎次寅原塚



治藤伊澤湯



郎太庄木青



文英岡鶴



六平崎木



利守島中

委 員

委員

委員

委員

委員



員 委



賢 政 澤 富



衛 兵 伊 沼 瀨



吉 政 藤 齊



七 喜 本 秋



門 衛 左 平 上 井

大正博覽會事務報告上卷目次

第一章 總叙	一
第二章 處務概要	一九
第三章 事務機關	二七
第一節 職制	二七
第二節 事務局	三二
第三節 府縣事務所	三三
第四章 博覽會ニ關スル通則	三五
第一節 博覽會規則	三五
第二節 出品部類目錄	五一
第五章 敷地及會場之配置	七九
第一節 敷地	七九
第二節 會場ノ配置	八五
第六章 工事	九二
第一節 起工及竣成	九二
第二節 第一會場建築物	九五

名譽門及智德塔.....九五

柱列瓦斯裝飾柱.....九六

正門.....九六

第一號及第二號工業館.....九六

第三號工業館.....九七

鑛山館及林業館.....九七

教育及學藝館.....九七

水產館.....九八

美術館.....九八

拓殖館.....九九

園藝館.....九九

小笠原及伊豆諸島館.....一〇〇

逓信省出品館.....一〇〇

噴水.....一〇〇

奏樂堂.....一〇一

動物舍.....一〇一

鳴禽舍.....一〇二

第三節 第二會場建築場

鳴禽舍.....一〇二

巢鴨病院出品館.....一〇二

事務局.....一〇三

審査所.....一〇三

救護所.....一〇三

郵便局及電話交換室.....一〇三

新聞縱覽所.....一〇三

公衆休憩所.....一〇四

第二會場建築場.....一〇四

正門.....一〇四

農業館.....一〇四

運輸館.....一〇四

染織館.....一〇四

染織別館.....一〇五

動力館.....一〇五

機械館.....一〇六

外國館.....一〇六

外國別館.....一〇六

噴水.....一〇六

奏樂堂.....一〇七

不忍池畔張出.....一〇八

第二郵便局、事務局分室、第二救護所.....一〇八

第四節 青山及芝浦建築物.....一〇八

 青山飛行場格納庫.....一〇八

 青山飛行場附屬建物.....一〇九

 芝浦飛行場格納庫.....一〇九

 芝浦飛行場滑走臺.....一〇九

 芝浦飛行場附屬建物.....一一〇

第五節 特別館.....一一〇

 朝鮮館.....一一〇

 樺太館.....一一〇

 東京館.....一一〇

 淺沼商會陳列館.....一一一

 後藤毛織物陳列館.....一一一

三輪及胡蝶園化粧品陳列館.....一一一

レイト化粧品陳列館.....一一一

巽畫會陳列館.....一一二

文展優勝者繪畫陳列館.....一一二

穴原商會陳列館.....一一三

宮崎縣木材陳列館.....一一三

大寶木材及茶室陳列所.....一一三

體育館.....一一三

臺灣館.....一一三

日華貿易館.....一一三

冷藏庫.....一一三

衛生館.....一一四

水難救濟會陳列館.....一一四

第六節 道路水道及下水.....一一五

 道路.....一一五

 水道.....一一六

 下水.....一一〇

- 第七節 建築費 二二一
- 第八節 建築裝飾 二二六
- 第九節 園藝裝飾 二二六
- 第七章 出品 二二六
- 第一節 出品ニ關スル規程 一六三
- 第一 出品人心得 一六三
- 第二 動物出品取扱規程 一六八
- 第三 出品事務取扱心得 一六九
- 第二節 出品其ノ他ニ關スル協議及注意 一七二
- 第三節 出品勸誘 一八五
- 第四節 出品鑑査 一九〇
- 其一 鑑査ニ關スル規定 一九〇
- 其二 鑑査 一九二
- 第五節 出品ノ査定及許可 二〇五
- 第六節 出品臺帳ノ整理 二〇九
- 第七節 出品統計 二一〇
- 其一 部別統計 二一〇

- 其二 府縣別統計 二二二
- 其三 官廳出品 二二五
- 第八節 出品ノ搬入及搬出 二二九
- 第九節 陳列 二四一
- 一 陳列概況 二四一
- 二 陳列順序 二四一
- 三 陳列面積及道路面積 二四一
- 四 各館出品ノ排列 二四三
- 館外特設館 二四四
- 館外陳列 二六九
- 第十節 外國館 二七三
- 一 出陳ニ關スル規定 二八三
- 二 出品ノ勸誘 二八三
- 三 出品ニ關スル統計 二九二
- 四 陳列面積ノ配當 二九二
- 五 出品ノ搬入及搬出 三〇一
- 六 陳列及運轉機械 三〇七

七 出品代理人及使用人……………三二五

八 賣約……………三一六

九 本館ノ陳列……………三三七

第十一節 原動力……………三三八

第十二節 出品看守人……………三六三

第十三節 出品ノ賣約及引渡……………三七六

 其一 賣約方法……………三七六

 其二 賣約證……………三七七

 其三 賣約引渡……………三七八

 其四 賣約點數及價格……………三七九

第八章 審査及調査……………三八三

 第一節 審査ニ關スル規定……………三八三

 第二節 審査ノ方針……………三九〇

 一 審査方針……………三九〇

 二 審査分掌……………三九二

 三 審査室ノ配置及設備……………四二九

 四 審査行程表……………四二九

五 審査庶務……………四四三

六 各種審査評點用紙……………四四四

第九章 褒賞及感謝狀……………四五九

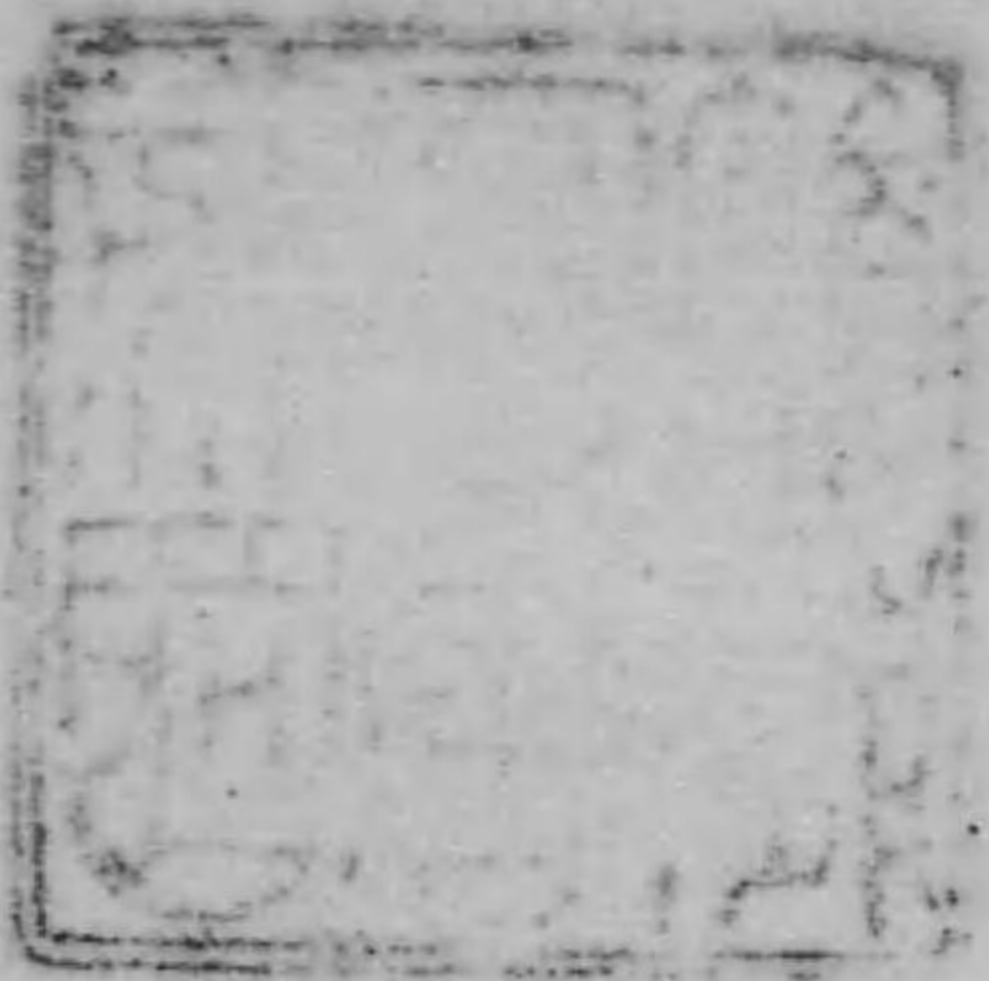
 第一節 賞牌及褒狀……………四五九

 第二節 賞牌圖案……………四五九

 第三節 褒賞統計……………四六一

 第四節 褒賞ニ關スル處務……………四七四

 第五節 感謝狀及記念章……………四七五



大正博覽會事務報告上卷

第一章 總叙

東京大正博覽會ノ開設ハ當年御舉行アラセラルヘカリシ御即位ヲ記念シ併セテ産業ノ發展ヲ鼓舞セントスルニアリキ惟フニ國運隆昌ノ基礎ハ主トシテ産業ノ振作文化ノ開發ニ存シ兩者相賴リ始メテ大正新時代ノ盛運ヲ期スヘシ茲ヲ以テ本府カ曠古ノ大典ヲ祝福スルニ方

本會ノ開設シ其ノ從來內國ニ開設セラレタルモノニ比シ會場ノ設備陳列裝飾ヨリ出品ノ内容ニ至ルマテ最モ整頓進歩セル點ニ於テ内外ノ稱贊ヲ博シ教育學術産業ノ各方向ニ互リ偉大ノ貢獻ヲナシ得タルノミナラス一府ノ主催ニシテ開院宮載仁親王殿下ヲ總裁ニ仰キ奉

リ殊ニ關會中

天皇陛下
皇太后陛下

ノ親臨ヲ辱ウシ

皇太子殿下皇族殿下ノ行啓及ヒ台臨ヲ仰クヲ得タルハ至大ノ光榮ニシテ府民ノ誠意天關ニ達シタルモノト云フヘク本會開設ノ舉眞ニ徒爾ナラサリシヲ喜フナリ今本會開設ニ至ルマテノ經過ノ大要ヲ記述スレハ左ノ如シ

明治四十一年十二月二十三日我カ東京府會ハ全會一致ノ決議ヲ以テ府下ニ一大博覽會ヲ開

設スヘキ意見書ヲ提出シ之ト相前後シテ美術家實業家團體モ夫々本府ニ建議スルトコロアリキ

二

曩ニ政府カ明治四十五年ヲ期シ日本大博覽會開設ノ計畫ヲ公表シ事務局ヲ置キ會長以下ノ役員ヲ任命シ其ノ他著々諸般ノ施設ヲ進捗スルヤ民間亦之ニ呼應シ製作工業家ハ奮テ出品ノ準備ニ著手シ其ノ他實業ニ關係アルモノハ孰レモ此ノ大規模ノ博覽會ニ辜負セザランコトヲ期シ經營慘憺苦心具サニ嘗メ產業界ハ頓ニ活氣ヲ加ヘタリ此ノ如キハ獨リ國內ニ止マラス贊同諸外國モ夫々準備ニ著手シ就中米國ノ如キハ大ニ其ノ歩ヲ進メ既ニ事務官長ヲ我邦ニ派遣シタルハ世ノ知悉スル所ナリ然ルニ計ラサリキ我政府ハ突然開會ヲ明治五十年ニ延期スル旨決定發表スルニ至ラントハ而シテ延期理由ノ當否ニ就テハ懷抱無キニアラサレトモ今ニ於テ陳辯ヲ費サスモ事徒爾ニ屬スルヲ以テ敢テ贅セス然レトモ延期ノ爲メニ活氣ヲ呈シタル實業界ハ急轉直下萎靡沈滞ノ極ニ達シ特ニ製作工業ノ如キハ殆ント瘡ユヘカラサルノ創傷ヲ被ラントス今ヤ戰後經營ノ初期ニ當リ疲倦セル國力ヲ挽回センニハ民力ノ充實ヲ計ルノ外無シ而シテ民力ノ充實ヲ企圖スルハ產業ノ發達興隆ヲ促スヲ急務トスヘキハ絮說ヲ須タサル所ナリ願フニ初ヨリ大博覽會開設ノ計畫無クンハ即チ止ム既ニ其ノ計畫ヲ公表シテ產業界ヲ興奮セシメ中途俄然トシテ延期ヲ宣言ス斯界カ反比例ニ銷沈ノ極ニ陥リシハ因ヨリ當然ノ理數ニ屬ス此ノ如キ病的情勢ノ下ニ衰況ニ沈淪セル產業界ヲ此ノ儘ニ放

擲センカ其ノ結果ノ頗ル寒心ニ値スヘキハ識者ヲ俟テ後知ル所ニアラサルナリ熟慮スルニ客年本府カ大博覽會ノ先驅トシテ東京勸業博覽會ヲ開催スルヤ其ノ成績ノ良好ナル從來ノ内國博覽會ニ讓ラス眞ニ先驅ノ實ヲ舉ケ得タルハ世ノ認ムル所ナリ若シ豫定ノ變更無ク四十五年ニ大博覽會ノ開設ヲ見ルヲ得ハ一層適切ニ證明シ得タルヘキヲ信スルナリ今ヤ產業界ノ衰頹ヲ挽回スル爲メ相當ノ救済策ヲ講セサルヘカラサルハ前續陳スル所ナルノミナラス殆ント輿論ノ認ムル所ナリ而シテ一面五十年ニ開カルヘキ大博覽會ニ對スル準備的博覽會ノ必要ニシテ有效ナルハ前記例證ノ示ス所ナリ現ニ八十餘團體ノ結合ニ成レル東京實業組合聯合會ノ決議ヲ以テ同會長ヨリ卑職ヘ宛熱切ナル希望ヲ建議シ來レリ抑モ本府ハ全國ノ首府トシテ他ノ尊崇ヲ受ケ其ノ一舉一動ハ常ニ他府縣ノ模範標的トナル故ニ本府タルモノ亦常ニ公益ニ率先シ首府タルノ名譽ニ背カサルノ用意ナカルヘカラス而シテ此際產業界ノ救済ト大博覽會準備トノ爲ニ近キ將來ニ於テ一ノ博覽會開催ヲ計畫スルハ實ニ刻下緊要ノ事ニ屬シ本府ノ公益ニ至大ノ關係アルノミナラス延テハ全國實業ノ衰運ヲ挽回シ以テ本府ノ實利面目ヲ保持スル所以タルヲ信スルナリ冀クハ充分ノ調査ヲ遂ケ適當ノ時期ヲ撰ミ博覽會開設ノ措置ヲ採ラレンコトヲ若シ夫レ他團體等ト聯合スルノ可否規模ノ程度等ニ至リテハ一ニ閣下ノ斷案ニ待ツヘキノミ

右本府會ノ決議ヲ以テ府縣制第四十四條ニ依リ意見及開陳候也

明治四十一年十二月二十六日

東京府會議長 杉原榮三郎

三

東京府知事 阿部 浩殿

四

戰後經營ノ第一著手トシテ明治四十五年ヲ期シ開設セラレヘキ日本大博覽會ヲ同五十年ニ延期セラレタルハ我商工業社會ニ對スル一大打撃ニシテ特ニ其開設地タル東京府民ノ直接痛痒ヲ感スル所ナリ因テ之カ善後策ヲ講スルハ刻下ノ急務タルヲ信ス曩ニ東京勸業博覽會ノ開設アルヤ工藝美術ノ進歩ヲ促シ實業界振作ノ一助タリシコトハ爭フヘカラサル事實ナリ故ニ今ヨリ兩三年ヲ期シ當府ニ於テ更ニ規模ノ大ナル勸業博覽會ヲ開設セラレンコト希望ニ堪ヘス茲ニ謹テ狀ヲ具シ建議仕候也

明治四十一年十一月十八日

東京實業組合聯合會會長 星野 錫

東京府知事 阿部 浩殿

明治十年兵馬倥傯ノ際ナルニ拘ハラス政府ハ産業藝術獎勵ノ爲ニ第一回内國勸業博覽會ヲ開催セラレ爾後五年目毎ニ開催スルノ制度ヲ立テラレシヨリ明治三十六年第五回内國勸業博覽會ヲ最終トシ明治四十五年ニ於テ規模ヲ擴大シ日本大博覽會開催ノ發表トナリタルヲ以テ三十六年ヨリ四十五年迄凡十箇年ノ間全ク開會ヲ見サルコトトナルヲ以テ東京府ハ明治四十年ヲ以テ大博覽會準備ノ爲メニ内國勸業博覽會ト殆ト同様ノ規模ヲ以テ東京博覽會

ヲ開催セシメタルニヨリ明治十年ヨリ明治四十年迄三十箇年間ニ六回ノ博覽會ヲ開催シ來レリ即チ明治十年以來五箇年毎ニ一回ノ博覽會ヲ開催シ來リシニ本年ニ至リ日本大博覽會ハ明治五十年迄延期セラレタルニヨリ今ヨリ凡十箇年間ハ全ク産業藝術進歩ノ情況ヲ公表スルノ機會ヲ失フコトトナリ獎勵上一大頓挫ヲ來スコトアルヘク且大博覽會ノ爲メニ多少準備シタルモノヲモ延期ノ爲メニ沮喪セシムルコトトナリ其結果憂慮ニ堪ヘサルモノアリ依テ東京博覽會ノ例ニ倣ヒ明治五十年ニ至ル中間ニ於テ成ルヘク兩三年間ニ内國勸業博覽會ノ規模ヲ以テ第二回東京博覽會ヲ開催セラレンコトヲ希望ニ堪ヘス茲ニ及建議候也

明治四十一年十一月二十七日

國華俱樂部幹事

鹽田 眞 正木 眞彦 田口 米舩

藤井 祐敬 杉崎 秀明 小原 大衛

東京府知事 阿部 浩殿

百般ノ藝術日ニ進ミ工業ノ製作月ニ新タナル時ニ方リ之カ獎勵振興ノ策ヲ講スルハ管ニ其道ノ爲メノミナラス國運發展ノ上ヨリ見ルモ最モ緊要ノコトタリ是ヲ以テ本會ハ金工一般ノ技術家及ヒ之ニ關スル製作工業家ヲ以テ會員トシ從來毎年一回ツ、金工ニ屬スル作品ヲ蒐メ競技會ヲ催シテ其ノ出品ヲ審査シ優等者ニハ相當ノ褒賞ヲ與ヘ以テ作家ノ獎勵トス

五

道ノ振興ヲ圖ルニ努ムト雖モ之レ唯私設ノ企畫ニシテ會員相互ノ製作ト其研究ノ成績トヲ發表スルニ過キス蓋シ廣ク作家ノ手腕ヲ示シ又大ニ之カ獎勵ノ實ヲ舉ケンニハ堂々タル公設博覽會ニ如クハナシ故ニ嚮ニ明治四十五年ニ於テ日本大博覽會ノ開設計畫アルヤ本會員一致協力シ奮テ其作品ヲ出陳シ以テ手腕ヲ示シ得ルヲ喜ヒ日夜經營シテ翹望待ツ所アリシモ遂ニ明治五十年ニ延期セラレハニ至リタルハ會員一同ノ深ク遺憾トスル所ナリ事已ニ茲ニ至リテハ今ニシテ又如何トモスル能ハスト雖モ退テ日本大博覽會ノ開設ヲ俟タンカ將來尙十年ノ日子ヲ要スルヲ以テ作家ノ意氣ハ漸次沮喪シ又獎勵上ノ頓挫ヲ來スハ火ヲ賭ルヨリ明ラカナルノミナラス此ノ儘ニセハ此ノ方面ニ於ケル經濟ノ沈滞ヲ増シ前途甚タ憂フヘキモノアリ茲ニ於テカ本會員一同ハ屢々協議ヲ遂ケタル結果先年東京府ニ於テ開カレタル如ク本邦ノ首府タル東京ニ於テ博覽會ヲ企劃セラレ來ル明治五十年マテノ中間タル明治四十五年頃ヲ期シテ之ヲ開設セラレ以テ如上ノ情勢ヲ救ハレンコトヲ切望シテ止マサルナリ思フニ公設博覽會ノ影響スル所ノ大ナルヤ實ニ前述ノ如キモノアルヲ以テ希クハ此際ニ於テ本會員ノ切望スル博覽會開設ノ企畫ヲ立テラレ以テ廣ク作家ノ期待ヲ滿シテ其ノ意氣ヲ鼓舞シ其技ヲ示スコトヲ得セシメハ斯道獎勵振興ノ上ニ效果ノ顯著ナルモノアルノミナラス又此方面ニ於ケル經濟界ノ沈滞ヲ救フ上ニ於テモ至大ナル裨益アルヘキヲ信ス

右本會員一同ノ熱望ニ由リ茲ニ建議致候也

明治四十一年十一月二十八日

日本金工協會會員總代

- 田口米舫 中村作次郎 山崎龜吉
- 塚田秀鏡 太田政親 黒川榮勝
- 平田宗幸 香取秀真 宮本勝
- 江澤金五郎 安藤重兵衛 海老原章次
- 大西榮輔 高村新一郎

東京府知事 阿部 浩殿

來ル明治四十四年ヲ期シ東京府市聯關シテ博覽會開催ノ計畫アルヲ聞ク是レ寔ニ東京府下ニ於ケル産業ノ發達ヲ促シ旁ラ經濟界ノ沈淪ヲ救フノ策トシテ最モ機宜ニ適セル處置ナリト信ス惟フニ賢明ナル府市兩當事者熱誠以テ局ニ膺ル其ノ實行ヲ見ル何ノ疑フ所カ之レアラシク因テ我々同志者ハ一日モ速ニ其ノ成立ヲ期シ作家ヲシテ十分會心ノ作品ヲ出陳スルノ準備ヲナサシメンコトヲ希望ス

明治四十二年四月十六日

第四回美術家大懇親會委員

東京府知事 阿部 浩殿

然ルニ機未タ到ラス偶大正元年十一月東京商業會議所ハ經濟界ノ狀況痛ク不況ヲ呈スルヲ

憂ヒ大正三年 今上陛下御即位式ノ交ヲ期シ大博覽會開設決定ノ件ヲ本府ニ建議セリ

去ル明治三十八年本會議所ハ日露戰役後産業振興策施設ノ先鋒トシテ世界的大博覽會ノ開設アランコトヲ政府ニ建議致候處政府ハ明治四十五年ヲ期シ大博覽會ヲ開設スヘク公表セラレシニモ拘ハラヌ更ニ之ヲ明治五十年ニ延期シ更ニ又無期延期ノ運命ニ終ラシメタルハ畢竟財政上ノ都合トハ申シ乍ラ産業振興上必要ノ事柄ヲモ斯克度外ニ付セラル、如キハ一般當業者ノ遺憾止ム能ハサル儀ニ御座候

今ヤ我國經濟界ノ狀況ハ痛ク不況ヲ呈シ一般ノ實業ハ増々萎靡困頓ニ陥リ人心甚タシク悲觀ニ沈ム有様ニ有之候此ノ場合ニ至リテハ彌々産業獎勵ノ必要ニシテ最モ急務タルヲ深ク感スル次第ニ御座候

此時ニ際シ我カ東京府ハ來ル大正三年 今上陛下御即位式大典御舉行ノ時季ヲ期シ博覽會ヲ開設セラレントスルノ計畫アルヲ承ル是レ洵ニ時宜ヲ得タルモノト信シ申候思フニ國民カ奮起勉勵産業發展ノ熱心ヲ捧ケテ奉祝ノ誠誼ヲ表スルハ最モ優良ナル方法タルノミナラス其ノ效果ハ必ズ國家産業ノ隆盛ニ資スルモノ多大ナルヘキヲ信シテ疑ハサル所ニ御座候

爰ニ於テ本會議所ハ總會一致ノ決議ヲ以テ博覽會開設ノ希望ヲ表スルト同時ニ大ニ協贊ノ實ヲ舉クルニ勉メント期スルモノニ御座候冀クハ該博覽會開設ノ議ヲ速ニ決定公表セラレ

ンコトヲ此段建議致候也

大正元年十一月五日

東京商業會議所會頭 中野 武 啓

東京府知事 阿 部 浩 殿

次テ博覽會協會東京實業組合聯合會東京勸業協會日本美術協會國華俱樂部東京鑄金會日本金工協會及東京彫工會モ亦孰レモ府民カ大典奉祝ノ誠意ヲ表ス方法トシテハ大規模ノ博覽會ヲ開設シ我カ文化ノ現況ヲ廣ク天下ニ展示スルニ若カス而シテ其ノ開設カ美術教育學術産業其他ニ大ナル刺戟ト活力トヲ與ヘ比年沈衰シタル景氣ヲ挽回スルノ動機タラサルハ無キヲ唱導シ夫々本府ニ建議書ヲ提出セリ

來ル大正三年ハ桑港ニ於テ開催セラル、巴奈馬太平洋博覽會開會ノ前年ニシテ同博覽會ヘ我カ精良ナル美術工藝品其他諸般ノ物產ヲ出陳スルト否トハ日米貿易並ニ國交上多大ノ關係有之從テ我ガ當業者ハ其ノ製品ヲ一堂ニ集メ各自其ノ優劣長短ヲ比較研究シ參考ニ資スルノ必要有之候折柄同年御府ニ於テ東京勸業博覽會開催ノ御計劃有之候趣傳承甚タ時宜ニ適シタル御計劃ト奉存候

加フルニ同年ハ

今上天皇陛下御即位ノ大典ヲ被爲舉哉ニ拜承仕候果シテ同年大典御舉行被遊候ハ、右ノ御

十
計劃ハ奉祝ノ一端トモ相成且ツ實業ノ發展ヲ促シ産業興隆ノ御聖旨ニモ相叶候コトト認メ候ニ付從來ノモノニ比シ稍大規模ナル東京勸業博覽會ヲ同年御開催相成候様御詮議相成度此段及建議候也

大正元年十月二十五日

東京府知事 阿部 浩殿
博覽會協會會長 子爵 大浦 兼武

大正三年

今上天皇陛下御即位ノ大典ヲ被爲舉哉ニ拜承仕候國家ノ慶事不可有此上我等臣民タルモノ日夜奉祝ノ誠意ヲ致ス所以ノ道ヲ講シ居候次第ニ有之候然ルニ我等實業家ノ意見トシテハ奉祝ノ道ハ多々可有之ト雖モ同年ヲ期シ記念博覽會ヲ開催スルハ最モ適良ノ盛舉ニシテ而モ奉祝ノ誠意ヲ表シ得レハ實業ノ發展ヲ促シ貿易ノ進路ヲ啓發シ産業興隆ノ御聖旨ニモ相叶ヒ候義ニ付之ヲ措テ他ニ優良ナル奉祝ノ道無之ト奉存候間右主旨御酌量ノ上大正三年ニ於テ大典記念トシテ勸業博覽會御開設ノ御詮議相成度此段本會ノ決議ヲ以テ及建議候也
大正三年十月十六日

東京府知事 阿部 浩殿
東京實業組合聯合會會長 星野 錫

商工業ノ進歩發達ヲ計リ外國貿易ノ發展ヲ助長スルノ手段一ニシテ足ラスト雖モ斯種ノ博覽會ヲ開催シテ之カ進歩發展ニ資スルハ最良ノ策タル事茲ニ喋々ヲ要セサル儀ニシテ之カ爲メニ各國採ル所ノ手段亦此ノ途ニ出テ候ハ普ク熟知セル所ニ有之候而シテ來ル大正四年ニハ米國桑港ニ於テ巴奈馬運河開通記念ノ名ノ下ニ如上目的ヲ以テ博覽會開催ノ趣ニテ同會ニハ本邦ヨリノ出品者モ尠ナカラサル儀ニ有之候就テハ是等出品準備ノ必要モ有之旁々大正三年ニ於テ好季節ヲ選ミ御府御主催ノ下ニ一大博覽會ヲ開催シテ斯業ノ發達ニ資セラレ併セテ桑博出品者ニ準備ノ利便御與ヘ相成候ハ、彼此共ニ利スル所尠少ナラスト存候間何卒右御採用相成候様仕度此段及建議候也

大正元年十月二十六日

東京勸業協會副會頭 男爵 武井 守正
同 平山 成信
東京府知事 阿部 浩殿

先般政府ニ於テ日本大博覽會ノ開設ヲ中止セラレシハ最モ遺憾トスル所ナリ是財政上ノ理由ニ基クモノニシテ又已ムヲ得スト云フヘキモ美術工藝ノ獎勵上一大博覽會ヲ開設スルノ必要ナルハ言ヲ俟タサル所ナレハ東京府市ノ事業トシ來ル大正三年ヲ以テ之ヲ東京ニ開設

セラレンコト切望ノ至リニ堪ヘス謹テ及建議候也

大正三年十月二十五日

東京府知事 阿部 浩殿 日本美術協會會頭 伯爵土方 久元

東京府下在住ノ美術家美術工藝家工業家ノ團體ナル國華俱樂部臨時總會ノ決議ニ基キ東京府主催ノ下ニ第二回東京博覽會ヲ最近適當ノ時期ニ於テ東京市ニ開催セラレンコトヲ建議ス

美術美術工藝及製作工業ハ我東京府ノ主要ナル生産ニシテ其消長ハ宜ニ全府ノ盛衰ニ繫ル所至大ナルモノアルカ故ニ常ニ之カ振作獎勵ノ途ヲ講セサルヘカラサルハ固ヨリ言フヲ埃タス而シテ振作獎勵ノ途ハ多々アルヘシト雖モ時ニ應シテ博覽會ヲ開催シテ當業者ニ刺戟ヲ與ヘ且一般社會ヲシテ技術及製作ノ進歩ノ程度ヲ周知セシムルヲ以テ最も有效ナル方策トス我政府明治十年第一回内國勸業博覽會ヲ開催セラレテヨリ明治三十六年第五回ヲ大阪ニ開催セラレタルマテ凡ソ五年乃至七年間毎ニ一回ノ開催ヲ見タリシカ政府カ從來ノ慣例ヲ改メ日本大博覽會ヲ明治四十五年ニ開催ノ事ヲ發表セラレタルニ依リ明治三十六年ヨリ四十五年マテ十箇年ノ久シキニ互リテ博覽會ノ開催ヲ見サルコトトナルヲ以テ東京府ハ明治四十年ニ於テ内國勸業博覽會ノ規模ヲ以テ第一回東京博覽會ヲ開催セラレタリ其ノ本府

全般ニ及ホセル生産上ノ效果ノ多大ナリシハ當業者ノ今ニ感謝スル所ナリ然ルニ政府ハ明治四十五年ニ開催セラレヘキ日本大博覽會ヲ明治五十年ニ延期ノコトヲ發表セラレテヨリ國民一般ハ其ノ準備ニ汲々タリシニ昨年末ニ至リ俄然無期延期ヲ發表セラレ之カ爲メ一般技術界工業界ノ沮喪甚ク延テ市況ノ沈衰トナリ勸業施設ノ不振ヲ歎スルノ聲ヲ聞クニ至レリ仰キ願ハクハ東京府ハ明治四十年ノ先蹤ヲ追ヒ最近適當ノ時期ニ於テ第二回東京博覽會ヲ開催シテ本府主要ナル生産ノ爲メニ此際ニ處スル應急ノ策ヲ講セラレンコトハ本俱樂部員等ノ熱心ニ希望スル所ナリ是レ恐ラクハ本俱樂部等ノミノ希望ニ止マラス本府民ノ輿望ナルヘキハ信シテ疑ハサル所ナリ此議幸ニ採納ヲ給ハリ博覽會開催ノ曉ニハ本俱樂部員等擧ケテ其ノ成功ヲ翼賛スルコトニ就キテハ固ヨリ微力ヲ惜マサルヘシ謹テ建議ス

明治四十五年二月十日

國華俱樂部總代

藤井祐敬 前田健次郎 高村光雲
山本松之助 佐瀬得三 由井彦太郎
正木直彦

東京府知事 阿部 浩殿

曩ニ政府日本大博覽會ノ開設ヲ企劃セラレ、ヤ我美術及美術工藝界ハ奮テ其ノ出品ノ製作

ニ志シ銳意本邦特有ノ技能ヲ發揮センコトヲ期シタルヲ圖ラサリキ無期延期トナリテ爾來
意氣漸ク銷沈ノ狀アリ商工業ニ至リテハ更ニ不振ノ甚タシキヲ見ル此時ニ方リ貴府ニ於テ
來ル大正三年ヲ期シ東京博覽會開催ノ儀アリト聞ク定ニ機宜ニ適シタル計畫ニシテ暗夜ニ
燈光ヲ望ムノ感アリ本俱樂部ハ切實ニ是カ實行ヲ希望シ速カニ確定發表アラシコトヲ度而
稟請ス

大正元年十月二十五日

國華俱樂部代表者

幹事 正木 直彦

外二十九名

東京府知事 阿部 浩殿

我カ鑄金會ハ明治四十三年始メテ展覽會ヲ開キ爾來年々繼續シテ本年十月即チ現下第五回
展覽會開設中ナリ年々開會中ニハ 行幸啓ヲ辱ウシ又ハ侍從職御差遣アラセラレ隨テ陳列
品御買上ノ榮ヲ蒙リタルコト數回會員之カ爲メ益々奮勵斯業ニカメ比年暇々トシテ隆盛ニ
向ハントス於茲來ル大正三年ヲ期シ當府下ニ於テ大博覽會ヲ開催セラレン事ヲ希望ス之レ
各科技能ノ進捗ヲ圖ル一大捷徑ナリトス謹テ茲ニ建議ス

大正三年十月

東京鑄金會會員總代

幹事長 藤井 祐敬

幹事 岡崎 雪聲 大嶋 如雲

香取 秀真 野上 龍起

大賀房次郎 松原 如方

高橋 凌雲

東京府知事 阿部 浩殿

本會ハ本邦金工一般ノ作家及ヒ之ニ關スル製作工業家ヲ會員トシ從來毎年一回ツ、金工業
ニ關スル作品ヲ蒐集シ競技會ヲ開催シテ其ノ出品ノ優劣ヲ審査考定シ之ニ擬賞シテ技術家
及製作工業家ノ進歩發達ヲ促シ斯道ノ振興ヲ計リ國運發展ノ爲メニ聊カ努力罷在候ヘトモ
之レ翅ニ私設ノ企畫ニシテ會員相互ノ製作ト其ノ研究ノ業績トヲ發表スルニ過キサレ而已
凡ソ優良ナル製作品ヲ網羅シテ鼓舞振興ノ實ヲ舉ケ以テ一般國運ノ隆盛ヲ招クモノハ蓋シ
堂々タル公設博覽會ニ如クモノ無之候故ニ曩時明治四十五年ニ於テ日本大博覽會ノ開設計
畫アルヤ本會員ハ一致協力シ作家ハ其ノ技能ノ發揮ヲ製作工業家ハ發展ノ效果ヲ示サンコ
トヲ喜ヒ日夜經營待ツ所アリシニ明治五十年ニ延期トナリ次クニ無期休止セララル、ニ至リ
本會員一同ノ意氣漸次消沈シ進歩發達ノ事亦一頓挫ヲ來スニ至リ候特ニ 明治天皇ノ大喪

ニ遇ヒ會員一同ハ國民ノ至情敬悼悲沈ノ極一層ノ元氣ノ沮喪シ日ニ困難ヲ窮ムルノ情況ニシテ焦慮ニ堪ヘサル儀ニ御座候茲ニ會員一同ハ慎重協議ノ結果來ル大正三年ハ畏クモ今上天皇陛下御即位式大典ヲ被爲行事仄ニ拜聞仕候既ニ京都府或ハ大阪府ニ於テハ大典ノ時ヲ期シ奉祝記念博覽會企畫ノ風聞ニ接シ申候希クハ本府ニ於テモ大典奉祝記念ノ爲メ本市ニ奉祝記念大博覽會ヲ開設シ府民ノ至誠ヲ表シ延テ公設博覽會ノ裨益ニ影響スル斯道ノ作家ニ其ノ技能ヲ製作工業家ニ其ノ製產品ヲ廣ク天下ニ甄表スルコトヲ得セシメ以テ今ヤ沈滞ヲ極メツ、アル氣勢ヲ鼓舞シ牽テ經濟界不振ノ情勢ヲ救ハレンコトヲ此段請願仕候也

大正三年十月二十五日

日本金工協會

會員總代幹事長 田口米舩

東京府知事 阿部浩殿

近年物價騰貴ノ劇甚ナルニ隨ヒ商工業界一般ノ不振ヲ來シ時ニ小波瀾ハアルモ概シテ萎靡沈衰ノ情況ニ赴キ同人等深ク憂悞スルモ施スヘキノ方法無ク在昔今日ニ至レルニ不慮ニシテ御大喪ニ遇ヒ人意ハ全ク悲痛哀悼ノ一途ニ傾キ益々人氣沮喪ノ深淵ニ沈淪セリ熟ラ往事ヲ追懷スルニ

先帝ハ夙ニ商工業美術等ノ發展ニ 叡慮ヲ注カセ給ヒ各展覽會共進會競技會ニハ必ス侍從ノ御差遣ヲ命セラレ御用品等ノ恩命ヲ下シ給ヘリ
今上陛下モ亦屢々各會ニ行幸アラセラレ御獎勵ノ 叡慮深ク渡ラセラル、儀ハ同人等ノ常ニ感佩スルトコロナリ此ノ 叡慮ノ御趣旨ヲ考フルモ商工業美術等ノ沈衰甚シキ時ニ當リ袖手傍觀シテ爲ス所ナキハ臣民ノ素志ニアラス特ニ來ル大正四年ニハ米國桑港ニ大博覽會ノ開クルアリテ我邦商工業者美術家モ奮テ出品スヘキ義務ヲ有スルニ今日ノ狀態ヨリ推考スレハ好結果ヲ得ルハ甚タ至難ノ事ト思量セラル然ラハ一日モ猶豫セス是カ挽回策ヲ講スルハ急務中ノ急務ト云ハサルヲ得ス而シテ其方法ハ葢穀ノ下ニ一大博覽會ヲ開設シ沮喪セル人氣ヲ興起發奮セシムルノ外良策ナシト思考ス若シ此趣旨御採用アラセラル、ニ於テハ之カ準備期間ヲ本年ヨリ始メテ大正二年一ケ年トシ御大喪期滿了ノ後大正三年中ノ好時季ヲ擇ヒ適當ノ地ヲ相シテ本府主催ノ大博覽會ヲ開設アランコトヲ希望ニ堪ヘス 是單ニ同人等ノ歡喜ニ止マラス一般商工業者美術家ノ悦ヒ知ルヘキナリ某等ノ監理スル東京彫工會々員ノ如キモ屢々此議ヲ唱ヘテ訴フルコト頻リナルニ因リ其ノ企望ヲ諒トシ茲ニ本府大博覽會開設ノ御詮議アランコトヲ懇請建議仕候也

大正元年十月二十四日

東京彫工會々員總代

理事 藤井祐敬 高村光雲 島本徳兵衛

石川光明 平山英三 海野勝珉
前田健次郎 金田兼次郎 野村宗十郎

東京府知事 阿部 浩殿

茲ニ於テ本府ハ建白ノ旨ヲ諒トシ博覽會開設ノ計劃ヲ定メ收支豫算案ヲ編製シテ大正元年十二月府會ノ決議ヲ經タリ即チ大正二年度及ヒ三年度繼續事業トシテ必要ナル準備ニ著手シ大正三年三月二十日開會式ヲ舉ケ同年七月三十一日之ヲ閉ツ而シテ贊同セルモノ一道二府四十三縣朝鮮臺灣關東州樺太ニ及ヒ訂盟各國ヨリモ亦壯大ナル出品アリ敷地總面積十萬三千坪建築坪數一萬六千出品人員六萬五千出品點數十六萬ニ達シ大正劈頭ノ文華悉ク鍾ルノ盛觀ヲ呈シ觀覽人員實ニ七百五十萬ヲ算セリ蓋シ未曾有ノ盛事トス

第二章 處務概要

本會事務中其ノ重要ナルモノハ率テ委員會或ハ顧問會ニ諮問シ其ノ決議ヲ經テ夫々施行セリ即チ是等決議項目ヲ舉クレハ本會處務ノ大要ヲ知ルニ足ルヲ以テ左ニ之ヲ掲ク

月日	件名	月日	件名
大正二年 一月二十二日	第二回東京勸業博覽會準備ノ爲メ追加豫算ノ件 府會正副議長市郡部會議長及府參事會員ニ準備委員囑託ノ件 各省大臣へ博覽會開設ノ義ヲ届出テ各種ノ便宜ヲ與ヘラレンコトヲ請フコト 會場敷地借入方交渉ノ件 博覽會規則及部類目錄編纂ノ爲メ各專門家へ調査方囑託ノ件 會場敷地ヲ確定シタルトキハ施設物ノ配置圖ヲ作ルコト 規則出品部類目錄及配置圖ノ成リタルトキハ吏員ヲ各府縣ニ派シ參同ヲ求ムル件 全國各地ニ廣告札ヲ頒ツコト 博覽會職制ニ關スル件 部類目錄ニ關スル件 準備吏員囑託任命ノ件報告	二月六日	博覽會繼續豫算許可ノ件報告 上野公園借入ニ付博物館總長ト交渉願末報告ノ件 博覽會職制ノ件 博覽會開設ニ付臺灣總督關東都督朝鮮總督其他府縣長官ニ贊同ヲ求ムル件 博覽會名稱變更ノ件 博覽會規則ノ件 附會名決定
一月三十日	全國各地ニ廣告札ヲ頒ツコト 博覽會職制ニ關スル件 部類目錄ニ關スル件	五月十日	池之端勸業協會建物ノ件 池之端勸業協會裏會場建増ニ付丸新移轉料ノ件 建築入札者資格ニ關スル件 建築事務所上野移轉ノ件 帝室博物館長提出上野公園貸與條件ニ關スル件 即賣店規則ニ關スル件
二月五日	準備吏員囑託任命ノ件報告	五月三十日	池之端勸業協會裏會場建増ニ付丸新移轉料ノ件 建築入札者資格ニ關スル件 建築事務所上野移轉ノ件 帝室博物館長提出上野公園貸與條件ニ關スル件 即賣店規則ニ關スル件

三月三十日	衛生事項監督ノ件 青山會場商人限定ノ件 場内道路ニ關スル件 興行物監督ニ關スル件 看守人取締ノ件 博覽會ニ於テ許可ヲ與ヘタル興行物ニ對シテ府稅ヲ課セサルコト 飛行場完成ニ要スル追加經費ノ件 同興行物飲食店出願期限ニ關スル件 第一回福引舉行日ニ關スル件 皇太后陛下御全癒ノ上ハ一大祝賀會ヲ催スル件
四月一日	夜間開場ニ關スル件 團體休憩所設置ノ件 子守人及ヒ臨時用達人營業願ニ關スル件 場内飲食店出願正門以外箱車出入ニ關スル件
四月三日	場内體量器設置許可ノ件 怪獸興行願許可ノ件 場内團體休憩所三箇所建設ノ件 望遠臺建設不許可ノ件 優待券贈呈範圍ニ關スル件 鐵道院職工入場料十錢宛ノ件 救護所所在ヲ周知セシムル立札ノ件
四月六日	
四月九日	皇太后陛下御重患ニ付本日演藝場ヲ休止シ場内興行ヲ御遠慮申上ケシメ且夜間開場見合セノ件
四月十日	皇太后陛下ノ御容體ニ關シ十一日休場ノ外最モ靜肅ヲ旨トシ開場スルコト 興行物休場ハ一般市中ノモノニ準スヘキコト 演藝場ハ當分休場ノコト 右決議ス
四月十三日	博覽會ハ一層靜肅ヲ期シ縱覽セシムルト同時ニ高尚優美ノ設備ヲ盡シ公衆ノ參觀ヲ企圖スルノ件 體育館トノ聯絡ニ關スル件 花車飾付ノ件 夜間開場設備ニ關スル件 飛行場ニ於テ一週二回飛行交渉ノ件 博覽會規則中改正ノ件 馬匹賽賞授與式ニ關スル件 雨傘販賣行商ニ關スル件 興行物許可ノ件 噴水變色裝置試驗ノ件 審査總長更迭報告ノ件
四月十七日	博覽會規則改正ノ件 衛生事項完備ノ件
四月二十一日	
四月二十四日	

四月二十七日	第二回福引施行ノ件 重松大尉飛行墜落ニ付弔祭料一千圓贈呈ノ件 美術館建物文部省美術展覽會へ貸與ノ件 藤棚設置許可ノ件 特殊小學校生徒無料觀覽ニ關スル件 久保田新任知事就任報告ノ件 博覽會繁榮ニ關スル件 興行物許可ニ關スル件 夜間開場各門閉閉ニ關スル件 平田事務局長逝去ニ付弔祭料ヲ贈呈スルノ件 携帶品預處移轉許可ノ件 軍艦博覽會ニ關スル件 二十四日昭憲皇太后大喪ニ關スル件 審査官山岡米華氏逝去ニ付弔慰金贈呈ノ件 團體割引ニ關スル件 興行物許可ニ關スル件 博覽會繁榮策ニ關シ協贊會へ照會ノ件 六月一日博覽會デー舉行ノ件 團體割引率改正ノ件 美人島旅行館入場券賣捌ニ關スル件 博覽會デーニ關スル件左ノ如シ 東京市ニ交渉花電車運轉ノ事
五月一日	
五月四日	
五月七日	
五月十一日	
五月十八日	
五月二十一日	
五月二十二日	
五月二十九日	
六月六日	陸海軍ニ樂隊招聘ノ事 飛行場飛行機博覽會訪問ノ事 屋外活動寫眞舉行ノ事 大神樂開催 仕掛煙火ヲ行フ事 福引抽籤舉行 場内興行物當日限半減ノ事 市内一般可成國旗掲揚ノ事 各省大臣次官招請ノコト 號砲發射ノコト 觀覽料半減ノ事 上野入口飾門ノ塗換國旗取換ノ事 青山興行物ニ關スル件 博覽會閉場時間ノ件 博覽會御下賜金ニ關スル件 皇太子殿下兩皇子殿下御見學ノ思召ニテ不日行啓可被遊御内定ニ付準備ノ件 七月初旬博覽會デー舉行ニ關スル件 六月十三日ヨリ十五日迄花電車運轉十四日夜協贊會ニ於テ疊十萬圓ヲ放ツノ件 夜間開場ノ際新内流シ等出願不許可ノ件 團體割引ニ關スル件 畜牛ノ賽賞授與式省畧ノ件 來ル十七日 天皇陛下幸ニ付奉迎準備ノ事
六月十一日	
六月十二日	
六月十五日	

六月十九日	信用アル商店ニテ景品ニ用フル爲メ博覽會 觀覽券購入ノ場合割引ニ關スル件 會期延長ニ關スル件
六月二十一日	七月三日博覽會デ一舉行ノ件 補充切符發行ノ件
六月二十九日	博覽會デ一ハ小松大妃殿下御葬儀終了後開 催スルノ件
七月一日	褒賞授與式ニ關スル件 七月五日博覽會デ一舉行ノ件 福引抽籤法改正ノ件
七月三日	褒賞授與式方畧ニ關スル件 博覽會不延期決定ノ件
七月六日	博覽會デ一福引當籤金額ノ件 七月十一日、十五日、十六日博覽會デ一舉行 ノ件
七月十三日	今後ノ福引金額ニ關スル件 博覽會デ一ニ關スル件
七月十七日	閑院宮季子女王殿下御葬儀當日場内歌舞音 曲ヲ停止シ靜肅ヲ旨トスルコト 七月二十日ヲ博覽會デ一トシ福引ヲ舉行シ 尙隔日福引舉行ノ件
七月二十日	福引場所ヲ博物館前廣場ニ變更スルコト 二十五日博覽會デ一ニ付三輪善兵衛氏景品 ノ件
七月二十一日	寄贈ノ件 建物拂下ニ關スル件 大日本道華獎勵會花供養ノ件
七月二十四日	體育會主催體育館補助ノ件 二十五日福引ハ十萬本發行ノ件 掉尾ノ光彩ヲ添フル爲メ來ル二十九日關係 者大假裝行列舉行ノ件
七月二十五日	閉會後ノ警備ハ警視廳巡查ヲ以テ之ニ充ツ ルノ件 二十七日福引七萬、二十九日七萬、三十日 十萬本發行ノ件
七月二十八日	閉會式ニ關スル件 御下賜金一萬圓ノ措置ニ付特別委員ハ會務 關係者出品人其他へ御下賜金記念ノ文字ヲ 刻シタル金屬製盃ヲ頒チ聖恩ヲ記念セシメ ントスルノ件
八月四日	通俗衛生博覽會、鑛山模型、ケーブルカー、 エスカレーター、青山會場興行物、飲食店 營業繼續願ノ件
八月七日	國民美術協會ヨリ第二工業館借用願ノ件 府會議員一同ヲ殘務委員トスルノ件 博覽會閉會ニ付委員、常務委員(顧問)ハ總 テ解囑セラレタルモノトスルコト 博覽會建物賣却ノ件

八月十四日	建物拂下豫定價格決定ノ件 體育館へ補給ノ件 久保田會長、杉原委員長へ慰勞金贈呈ノ件 宗像、阿部前知事ニ對シ相當謝意ヲ表スル ノ件
九月十日	建物拂下ニ關スル件 美術館側消防詰所教育學藝館ト美術館トノ 間渡廊下第二會場奏樂堂ヲ博物館へ無償讓 渡ノ件
	第二會場事務室及郵便局建物ヲ慈善團體へ 無償讓渡ノ件 美術學校へ芝無償讓渡ノ件 鼻鴨病院出品建物ヲ該病院へ保管轉換ノ件 無料休憩所二棟美術學校へ低價拂下ノ件 温室植物陳列館建物轉換ノ件 外國館増建物勸業協會ヨリ無償讓出ノ件 鑛山館ヲ農商務省へ無料貸與ノ件 其他

第三章 事務機關

第一節 職制

本會準備漸ク進ミ諸般事務處理ノ必要上大正二年三月十一日東京府告示第六十六號ヲ以テ東京大正博覽會職制及分課規程ヲ左ノ如ク定メタリ

東京大正博覽會職制

第一條 東京大正博覽會事務局ハ東京大正博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條 本會事務局ニ總裁一人ヲ置ク

第三條 本會事務局ニ會長一人ヲ置キ東京府知事ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 本會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

理事

事務員

通譯

第五條 會長ハ總裁ヲ輔ケ局務ヲ總判ス

局長ハ會長ノ命ヲ承ケ職員ヲ監督シ局務ヲ掌理シ會長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス
理事ハ會長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

但工事ニ就テハ特ニ工事監督ヲ置クコトアルヘシ
事務員ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務及ヒ技術ニ従事ス
通譯ハ上司ノ命ヲ承ケ通話及ヒ翻譯ニ従事ス

第六條 東京大正博覽會出品審査ノ爲メ左ノ職員ヲ置ク

審査總長

審査部長

審査官

審査囑託

審査主事

審査書記

審査補助

第七條 審査總長審査部長ハ總裁之ヲ囑託ス

審査官審査囑託審査主事ハ審査總長ノ意見ニ依リ會長之ヲ囑託シ又ハ主務大臣ニ派遣ヲ請フモノトス

審査書記審査補助ハ會長之ヲ命免ス

第八條 審査總長ハ審査事務ヲ總理ス

審査部長ハ審査總長ノ命ヲ承ケ審査事務ヲ分掌ス

審査官審査囑託ハ審査部長ノ命ヲ承ケ審査ニ従事ス

審査主事ハ審査總長ニ隸屬シ審査事務ヲ調理ス

審査書記ハ上司ノ命ヲ承ケ審査ニ關スル庶務ニ従事ス

審査補助ハ上司ノ命ヲ承ケ審査ヲ補助ス

第九條 東京大正博覽會場内警備ノ爲メ左ノ職員ヲ置ク

警備部長

警備主事

警備部員

第十條 警備部長ハ會長之ヲ囑託ス

警備主事、警備部員ハ會長之ヲ囑託又ハ命免ス

第十一條 警備部長ハ會長ノ命ヲ承ケ警備事務ヲ掌理シ警備ニ關スル職員ヲ指揮監督ス

警備主事ハ警備部長ノ命ヲ承ケ警備事務ヲ分掌シ別ニ定ムル守衛長以下ノ守衛員ヲ指揮監督ス

警備部員ハ上司ノ命ヲ承ケ警備ニ關スル庶務ニ従事ス

第十二條 廳府縣出品ノ陳列裝飾及ヒ整理ノ爲メ必要ニ應シ廳府縣委員ヲ置クコトアルヘシ

第十三條 本會ニ顧問委員及評議員ヲ置ク顧問委員及評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ重要事項ヲ審議ス

第十四條 本會ニ事務囑託ヲ置クコトアルヘシ

右ノ内第七條第一項審査總長ハ會長之ヲ囑託ストアリシテ本文ノ如ク又同條第二項審査部長モ同一ナリシカ執レモ大正三年二月十九日告示第
二十四號ヲ以テ改正シ又本文第九條乃至第十一條ハ大正三年二月二十八日告示第二十八號ヲ以テ追加シ又第六條乃至第九條中審査囑託ハ審査
員、審査補助ハ審査助手トアリシテ大正三年三月十七日告示第四十九號ヲ以テ本文ニ示ス如ク改正セリ

東京大正博覽會分課規程

- 第一條 東京大正博覽會事務局ニ總務、工事、經理、庶務、出納ノ五課ヲ置ク
第二條 課ニ課長ヲ置ク課長ハ理事中ヨリ會長之ヲ命ス
第三條 課ノ分掌事項左ノ如シ

總務課

- 一、職員ノ進退及印章ノ管守ニ關スルコト
- 二、顧問、評議員、委員其ノ他囑託ニ關スルコト
- 三、賞罰ニ關スルコト
- 四、文書ノ收受、發送及報告ニ關スルコト
- 五、陳列館内ノ管理ニ關スルコト
- 六、出品ノ勸誘、整理、陳列、裝飾ニ關スルコト
- 七、審査及褒賞ニ關スルコト
- 八、看守人ニ關スルコト
- 九、私設出品陳列館許否ニ關スルコト
- 十、賣店及廣告ニ關スルコト
- 十一、參考品ニ關スルコト
- 十二、協贊會ニ關スルコト

工事課

- 一、會場用地ニ關スルコト
 - 二、建築、修繕、及不動産處分ニ關スルコト
 - 三、道路、溝渠、橋梁、噴水、庭園ニ關スルコト
 - 四、會場(陳列館外)ノ裝飾ニ關スルコト
 - 五、給水、點燈、電話、電信ノ設備ニ關スルコト
 - 六、復舊工事ニ關スルコト
- ### 經理課
- 一、飲食店、休憩所、興行物等ニ關スルコト
 - 二、衛生、救療ニ關スルコト
 - 三、會議ニ關スルコト
 - 四、豫算、決算ニ關スルコト
 - 五、需用品及勞力ニ關スルコト
 - 六、給仕、小使ニ關スルコト
 - 七、塵芥及汚物排除ニ關スルコト
- ### 庶務課
- 一、儀式ニ關スルコト
 - 二、接待ニ關スルコト

- 三、會場ノ警備ニ關スルコト
 - 四、入場券、章標、門鑑等ニ關スルコト
 - 五、守衛ニ關スルコト
 - 六、運賃及關稅ノ免除輕減ニ關スルコト
 - 七、各種大會通俗講演ニ關スルコト
 - 八、他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 出納課
- 一、現金出納ニ關スルコト
 - 二、料金其ノ他取立ニ關スルコト

第二節 事務局

大正博覽會ニ關スル準備事務ハ東京府農商課ニ於テ之ヲ處理シ來リシカ漸次繁忙ヲ告クルト同時ニ上野公園竹之臺バノラマ館前ニ新築中ノ事務局工事略竣成シタルヲ以テ大正二年七月十七日告示第一八七號ヲ以テ左ノ通り告示シ同日ヨリ新築事務所ニ於テ執務セリ

東京大正博覽會事務局ヲ本月二十一日ヨリ下谷區上野公園櫻ヶ岡ニ設置ス

第三節 府縣事務所

本會ニ參同セル各府縣ハ總テ府縣委員ヲ命シテ其ノ事務ヲ處理シツツアリシカ本會トノ交

涉竝ニ出品陳列等ノ用務日ヲ追フテ進ムニ從ヒ本會ノ斡旋ニヨリ夫々事務所ヲ設置セリ即チ左ノ如シ

府縣名	所	在	地
朝鮮	下谷區上野櫻木町二九		現龍院
臺灣	池ノ端		宗賢寺
關東	下谷區上野櫻木町五四		稱迎寺
北海道	下谷區上野櫻木町五四		龍谷寺
樺太	中御徒町四ノ三一		玉林寺
京都	上野櫻木町二三		吉祥院
大阪	池ノ端七軒町四五		常在寺
神奈川	同町四〇		福井縣賣店
長崎	谷中坂町二五		長光寺
新潟	南稻荷町一〇二		妙願寺
埼玉	北稻荷町二四		ツチャ旅館
群馬	淺草區高原町二四		竹内伊四郎方
千葉	同		燈明寺
茨城	下谷區上野櫻木町五二		仙藏寺
栃木	同		瑞松院
三浦	淺草區北松山町八		南松寺
愛知	知同 松葉町一一五		養玉院
靜岡	同 入谷町七二		富士館
山梨	同 上野櫻木町一五		一乘寺
滋賀	下谷區北稻荷町五七		八重山館
岐阜	同町四九		
德島	會場拓殖館内		長野
宗務院	臺灣館隣接地		宮城
雲院	護國院		福島
院	東京府工會事務所内		青森
院	修禪院		山形
院	正慶寺		秋田
院	東淵寺		福島
院	天眼寺		石川
院	願壽寺		井川
院	西蓮寺		富山
院	本蓮寺		山同
院	源空寺		山同
院	等覺寺		山同
院	林柔寺		山同
院	行安寺		山同
院	曹源寺		山同
院	法清寺		山同
院	養壽寺		山同
院	宗雲院		山同
院	德雲院		山同

第四章 博覽會ニ關スル通則

第一節 博覽會規則

初メ本府ノ博覽會開設ヲ決スルヤ屢々各方面ニ於ケル大家實業家ヲ招シ該施設ニ關スル意見ヲ聽取シテ大體ノ方針ヲ定メ然ル後博覽會規則ヲ制定シ委員會ノ決議ヲ經テ大正二年三月十一日東京府告示第六十七號ヲ以テ之ヲ發布セリ

東京大正博覽會規則

第一章 總 則

第一條 本會ハ東京大正博覽會ト稱ス

第二條 本會會場ハ東京市上野公園トス

第三條 本會ハ大正三年三月二十日之ヲ開キ同年七月三十一日之ヲ閉ツ

第四條 本會ノ出品區域ハ日本帝國領土及租借地全般トス

第五條 本會ハ參考品トシテ外國生産品出陳ヲ許可スルコトアルヘシ

第二章 出 品

第六條 出品ハ左ノ十四部ニ大別ス

第一部 教育及學藝

第二部 美術及美術工藝

- 第三部 農業及園藝
- 第四部 林業
- 第五部 水産
- 第六部 飲食品
- 第七部 探礦及冶金
- 第八部 化學工業
- 第九部 染織工業
- 第十部 製作工業
- 第十一部 建築及室内裝飾
- 第十二部 機械、船舶及電氣
- 第十三部 土木及通運
- 第十四部 經濟及衛生
- 第七條 出品分類ノ細目ハ別ニ定ムル所ノ部類目錄ニ依ル
- 第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ出品スルコトヲ得ス
- 一、明治四十年十二月以前ニ於テ採取、産出、加工、製作及製造シタルモノ但シ養成ニ係ル動植物ハ此ノ限リニアラス
 - 二、風俗又ハ秩序ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スル虞アルモノト認ムルモノ
 - 三、他ニ損害ヲ及ホシ若クハ公衆ニ嫌忌ノ感ヲ與ヘ又ハ危險ノ虞アリト認ムルモノ
 - 四、出品ノ價值ナシト認ムルモノ

- 第八條ノ二 動物ハ左ノ各號ニ該當スルモノニアラサレハ出陳スルコトヲ得ス
- 一、馬匹ハ出陳人ト同府縣内ニ生産シ且其ノ道府縣内ニ一箇年以上飼養シタルモノ
 - 二、馬匹ハ三歳乃至五歳ノモノニシテ一道一府縣ヨリ出陳頭數二頭以上タルヘキコト
 - 三、馬匹ハ帝室及政府ノ牧場ノ生産ニアラサルモノ
 - 四、畜牛ハ出陳人ニ於テ一箇年以上飼養シタルモノ
 - 五、結核病豫防規則ニ準スヘキ畜牛ハ出陳月ヨリ一箇年以内結核病健康證ヲ有スルモノ
 - 六、畜牛ハ生後十八個月以上七十二個月未満ノモノニシテ一戸一人ニ限リ二頭以内タルヘキコト
 - 七、前各號以外ノ動物ニアリテハ出陳人ニ於テ六個月以上飼養シ一畜類一鳥類ニ付一戸一人ニ限ルコト
 - 八、家禽ハ生後二十四月未満ノモノニ番以内(一番ハ一雌一雄又ハ一雌二雌)
 - 九、豚、山羊、綿羊ハ生後四十八個月未満ノモノニ頭以内タルヘキコト
 - 十、蜜蜂ハ二群以内タルヘキコト
 - 十一、犬、猫、狎、兎、鳴禽、鳴蟲(一籠ハ一正又ハ二正)ハ各相當ノ器物ニ入レ其ノ儘陳列シ得ル裝置ヲナスヘキコト
 - 十二、犬ニ於テハ前號ノ外別ニ鐵鎖ヲ附シ猛犬ノ容器ハ特ニ堅牢ニスヘキコト
- 第九條 發火爆發其ノ他危險ノ虞アリト認ムルモノハ包裝又ハ模型ヲ以テ出品スルコトヲ得
- 第十條 出品人ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル
- 一、出品物ノ採取、産出、加工、製作又ハ製作又ハ製造ヲナシタルモノ
 - 二、出品物ノ採取、産出、加工、製作及製造ニ參與シ之ヲ販賣スルヲ以テ業トナスモノ
- 第十一條 出品出願手續ハ左ノ各號ニ依ル

- 一、出品願書ハ東京府下ニアリテハ島廳、郡役所、區役所、島役所ヲ經由シ其ノ他ニアリテハ朝鮮總督府、臺灣總督府、關東都督府及廳、府縣長官ヲ經由スヘシ
- 二、出品願書ノ事務局ニ到着スヘキ期限ハ大正二年十月三十一日トス但シ第二部美術及美術工藝ニ屬スル出品願書ハ大正三年二月二十日動物出陳願書ハ大正三年一月十日トス
- 三、出品願書ハ別紙第一號書式ニヨリ作成スヘシ

第十二條 出品ノ許可ヲ受ケタル者ハ大正二年十二月二十五日迄ニ第二號書式ノ出品目錄ヲ事務局ニ差出スヘシ但シ第二部美術及美術工藝ニ屬スルモノハ大正三年三月五日迄動物ニ屬スルモノハ大正三年二月二十八日迄ニ差出スヘシ
出品説明ノ爲メ特ニ解説書ヲ提出セントスルモノハ之ヲ出品目錄ニ添付スヘシ但シ動物ニアリテハ第二號書式三ノ出品目錄並ニ其ノ四ノ解説書ヲ添ヘ差出スヘシ

第十三條 機械ノ運轉ニ要スル原動力ハ無料ニテ供給ス但シ其ノ數量及使用時間ハ之ヲ制限スルコトアルヘシ
原軸ニ依リ動力ノ傳導ヲ受クルトキ之ニ要スル支管、支軸、滑車、調帶、電線等ハ出品人ニ於テ之ヲ設備スヘシ

第十四條 出品ノ荷造、輸送、稅關手數、保險、空箱類ノ保存及陳列箱陳列臺ノ調製費、陳列裝飾費等ハ出品人ノ負擔トス但シ時宜ニ依リ事務局ニ於テ空箱類ヲ無料ニテ保存シ又ハ必要ト認ムル場合ハ陳列箱、陳列臺ヲ調製スルコトアルヘシ

第十五條 出品人ニ於テ陳列箱及陳列臺ヲ調製セントスルトキハ設計圖ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ
第十六條 出品動物ノ飼養保護ハ出品人ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ飼料ハ事務局ニ於テ之ヲ給付ス

本會ノ支給スル飼料ノ給付ヲ受ケントスルモノハ其ノ陳列中ノ飼料給與方法(第一號書式ノ五)ヲ詳記シ解説書ト共ニ差出スヘシ但シ自辨スルモノハ「自辨」ト解説書ニ朱記スルヲ要ス

第十七條 左ニ掲クル出品ヲナサントスル者ハ願書ニ設計圖ヲ添ヘ之ヲ差出スヘシ但シ動力ヲ要スルモノハ願書ニ所要馬力ヲ記

載スヘシ

- 一、鉅重物品ニシテ特ニ基礎工事ヲ要スルモノ
- 二、運轉ノタメ動力ヲ要スル機械

第十八條 出品陳列ノ爲メ必要アリト認メタルトキハ陳列館ノ自費建築ヲ許可スルコトアルヘシ

第十九條 陳列館ノ自費建築ヲ爲サントスルモノハ大正二年八月三十一日迄ニ出品ノ部類品名及建坪ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ願書ニハ仕様書及圖面ヲ添フヘシ

第二十條 陳列館建築ノ許可ヲ受ケタルモノハ第十二條ニ準シ出品目錄ヲ差出シ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ
第二十一條 自費陳列館ニハ事務局ノ指定スル設備ヲ爲スヘシ

第二十二條 出品ノ搬入陳列ハ大正三年一月十日ヨリ同年三月十五日迄ニ之ヲ爲スヘシ
第二十三條 左ニ掲クル出品ハ左ノ期間内ニ搬入陳列ヲ爲スヘシ

名 稱	搬入期間
一、鳴禽(小鳥)	(自四月十日 至全十一日)
二、馬匹、家禽、蜜蜂	五月十日
三、畜牛、豚、綿羊、山羊、犬、猫、狎、兔	五月三十日
四、鳴蟲	(自七月一日 至全二日)

但シ時宜ニ依リ搬入期日二日前ヨリ搬入ヲ許スコトアルヘシト雖モ其ノ期間ノ飼料ハ自辨トス
前項ノ外蠶種、蔬菜、果實、植物、養殖魚介ノ類ハ別ニ搬入陳列ノ期間ヲ指定スヘシ

第二十四條 前條ノ期間内ニ搬入陳列ヲ終ラサルトキ又ハ之ヲ終ルコト能ハサルモノト認ムルトキハ出品許可ノ一部又ハ全部ヲ

取消スコトアルヘシ

- 第二十五條 第二部ノ出品ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ鑑査合格シタルモノニ限り出品スルコトヲ得
- 第二十六條 前條ノ出品出願人ハ鑑査ヲ受クル爲メ事務局ノ指定シタル期間内ニ其ノ出願ノ作品ヲ指定ノ場所ニ搬入スヘシ
- 第二十七條 出品ノ陳列裝飾ハ出品人ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ美術工藝ノ出品ニ付テハ事務局ニ於テ之ヲ爲スヘシ
- 第二十八條 出品人ハ他人ノ陳列裝飾ニ要スル光線ヲ遮蔽シ又ハ其ノ妨ケトナルカ如キ陳列又ハ裝飾ヲ爲スコトヲ得ス
- 第二十九條 出品ノ陳列裝飾ノ爲メ陳列館ノ壁面又ハ其他ノ構造ヲ使用スル工事ヲナサントスルトキハ事務局ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三十條 陳列箱、陳列臺ノ据付其ノ他陳列ニ要スル工事ハ大正三年三月十日迄ニ之ヲ完成スヘシ
- 第三十一條 運轉ヲナス機械ニ付テハ出品人ニ於テ危害豫防ノ設備ヲ爲シ且ツ經驗アルモノヲシテ之ヲ管理セシムヘシ
前項ノ機械ハ事務局ノ指定スル期日ニ試運轉ヲ爲スヘシ
- 第三十二條 事務局ノ許可ヲ受クルニ非サレハ開會中ニ陳列又ハ裝飾ノ材料ヲ搬入シ又ハ陳列裝飾ニ關スル工事ヲ爲スヘカラス
- 第三十三條 事務局ノ命令又ハ許可ニ依ルニアラサレハ觀覽時間内ニ於テ陳列場所ニ繩張ヲ爲ス等觀覽ノ妨ケトナルヘキコトヲ爲スコトヲ得ス
- 第三十四條 出品物ニシテ腐敗、融解等ノ爲メ陳列ニ適セスト認ムルトキハ之カ擲去ヲ命シ又ハ事務局ニ於テ之ヲ擲去スルコトアルヘシ
- 第三十五條 事務局ニ於テ必要ト認ムルトキハ陳列又ハ裝飾ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ要スル費用ハ出品人ノ負擔トス
- 第三十六條 事務局ハ通路ノ變更若クハ其ノ他ノ事由ニ依リ陳列場所ノ變更又ハ其ノ増減ヲ命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ事務局ハ損害賠償ノ責任ニ任セス

- 第三十七條 出品人ハ出品物ニ第三號様式ノ附札ヲ附スヘシ
- 第三十八條 出品物ノ代價ヲ變更セントスルトキハ事務局ニ届出ツヘシ
- 第三十九條 賣約ヲ欲セサル出品物ニハ出品目録及其ノ出品物ノ附札ニ非賣品ノ三字ヲ明記スヘシ
- 第四十條 出品ノ賣約ハ事務局ニ於テ之ヲ爲シ賣約濟ノモノニハ左ノ雛形ノ附札ヲ附ス

SOLD
濟約賣

- 第四十一條 賣約手数料ハ賣約金額ノ百分ノ五トス
- 第四十二條 賣約金ハ閉會後出品人ニ交付ス
- 第四十三條 賣約代金交付ノ爲メ費用ヲ要スルトキハ賣約代金中ヨリ之ヲ支辨スルコトアルヘシ
- 第四十四條 出品人ノ使用スル使用人ノ行爲ニ付キテハ出品人其ノ責任ニ任スヘシ
- 第四十五條 出品人又ハ其ノ使用人ニシテ不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ其ノ入場ヲ差止メ又ハ會場外ニ退去セシムルコトアルヘシ
- 第四十六條 出品人ハ其ノ陳列場所ニ於テ見本、引札、散紙ヲ無償ニテ觀覽人ニ配付スルコトヲ得
- 第四十七條 出品物ノ製造方法又ハ效力ヲ示スタメニ會場内ニ於テ製出シタル物品ハ事務局ノ許可ヲ得テ之ヲ即賣シ又ハ無償配與スルコトヲ得
- 第四十八條 出品物ハ事務局ノ命令又ハ許可ニ依ルノ外閉會迄之ヲ搬出スルコトヲ得ス
- 第四十九條 出品物ハ閉會後一箇月以内ニ之ヲ引取ルヘシ陳列及裝飾用ノ器具工作物ニ付テモ亦同シ

第五十條 左ニ掲クル出品ハ左ノ期間内ニ搬出スヘシ

一、鳴禽

自四月二十六日
至同月二十七日

二、馬匹、家禽、蜜蜂

五月二十三日

三、畜牛、豚、綿羊、山羊、犬、猫、狢、兎

六月十二日

四、鳴蟲

七月三十一日

前項ニ掲クルモノノ外蠶種、蔬菜、果實、植物、養殖魚介類ニ付テハ別ニ搬出期間ヲ指定ス

第五十一條 参考出品ニ關シテハ別ニ定ムル所ノ條規ニ從フ

第三章 審査及褒賞

第五十二條 出品ハ總テ之ヲ審査ス

官廳出品及参考品ハ審査ヲ行ハス

審査官及審査員ハ審査開始前自作出品ノ審査ヲ辭スルコトヲ得

第五十三條 出品人ハ前條第二項ニ掲クルモノノ外出品ノ審査ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條 審査上必要アルトキハ審査ノタメ提供シタル出品物ヲ消耗又ハ毀損スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十五條 審査上必要アルトキハ出品物ト同種ノ物品又ハ解説書ヲ提供セシムルコトアルヘシ

第五十六條 審査官、審査員ハ審査ノ爲メ出品物ノ採取、産出、加工、製造ノ場所ニ臨檢スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ之ヲ拒否スルコトヲ得ス

第五十七條 審査官、審査員ハ自己ノ出品物又ハ自己カ採取、産出、加工、製作、製造ニ參與シタル出品物ノ審査ニ與カルコトヲ得ス

第五十八條 審査會議ノ組織及審査ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第五十九條 褒賞ハ左ノ五種トス

一、名譽大賞牌

二、金牌

三、銀牌

四、銅牌

五、褒狀

前項ノ各賞牌ニハ證狀ヲ附ス

第六十條 同一ノ出品人ニシテ同一部ニ於テ數個ノ褒賞ヲ受クヘキモノアルトキハ賞牌ハ最高ノモノ一箇ヲ授與シ其ノ他ニ對シテハ證狀ノミヲ授與ス但シ牛馬等ハ此ノ限りニアラス

第六十一條 褒賞授與式ハ大正三年七月十日舉行ス

第六十二條 第五十九條ノ褒賞ヲ受ケタル出品ノ採取、産出、加工、製作又ハ製造ニ付其ノ技工設計又ハ考案ニ協力シタル者ニ對シテハ前三條ニ準シ褒賞ヲ授與スルコトアルヘシ

第六十三條 特ニ優秀ノ陳列、裝飾ヲ爲シタルモノ及出品ニアラサル自費陳列館ニシテ建築ノ優秀ナルモノニ對シテハ第五十九條ニ準シ金牌、銀牌、銅牌又ハ褒狀ヲ授與ス

第六十四條 觀覽時間ハ每日午前八時ヨリ午後五時迄トス但シ時宜ニ依リ之ヲ伸縮シ又ハ觀覽若クハ入場ヲ差止ムルコトアルヘシ

第四章 觀覽

第六十四條 觀覽時間ハ每日午前八時ヨリ午後五時迄トス但シ時宜ニ依リ之ヲ伸縮シ又ハ觀覽若クハ入場ヲ差止ムルコトアルヘシ

第六十五條 入場券ハ一枚金拾五錢トス但シ毎月一日及十五日ノ入場券ハ一枚金十錢日曜、祭日、祝日ノ入場券ハ一枚金貳拾錢トシ日曜、祭日、祝日ニシテ一日及十五日ニ相當スルトキハ金十五錢トス
五歳以上十二歳未満ノ者ノ入場券ハ一枚金五錢トス

夜間開場ノ日ニ於テハ第六十四條ニ定メタル觀覽時間後ノ入場券ハ一枚金五錢トス但シ觀覽時間内ニ入場シタル觀覽者ニシテ引續キ場内ニアルモノハ本項ノ入場券ヲ要セス

第六十六條 出品人、會場敷地使用者及ヒ其ノ使用人ニ對シテハ別ニ定ムル所ノ規定ニ依リ徽章、門鑑又ハ無料入場券ヲ交付ス
第六十七條 觀覽人ハ畜類ヲ牽キ又ハ荷物ヲ携帶シ入場スルコトヲ得ス但シ小形ノ手提及風呂敷包類ハ此ノ限ニアラス

第六十八條 觀覽人出入ノ際ハ其ノ携帶ノ物品ヲ檢閲スルコトアルヘシ
第六十九條 看守人又ハ係員ノ承諾アルニアラサレハ陳列品ニ手ヲ觸ルルコトヲ得ス

第七十條 陳列館内ニ於テハ喫烟スルコトヲ得ス
第七十一條 醉狂、癡癲、惡疾若クハ嫌忌ノ感ヲ生セシムルモノハ入場ヲ差止メ又ハ退場セシムルコトアルヘシ

第五章 營業

第七十二條 會場内ニ於テ賣店、飲食店、觀覽物、遊戯物其ノ他ノ營業ヲ爲サントスルモノハ別ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ事務局ノ許可ヲ受クヘシ

第六章 雜則

第七十三條 會場ノ光景及ヒ出品物ヲ摸寫、攝影セントスルトキハ事務局ノ許可ヲ受クヘシ出品物ニ付テハ更ニ出品人ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第七十四條 事務局ハ出品物ヲ摸寫、攝影シ之ヲ印行スルコトアルヘシ

第七十五條 事務局ノ許可ヲ受クルニ非サレハ建物其ノ他ノ建設物内ニ於テ火ヲ用フルコトヲ得ス

第七十六條 本會ハ出品物其ノ他ノ施設物ニ對シ相當ノ保護ヲ加フヘシト雖モ紛失、損傷其ノ他ノ損害ニ對シテハ一切其ノ責任セス

第七十七條 本則其ノ他本會ニ關スル諸規則、命令及褒賞處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シ又ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第七十八條 本則其ノ他本會ノ發スル諸規則命令ヲ遵奉セサルトキハ事務局ハ任意ノ處分ヲ爲シ且ツ之カ爲メニ要シタル費用ヲ追徴スルコトアルヘシ

第七十九條 本博覽會ノ殘務取扱期間ハ大正三年八月一日ヨリ同年十二月十日マアトス此ノ期間ヲ過キタルトキハ殘務ニ關スル新規ノ申出ヲ受理セス

第八十條 本則其ノ他本則ニ關スル諸規則ハ改正追加スルコトアルヘシ
第一號書式ノ一

出品願書

部	類	品	名	數	量	容	積	賣	價

住所
出品人 職 業 氏 名

右貴會諸規則ヲ遵守シ出品致度候間許可相成度此段相願候也

年 月 日
東京大正博覽會 會長 宛

右 何 某 印

備考

第二部出品ハ品名欄ニ水彩畫風景、鑄造布袋俵、藤箱等ノ如ク記載スヘシ
動物出陳ハ品名、數量容積ヲ書類、頭數、產地トシテ記載スヘシ

第二號書式ノ一

出品目録

第 部 類	第 類	出 品 番 號	品 名	數 量	容 積	住 所		出 品 人 氏 名
						積 地	賣 價	
右ノ通り								

備考

- 一 本紙ハ一類毎ニ別紙ニ認ムヘシ
- 一 出品番號ハ一類毎ニ之ヲ附スヘシ
- 一 品名ニ方言譯名等アルモノハ附記スヘシ
- 一 數量ハ出品ニ對スル慣用ノ稱ヲ以テ之ヲ記スヘシ
- 一 容積ハ長何尺幅何尺厚何尺ト記スヘシ(曲尺)
- 一 非賣品ハ賣價欄ニ其ノ旨朱書スヘシ

第二號書式ノ二

第二部出品目録

第 類	出 品 番 號	素 質	品 題 名	數 量	容 積	住 所		出 品 人 氏 名
						積 地	賣 價	
右ノ通り								

備考

- 一 本紙ハ一類毎ニ別紙ニ認ムヘシ
- 一 出品番號ハ一類毎ニ之ヲ附スヘシ
- 一 素質欄ニハ油繪、水彩畫、木、石、金製等ノ區別ヲ記スヘシ
- 一 品題名欄ニハ屑書ニ自作又ハ何某作ト附記スヘシ
- 一 容積ハ長何尺幅何尺厚何尺ト記スヘシ(曲尺)
- 一 非賣品ハ賣價欄ニ其ノ旨朱書スヘシ

第二號書式ノ三

出品目録

住 所
職 業
出 陳 人 氏 名

部類	畜類	種類	種類	性	産地及飼養地	用途	頭數	賣價	備考
----	----	----	----	---	--------	----	----	----	----

備考

- 一、本紙ハ畜類、鳥類毎ニ別紙ニ認ムヘシ
- 一、非賣品ハ賣價欄ニ其ノ旨ヲ記スヘシ
- 一、家禽ハ性ヲ雌雄別及數ニ書キ改ムヘシ

第二號書式ノ四

解説書

一頭毎一番毎ニ認メ搾乳競争ニ出陳スル畜牛ハ搾乳競争ト未記スヘシ

住所

出陳人氏名

部類	番號	畜類	用途	用途
----	----	----	----	----

(乳用又ハ肉用役肉用)
(乗、鞍用又ハ重挽用)

(家禽ハ雌雄及其ノ數ヲ記入スヘシ)

種類名號
性
年齡
體尺
毛色
特徵
飼養期間
血統

詳記スヘシ

産地 道府縣都市町村牧場又ハ何々

育成地 同

現成地 同

牧場ノ有無及規模

現在飼養頭數 既往三箇年ノ飼養頭數

審査請求ノ主眼

出陳動物ノ褒賞ノ有無 何年何月何々會

右ノ通り相違無之候也

年 月 日

出陳人氏名

會長宛

搾乳競争ノモノハ前記解説書ニ左ノ項目ヲ設ケ該事項ヲ記入スヘシ

分娩回数 (幾腹)

分娩月日又ハ豫定月日 何 月 何 日

分娩後ノ日數 大正三年五月三十日迄何日

以上

第二號書式ノ五

給與方法書

畜類(鳥、蟲)

一頭毎一疋毎ニ認ムヘシ

一、飼料ノ種類及分量(一頭一日分)

何々 何升何合何勺又何貫目

何々 同上

調理方法

一、給與ノ回数及時間

右ノ通りニ候也

- 第一部 教育及學藝
 - 第二部 美術及美術工藝
 - 第三部 農業及園藝
 - 第四部 林業
 - 第五部 水產
 - 第六部 飲食品
 - 第七部 採礦及冶金
 - 第八部 化學工業
 - 第九部 染織工業
 - 第十部 製作工業
 - 第十一部 建築及裝飾
 - 第十二部 機械。船舶及電氣
 - 第十三部 土木及通運
 - 第十四部 經濟及衛生
- 第一部 教育及學藝
- 第一類 教育ノ組織
 - 學校系統、學校配置、教育基金、學校經理、統計等
 - 第二類 初等教育

- 制度、統計、教授及訓練ノ方法及成績、校舍及學校園ノ圖面、模型、校具、教授用具、圖畫及手工教育ノ順序方法ヲ示スヘキ成績品
- 法ヲ示スヘキ成績品
- 一、幼稚園
 - 二、初等普通教育
 - 三、初等補習教育及壯丁初等補習教育
 - 四、保姆及教員ノ養成及免許
- 第三類 中等教育
 - 第四類 大學及專門教育
 - 第五類 實業教育
 - 第六類 特殊教育及通俗教育
- 制度、統計、教育ノ方法及成績、校舍ノ圖面、模型、特殊ノ校具及教授用具、教育ノ順序方法ヲ示スヘキ成績品
- 一、不具者教育
 - 二、特殊ノ者ニ施ス教育
 - 土人教育、子守教育等
 - 三、特殊ノ方法ヲ以テ施ス教育
 - 夏期學校、日曜學校、通信教授、通俗學術講話其ノ他ノ通俗教育等
- 第七類 學校衛生及體育
 - 一、學校衛生

學校衛生、學校醫及身體檢查ニ關スル制度、統計及成績

一、體育及運動遊戲

體育ニ關スル制度、統計及成績、教育ノ方法、體操室及各種運動場ノ圖面、模型、器械、用具

第八類 校舍、校具、教授用具及用品

第九類 教育的及學術的營造物及團體

組織、設備、管理、統計、成績

一、圖書館

二、博物館、美術館

三、動物園、植物園

四、教育及學術ニ關スル協會

學士院、學會、教育會等

五、科學的探檢

六、育英獎學

第十類 學術器械器具、標本、圖畫、模型等

第十一類 醫學、藥學及調劑學器械、器具、標本、圖畫、模型、藥品等

第十二類 度量衡

第十三類 書籍及製本

(特殊ノ文庫ヲ作成スル書籍ノ蒐集、新ニ翻刻シタル舊刊書籍等)

第十四類 寫眞及印刷

第十五類 樂器

第十六類 演藝

(演藝場ノ設備、舞臺用竝ニ演藝者用器具及用品)

第二部 美術及美術工藝

第十七類 日本畫

第十八類 油繪、水彩畫、バステル畫、木炭畫等

第十九類 彫塑

第二十類 建築

第二十一類 書及篆刻

第二十二類 金工品

第二十三類 漆工品

第二十四類 陶磁器、七寶、硝子、モザイク、ステインドグラス等

第二十五類 玉、石、木、竹、牙、角、介、甲、革等ノ製品

第二十六類 染織物、刺繍品等

第二十七類 彫版、寫眞、印刷物

第二十八類 美術工藝圖案

第三部 農業及園藝

- 第二十九類 穀類
- 第三十類 蔬菜
- 第三十一類 果實
- 第三十二類 牧草
- 第三十三類 藥草及香辛類
- 第三十四類 煙草及其ノ製品
- 第三十五類 植物纖維
 - 一、紡績及繩索原料
 - 實棉、縲綿、大麻、亞麻、苧麻、黃麻、苧麻、苧麻、椶櫚、芭蕉、鳳梨等
 - 二、製紙原料
 - 楮、三桠、雁皮、黃蜀葵等
 - 三、疊表、蓆及麥稈眞田ノ原料
 - 藁、七島藁、大甲藁、麥稈等
 - 四、雜品
 - 絲瓜、菅、蒲、杞柳、燈心、箬、黍、チーゼル等
- 第三十六類 染色、製油及製糖原料
- 第三十七類 種苗
- 第三十八類 裝飾植物

- 一、苑圃及庭園用ノ樹木、行道樹
- 二、花卉及球根
 - 菊、天竺牡丹、花菖蒲、牽牛花、牡丹、芍藥、百合、水仙等觀葉植物
- 三、盆栽類
 - 盆栽、盆石、盆景、箱庭等
- 四、插花類
 - 生花、立花、籠花、花球等
- 五、溫室植物
 - 蘭、羊齒、椰子等
- 第三十九類 園藝建造物
 - 一、植物室
 - 二、花壇庭園
- 第四十類 蠶種
- 第四十一類 繭
- 第四十二類 蠶絲及眞綿
- 第四十三類 家畜
- 第四十四類 家禽及蜜蜂
- 第四十五類 愛玩動物

犬、狎、猫、鳴禽、鳴蟲等

第四十六類 肥料

第四十七類 農業、園藝、蠶業及畜産用器械器具

第四十八類 病蟲害ノ豫防及驅除ニ關スル器具、標本、方法及成績

第四十九類 家畜及家禽ノ衛生及治療ニ關スル標本、圖書、器械、器具

第五十類 農業、園藝、産業及畜産ノ經營方法及成績

第四部 林業

第五十一類 森林ノ管理及施業

一、林野ノ管理區分、統一及入會整理ノ方法及成績

二、森林組合、山林會及其ノ他林業ニ關スル團體ノ組織及事業ノ成績

三、林業ニ關スル調査及統計

四、私有、社寺有及公有其ノ他各種團體ノ林野、施業方法及成績

第五十二類 造林及森林保護

一、種子、苗木

二、造林ノ方法及成績

三、造林ニ關スル器具

四、森林保護ノ方法及成績

五、有益、有害動物植物及森林竝木竹材被害ニ關スル標本及圖畫

第五十三類 伐採、造材、運材、製材、貯材ノ方法、設備及成績、木材強弱試驗ノ成績、特殊ノ器械及器具

第五十四類 木材、著色材、防腐材、乾燥材、ウエニアリング材

第五十五類 竹材

第五十六類 木竹材以外ノ林産物

一、炭化製品、燃料等

木炭、炭團、木醋石灰、木タール、懷爐灰、イス灰、松烟、線香用木粉、蚊燻原料等

二、纖維製品原料

製紙原料、繩索原料等

三、菌茸

椎茸、松茸、松露等

四、工業品原料

染浸料、鞣革原料、製油原料、粗製樟腦及樟腦油、粗製護謨、コルク材、蘆草、漆液、松脂、アラビヤゴム、精等

五、雜林産物

樹實、樹皮、根莖等

六、製造ノ方法及成績竝器械、器具

第五十七類 狩獵

一、狩獵産物

二、狩獵ノ方法

三、狩獵ノ器械及器具

第五部 水産

第五十八類 漁業

- 一、漁撈ノ方法及装置、漁具、漁衣、潜水鏡等
- 二、漁船、漁舎其ノ他ノ補助設備
- 三、漁具原料及製作器械器具、染料
- 四、餌料
- 五、水産生物及湖海ノ調査成績及用具

第五十九類 水産製造業

- 一、乾製、燻製及鹽藏等ノ食用魚介類
- 二、水産肥料
- 三、食用藻類
- 四、工業用及藥用藻類
- 五、膠、魚膠、魚油、魚蠟等
- 六、珊瑚、海松、海綿、眞珠、介殼、鱗類、龜甲、海獸皮等
- 七、乾燥燻製及冷蔵ノ装置並製造器械器具

第六十類 海鹽及副産物

第六十一類 水産養殖業及蕃殖保護

一、養殖魚介類及標本

二、魚梯及魚道ノ模型、蕃殖保護ニ關スル成績

三、養殖用餌料

四、養魚害敵標本

五、魚介卵類運搬器

六、養魚池ノ設備、圖面、模型

第六十二類 水産業ノ方法及成績

第六部 飲食品

第六十三類 茶、珈琲等

第六十四類 酒類及其ノ原料

第六十五類 礦水、果實水

第六十六類 醬油、溜、ソース、味噌

第六十七類 酢、加工香辛料等

第六十八類 粉類及加工穀類

第六十九類 麵類、麵包、麩、腐皮、凍豆腐等

第七十類 砂糖及飴

第七十一類 菓子類及砂糖漬

第七十二類 漬物及雜食品

鹽漬、酢漬、酒精漬、粕漬、糖漬、芥子漬、味噌漬、糠漬等
魚煎餅、田麩、オボロ、蒲鉾、佃煮、味付海苔、納豆、肉越幾斯、腸詰等

第七十三類 畜産製品

一、乳製品及類似品

牛酪、乾酪、煉乳、粉乳、人造牛酪等

二、蜂蜜

三、貯藏肉類

鹽肉、燻肉等

第七十四類 乾燥蔬菜及果實

第七十五類 罐詰類

第七十六類 飲食品ノ研究成績、製造及貯藏ニ關スル方法並器械器具

第七部 採鑛及冶金

第七十七類 鑛物及地質

一、分類蒐集シタル鑛物標本

二、分類蒐集シタル地質標本

三、地質調査ノ方法及其ノ成績ヲ示スヘキ地質圖、模型等

四、鑛物、岩石及土砂類

第七十八類 金屬鑛業

第七十九類 鐵鑛業

第八十類 石炭鑛業

第八十一類 石油鑛業(天然瓦斯ヲ含ム)

第八十二類 硫黃、燐鑛、黑鉛及土瀝青鑛業

第八十三類 採石業

第八十四類 煉炭及骸炭製造業

第八十五類 製造冶金業

第八十六類 鑛業用器械及器具

第八部 化學工業

第八十七類 一般化學藥品

第八十八類 硫酸及アルカリ

第八十九類 アルコール

第九十類 烟火、マッチ等

第九十一類 瓦斯、瓦斯副生物及コールター製品

第九十二類 壓縮瓦斯及液化瓦斯

第九十三類 精製樟腦及樟腦油

第九十四類 セルロイド及セルロイド製品

第九十五類 油及蠟類

- 第九十六類 膠及ゼラチン
 - 第九十七類 蠟燭及石蠟
 - 第九十八類 護膜及護膜製品
 - 第九十九類 顔料及染料
 - 第一百類 塗料(油、ニス、)
 - 第一百一類 印内、印刷インキ、靴墨等
 - 第一百二類 薰香、香料及化粧品(香水、香油、練油)
 - 第一百三類 紙質及紙
 - 第一百四類 紙皮、紙革、擬革、染革等
 - 第一百五類 陶磁器
 - 第一百六類 硝子及硝子器
 - 第一百七類 七寶器
 - 第一百八類 玻璃器
 - 第一百九類 煉瓦及耐火品
 - 第一百十類 セメント、石灰及燒石膏
 - 第一百十一類 電氣化學製品
 - 第一百十二類 化學工業ニ關スル器械、器具、設計、模型等
- 第九部 染織工業

- 第一百三類 絹織物
- 第一百四類 綿織物
- 第一百五類 絹綿交織物
- 第一百六類 毛織物及其ノ交織物
- 第一百七類 麻織物及其ノ交織物
- 第一百八類 雜織物
 - 一、芭蕉、竹、葛、藤等ノ絲類(絹、白、彩色其ノ他)
 - 二、芭蕉布、竹布、葛布、藤布等
- 第一百九類 段通、絨段
- 第二十類 染物及加工布
- 第二十一類 織物用纖維及絲類(蠶絲及眞綿ヲ除ク)
- 第二十二類 刺繡
- 第二十三類 組編物、麥稈、經木眞田及麻眞田
- 第二十四類 被服及裁縫品
 - 一、和洋服類
 - 二、シャツ、カラ、カフス、ブボン吊、襟飾、リボン、マフ、手巾、タオル等
 - 三、帯類、帶揚、半襟等
 - 四、膝掛、肩掛、襟巻、頭巾等

- 五、足袋、股引、脚絆、腹掛、腹卷等
- 六、夜具、布團、蚊帳、敷布、クッション等
- 七、雜裁織品、縫箔品
- 八、縫紉、細工絲、コード等

第二百二十五類 染織工業ニ關スル圖案、標本拉器器具、統計

第十部 製作工業

第二百二十六類 金屬製品及刃物類

- 一、金、銀、銅、鐵、青銅、真鍮、アンチモニー等ノ花瓶、置物、火鉢、鐵瓶、茶ノ湯釜、風爐、飲食器、燈籠、佛具、鐘等、
- 二、徽章、賞牌、鋌、鎖、金網、金庫等
- 三、庖丁、ナイフ、剃刀、鋏等ノ刃物類、鋸、鋸、シヨバル、砥及ヒ鑿、錐類ノ柄

第二百二十七類 紙製品

- 書簡用紙、狀袋、野引紙、式紙、短冊、掛物、手帳、帳簿、書畫帖、寫真帖等ノ表裝品
- ナフキン、獻立紙、水引等

第二百二十八類 皮革、撥革及羽毛製品

第二百二十九類 玉、石、木、竹、牙、角、介、甲、珊瑚等ノ加飾製品

第二百三十類 塗物類、素地

第二百三十一類 文房具及繪畫用具

- 一、筆、墨、硯、筆筒、文鎮、印材、印判、護謨印等
- 二、ペン、ペン軸、鉛筆、石筆、石盤、インキ、インキ壺、封蠟、糊類、狀挾、狀綴、紙切、文字打拔器、レッターブレス等
- 三、繪具、バステル、コンテ、繪筆、畫用木炭、繪具箱、パレット、畫架、カンバス、繪畫用紙、燒畫器、寫生用カノラ等

第二百三十二類 裝身具、携帶品及旅行用具

- 一、懷中時計、時計鎖、指環、腕環、襟止、ブローチ、ラケツ、帶留、紐釦等
- 二、櫛、笄、簪、根掛、髷止、髷、鬢形、元結等
- 三、煙草入、卷煙草入、煙管、紙入、名刺入、信立袋等
- 四、手鏡、香水吹、揚枝、石鹼画等
- 五、帽子其ノ他ノ冠物
- 六、下駄、靴、雪駄其ノ他ノ履物、下駄表、鼻緒、爪掛
- 七、洋傘、杖、傘骨、柄等
- 八、行李、トランク、靴、携帶化粧具、行廚、天幕、露營用具等

第二百三十三類 扇、團扇、提灯、傘等

第二百三十四類 武具及武裝用具

- 一、刀劍、仕込杖其ノ他ノ護身用携帶品等
- 二、甲冑、鎗、弓箭等、武藝ノ道具

第三百三十五類 營業用具

- 一、算盤、計算器、現金記錄器、現金轉送器、書類整理函等
- 二、自動販賣器、商品陳列用具等
- 三、折函、商品包裝用品等

第三百三十六類 玩具及遊戲具

- 一、人形、假面、紙鳶、羽子板、繪双紙、骨牌等
- 二、幻燈及映畫、樂器、教育的玩具、機械的玩具等
- 三、碁、將棋、室內銃、弓、ビンボン等
- 四、雛及雛道具、五月職等

第三百三十七類 雜工作品

- 一、廚爐、庖厨用雜品
廚爐、竈、焜爐、銅壺、鍋、釜等
俎、柄杓、篩、栓拔、繡切、蠟帳、冷藏函、其他庖厨用雜品
- 二、掃除及洗濯用具
風呂、金盥、バケツ其ノ他掃除及洗濯用具(靴拭(マット))
- 三、造花、押繪、其ノ他ノ細工物
- 四、竹細工、蔓細工、籠細工、麥稈、經木及麻真田細工等

第三百三十八類 製作工業品圖案、工匠用工具等

第十一部 建築及裝飾

第三百二十九類 建築及其ノ局部ノ設計、圖面、模型

- 一、公共建築物
社寺、官衙、學校、博物館、病院、市場等
- 二、劇場、其ノ他ノ興業物ニ關スル建築物
- 三、工場
- 四、商店
- 五、住宅、茶室等

第四百四十類 一般構造ニ關スル設計、圖面、模型及材料

第四百四十一類 耐震、耐火及防火ニ關スル構造、裝置及特殊ノ材料

- 一、鐵骨、鐵筋、コンクリート、木骨等ノ耐震建築物、木造、石造、煉瓦造等ニ於ケル耐震裝置、耐震材料
- 二、各種ノ防火裝置、防火材料
防火壁、防火扉、防火床等
- 三、消火器、消火裝置

第四百四十二類 裝飾ニ關スル設計、圖面、模型

第四百四十三類 嵌成裝飾

木象嵌細工、寄木細工、モザイク、ステインドグラス等

第四百四十四類 固定裝飾

煖爐前飾、欄間、牀、棚等

第四百四十五條 裝飾ニ要スル木材、石材、人造石、テラコッタ、石膏、漆喰、陶磁、硝子、紙織物、金屬等ノ製品

第四百四十六類 疊、敷物、花筵等

第四百四十七類 建具類

障子、襖、戸等

第四百四十八類 家具

食器棚、書籍棚、飾棚、飾臺、簞笥、卓子、机、椅子、姿見、玉突臺、寢臺、掛置時計、額、屏風、衝立、衣桁、

長持、見臺、本箱、鏡臺、火鉢、煙草盆、簾等

第四百四十九類 點燈具

シャンデリア、燭臺、行燈、燈籠等

第五百十類 建築衛生設備及裝具

一、煖房、冷房、換氣

二、浴室、洗面場、便所等ニ於ケル裝具

第五百一類 屋外建造物及庭園ノ設計、模型、圖面、材料等

第五百二類 祝典及葬祭具

神棚、佛壇、位牌、祝祭用具、葬具、石碑等

第十二部 機械、船舶及電氣

第五百十三類 原動機

一、汽罐、煙突及附屬品

第五百十四類 一、蒸汽機關、蒸氣タービン、機關車

三、瓦斯、石油、熱氣、壓縮空氣等ニ因テ運轉スル機關

四、自動車ノ類

五、水車、タービン、壓水機關等

六、風車

七、獸力、重量等ニ因テ運轉スル原動機

八、保温劑、解石劑、パッキング其ノ他ノ用品

第五百十四類 一般機械

一、傳動機、制動機、速度整調機、調帶、鏈、索等、齒車、滑車、接手、軸、軸承、繩帶、鏈鎖ノ動力整調機、減

摩裝置、給油器、瓣、嘴子等

二、試驗機械、測定機械

材料試驗機械、精密伸縮計、動作計、インヂカートル、速度計等

三、水力及氣力ニ關スル機械

唧筒、揚水機、水壓機、蓄力機、消力機關、空氣及瓦斯壓縮機械等

四、起重機、昇降機等

五、乾燥機械、冷却機械、送風機械等

第五百十五類 工作機械

一、金工機械及用具

打擊壓縮及伸張用機械、削截用機械、仕上用機械等、カリパス、コンパス、定盤、口徑規、其ノ他ノ用具

二、木工機械及用具

第百五十六類 製造機械

一、製穀、製粉、製麵、製糖、製油機械。茶、煙草製造機械、醸造機械等

二、製紙機械、窯業機械、マッチ、蠟燭、石鹼、塗料、染料製造機械

三、各種製造機械

傘骨、紐釦、針、釘、鐘等ノ製造機械

第百五十七類 染織機械

一、紡績及準備機械

二、機織及準備機械

三、整理機械

四、編物、組物等ニ關スル機械

五、染色及漂白ニ關スル機械

六、人造絹絲、マーセライズ綿等製造ニ關スル機械

第百五十八類 印刷機械

第百五十九類 採鑛冶金用機械

第百六十類 土木及建築用機械

第百六十一類 雜機械

第百六十二類 船舶

一、船體

客船、貨物船、曳船、帆船、端艇、舢舨、ヨット、病院船、驅風船、渡渡船等ノ設計、圖面、模型

二、造船用特殊ノ機械及工具

三、船舶用機械

推進器、操舵機、揚錨機、揚貨機等ノ補助機械

四、艙裝

舵、錨、鎖、索、羅針盤、信號器、鐘權、帆、滑車、通信器、特殊ノ測量器械等。救命艇、救命浮帶、救命環等
探光、探暖、換氣、冷藏、防火、衛生等ノ裝置

第百六十三類 發電、電動、變成及配電用器械及器具

一、發電機

二、電動機

三、電氣變成用器械

變壓器、電動發電機、變流機、變相裝置等

四、配電及保安用器具

五、發電所、配電所等ノ設計、圖面、模型

第百六十四類 電燈

一、白熱燈、弧光燈其ノ他ノ電燈並用品

二、電燈用具

點燈用器具、燈蓋等、電燈用光度計

三、電燈ノ應用

燈臺、船舶等ニ使用スル特殊ノ裝置

耐水燈、ヘッドライト用電燈等

第六十五類 電氣鐵道

第六十六類 電信、電話、電氣信號

一、電信用器械

電信機、送信機、受信機、中繼機、無線電信機、保安器等

二、電話用器械

電話機、送話機、受話機、中繼機、交換用器械、特別通信用器械、無線電話機、保安器等

三、電氣ノ信號器

電鈴、表示器、警報器等

第六十七類 送電用材料並器械、器具

電纜、電線、海底電線、地下管、接續函、ボンド、碍子、碍管、電柱(木柱ヲ除ク)張線器、ベンチ、地下線布設器具、海

底電線沈布用器械等

第六十八類 電氣測定器(學術專用ノモノヲ除ク)

第六十九類 電氣應用裝置

第十三部 土木及通運

第七十類 土木

一、交通工事

二、衛生工事

三、治水工事

第七十一類 鐵道、軌道及索道

第七十二類 水運及海員救濟事業

第七十三類 通信

第七十四類 運搬具及荷造

一、自働車、馬車、荷車、人力車、自轉車、乳母車、轎等

二、馬具其ノ他ノ駕馭具

三、輕氣球、空中飛行機

四、荷造

材料、填充物、器械、器具及成績

第十四部 經濟及衛生

第七十五類 經濟上ノ調査及考案

一、全國又ハ一地方ニ於ケル一般の經濟狀態ニ關スルモノ

二、全國又ハ一地方ニ於ケル農業、林業、工業、商業、水産、探礦及冶金、運輸、銀行、保險、殖民等ニ關スルモノ
 三、一般的經濟狀態又ハ産業ノ進歩改良ヲ目的トスル制度、方法ニ關スルモノ

第七十六類 經濟上ノ諸機關ノ組織並經營ノ方法及成績

- 一、銀行、手形交換所、興信所等
 - 二、各種ノ交通機關
 - 三、生命保險、火災保險、運輸保險其ノ他ノ保險業
 - 四、各種ノ會社
 - 五、産業組合、貯蓄組合、賴母子講等
 - 六、同業組合
 - 七、市場、取引所
 - 八、會議所
 - 九、各種ノ協會及組合
- 第七十七類 工業監督及職工ノ保護
- 一、工場、鑛山等ニ對スル監督ノ方法及成績
 - 二、各種産業ニ於ケル同業者間又ハ雇主被傭者間ノ爭議調停ノ方法及成績
 - 三、各種産業ニ於ケル被傭者ノ管理、待遇、教育、保護、救濟及自助ノ方法、組織及成績
 - 職工雇入ノ方法、賃金、賞與、救濟、保險、危險豫防ノ設備、年齡及勞働時間ノ制限。寄宿舎、住宅ノ設備、娛樂ノ方法、共濟組合等

第七十八類 救濟及病傷者救療

- 一、慈善、感化、授産事業等ノ方法、組織及成績
- 養育院、貧民學校、慈善病院、慈善會、慈善財團、感化院、出獄人保護等
- 二、矯風其ノ他ノ公益事業ノ方法、組織及成績
- 風俗ノ改良、勤儉ノ獎勵、公德ノ養成、飲酒ノ節制、動物虐使ノ防止等ヲ目的トスル協會、組合等
- 三、消防、水防、水難救濟等ノ方法、組織及成績等

第七十九類 傳染病豫防及公衆衛生

- 一、傳染病豫防ニ關スル制度
- 傳染病豫防法、海港檢疫法、清潔方法、消毒方法、汽車及船舶檢疫法、種痘規則、癩病及肺結核豫防法等
- 二、傳染病豫防ニ關スル施設
- 檢疫所、隔離所、消毒所、傳染病院等
- 三、痘苗、血清藥等ノ製造及監督
- 四、藥物、飲食物、飲食物用器具、有害性著色料等監督
- 五、家屋、工場、道路、溝渠等ノ衛生監督
- 六、營業所ノ衛生監督

第八十類 統計

- 一、人口統計
- 結婚、離婚、出生、死亡、移住、體性、年齡、身分、職業、人口ノ密度及分布等ニ關スルモノ

二、經濟統計

土地ノ使用別、各種産業ノ生産額及資本額、物價賃金、利率、輸出入、政府財政、地方財政、運輸、銀行、保險、殖民等ニ關スルモノ

三、衛生統計

傳染病統計、死亡病類別統計、鑛泉場養生所等ノ特殊氣象表ノ類

四、雜種統計

右ノ内當初第二節二十一編彙類ノ上ニ「書」ノアラサリシヲ大正三年一月二十二日告示第七號ヲ以テ追加改正セリ

第五章 敷地及會場之配置

第一節 敷地

東京大正博覽會ノ敷地ヲ選定スルニ方リ之カ候補地トシテハ上野公園、青山舊練兵場二者ノ外ニ適當ナル土地ハアラサリキ若シ土地ノ購入及ビ地上物件ノ移轉料金ヲ支出セハ郡部ニ於テ理想的ノ地ヲ得ルコト敢テ難事ナラサリシカ莫大ノ費用ヲ要スルノ憾ミアリ而シテ青山ハ曩ニ政府事業トシテ日本大博覽會ノ敷地ニ充テラレ權田原竝ニ代々木御料地ヲ併セテ廣大ナル坪數ヲ有シ建設物ノ配置意ノ如ク交通ノ便亦備リ會場トシテ遺憾無キカ如シト雖モ最モ中央ニ當ルヘキ地ハ練兵場跡ノ空漠タル原野ニシテ樹木及ビ水流ニ乏シク從テ庭園池水等ノ趣味ヲ保タシムルニ多大ノ費用ヲ要スルニヨリ稍狹小ノ感ハアレト風光明媚ニシテ交通機關亦完備シ博覽會場トシテ古キ歴史ヲ有スル上野公園地ヲ豫選シ先ツ上野公園管理者タル東京帝室博物館總長ニ對シ土地借用方ノ内協ヲ爲スニ至レリ然ルニ總長ハ之ニ贊同ノ意ヲ表シ無償貸與ハ勿論可及的ノ便宜ヲ與フヘキ意ヲ洩ラサレタルヲ以テ終ニ此地ヲ會場ニ充ツルコトニ決シ各般準備ノ歩ヲ進メタリ

上野公園地ヲ博覽會敷地ニ貸與スル條件

一、別紙略圖朱線内掛ケ紙ノ貳ケ所ハ差支アルヲ以テ之ヲ除キ(圖面省ク)其他ハ請求ノ通貨與スヘシ但左記ノ道路ハ開會ニ最必要ノ期間ニ限リ圍込ムモノトシ閉會後ハ速ニ開放シテ公衆ニ通行セシムヘシ

東京帝室博物館正面竹ノ臺道路

屏風坂通り道路

東及西仲通り道路

鷹坂上ヨリ東園凌雲橋等ヲ經テ車坂上ニ達スル道路

雷盆山角ヨリ斜ニ車坂上ニ達スル道路

二、博物館及表慶館ヲ博覽會場内ニ圍込ミノ爲メ同館覽禮賣下收入金補償ノ目的ヲ以テ相當ノ金圓ヲ東京帝室博物館ニ納付スルコト

右金額ハ博覽會ノ爲メ東京帝室博物館ニ於テ一般ノ觀覽札賣下ヲ爲スコト能ハサル期間ニ於ケル前三箇年間ノ博物館觀覽札賣下代金ヲ平均シタル額トス但納入期日ハ迫テ東京帝室博物館ト協定スヘシ

博物館及表慶館ハ大正三年三月十七日(即博覽會開場三日)迄及八月四日(即閉會後三日)以後ハ平素ノ如ク公衆ノ觀覽差支ナキ様處理スヘシ但設備ノ都合ニヨリ本文期日ヲ繰上又ハ繰下ヲ要スルコトアルトキハ東京帝室博物館ニ協議スヘシ

三、勸業協會及日本美術協會建物ヲ圍込ムコトハ東京府ト當該協會ト協議スヘシ

四、朱線内ニ入ル從來ノ小憩所バノラマ及椽臺配置ノ場所ハ博覽會ニ於テ其儘營業ヲ許スコト但椽臺配置ノ場所ヲ博覽會ノ都合ニヨリ變更ヲ命スルコトアルトキハ豫メ東京帝室博物館ニ協議スヘシ

小憩所バノラマノ借地料及椽臺檢印料ハ東京帝室博物館ニ徵收スルヲ以テ博覽會ノ爲メ別ニ地代其他ノ名義ヲ以テ一切出金セシムルヲ得サルモノトス

五、陳列館其他一切ノ建造物ヲナサントスルトキハ大小ニ拘ラス其坪数ト位置トヲ圖面ニ記シ東京帝室博物館ノ承認ヲ得ヘシ

六、會場内ノ飲食店小憩所等ハ成ルヘク圍込地ノ道路ニ設ケ樹木ニ接セサル場所ヲ選ムヘシ

七、竹ノ臺陳列館(第一回博覽會第二號館)ヲ使用スルニ於テハ屋根總體トタン引海鼠板ニテ増葺ヲナシ兩楯其他ニ修理ヲ加ヘ館内外ノ壁漆喰及ベンキ塗等塗替ヲ要ス

八、東京帝室博物館内ニ設ケル陳列館ハ少クモ三百坪ニ階建トシ詳細ノ仕様設計ハ東京帝室博物館ニ協議ヲ要ス又三號館ト聯絡スル通路ノ建物ヲ造ル場合ニアリテハ不燃質ノ材料ヲ用井其ノ他博物館本館及三號館ニ對シ出來得ル限リ火災ノ危険ヲ防止スル設備ヲ施スコトヲ要ス右建物ハ閉會後無償ニテ東京帝室博物館ニ引渡スコト

九、竹ノ臺及四軒寺跡ヘ各壹箇所水道ヲ引用シ閉會後其儘差置キ無料ニテ公衆ニ使用セシムル様東京市ヘ交渉ヲ要ス

十、不忍池ノ一部ニ棧道ヲ設クルトキハ閉會後池中ニ打チ立テタル杭等ハ悉ク援取り池中ニ落入タル瓦石其他ノ雜物ハ清潔ニ掃除スヘシ

不忍池ノ蓮藕培養ハ小川房次郎ニ請負ハセアルヲ以テ培養事項ニ損害ヲ與フルコトアルトキハ相當ノ賠償ヲ要ス

十一、不忍池ニ架セル觀月橋ハ堅牢ニ修理ヲ要ス

十二、不忍池周圍ノ道路ハ會後東京帝室博物館ニ協商シテ相當ノ修理ヲナシ返還スヘシ

十三、公園内ノ大樹ハ伐採又ハ移植スルコトヲ許サス但近年植付ケタル樹木ハ東京帝室博物館ノ承諾ヲ經ルニ於テハ移植スルコトヲ得

十四、會場内ニ取設ケタル建造物ハ會後左ノ期間ニ取拂ヒ地所原形ニ復シ返還スヘシ但復舊ノ仕様ハ東京帝室博物館ニ於テ作ル所ノ仕様書ニ據ルモノトス

百坪以内ハ三十日以内

百坪以上百五十坪未満ハ五十日以内

百五十坪以上二百坪未満ハ七十日以内

二百坪以上四百坪未満ハ一百日以内

四百坪以上ハ一百五十日以内

十五、開會中東京帝室博物館庶務課員及公園々丁ハ會場諸門ヨリ何時ニテモ立入り園地ノ監督樹木ノ培養等ニ從事スヘシ

而シテ本會會場ハ公園内丘上ヲ第一會場トシ不忍池畔ヲ第二會場トシ尙日本體育會出願ニ係ル同會場外出品場所ヲ第一會場附屬地トシ陸海軍飛行場ヲ青山及芝浦ニ置ケリ

第一會場

第一會場ハ公園内竹之臺全體ヲ中央トシ南ハ雷神山ノ高地一部トバナノラマ館跡ニ跨リ東ハ元四軒寺跡全部東北ハ鶯坂上東園全部北ハ博物館構内一圓内博物館事務所ヲ除ク西北ハ美術學校前及動物園前ノ道路ヲ限ル二本杉山林全部ヲ併セタル地域ニシテ此面積七萬三百四拾五坪四合ヲ算ス

第一會場附屬地

第一會場附屬地ハ帝國圖書館ノ前面博物館事務所トノ中間ニアル茗荷山ノ地區ニシテ此面積壹千貳百拾四坪トス

第二會場

第二會場ハ不忍池畔及東京勸業協會陳列館ノ地ト張出通路ヲ合セタルモノニシテ此面積貳

萬八千八百四十八坪七合ニ達セリ

青山飛行場

青山飛行場ハ舊練兵場ヲ充テタリ其區域ハ主トシテ場ノ北部ヲ使用シ東北方ハ中央線信濃町停車場傍ヨリ鐵道線路ニ沿ヒテ西北隅ニ到リ西ハ第一師團四聯隊前ヲ限リ東ハ權田原電車停留場前迄ノ地區ト青山二丁目入口ヨリ民家側ニ沿ヒタル練兵場ノ一部ヲ併セ此面積五萬六千四百七十七坪五合アリ

芝浦飛行場

芝浦飛行場ハ東京市ニ於テ埋立ヲ爲シタル芝浦第五號地ノ海岸ニ面シタル一帯ノ地域ニシテ此面積壹萬六千四百九十七坪アリ

第一會場附屬地トモ

七萬壹千五百五十九坪四合

第二會場

貳萬八千八百四十八坪七合

青山飛行場

五萬六千四百七十七坪五合

芝浦飛行場

壹萬六千四百九十七坪

合計拾六萬七千五百五十二坪六合

ニシテ從來開催セラレタル各種博覽會又ハ共進會中未曾有ノコトニ屬ス今試ニ前回ノ博覽會ニ比較スレハ

- 第一回内國勸業博覽會(上野) 敷地面積貳萬九千八百七坪
- 第二回内國勸業博覽會(上野) 敷地面積四萬參千參百坪
- 第三回内國勸業博覽會(上野) 敷地面積四萬坪
- 第四回内國勸業博覽會(京都) 敷地面積五萬五千五百五十八坪
- 第五回内國勸業博覽會(大阪) 敷地面積十萬四千八百七十六坪餘
- 東京勸業博覽會(上野) 敷地面積五萬八千八百三十三坪八合
- 第十回關西府縣聯合共進會(名古屋) 敷地面積九萬八千六百二十四坪
- 群馬縣主催一府十四縣聯合共進會(前橋) 敷地面積貳萬六千七百六十六坪餘
- 東京大正博覽會 敷地面積拾六萬七千五百五十二坪六合

即チ遙ニ雄大ニシテ其ノ規模内國博覽會ノ施設ヲ超ユルヲ見ルヘク出品數從テ多量ニ各館坪數亦宏壯ナル面積ヲ要シ此敷地ヲ以テシテ尙狹小ノ感アリキ本會ノ敷地ハ地勢上第一會場同附屬地ト第二會場トハ各孤立ノ狀態ニアリテ其連絡道路ハ僅カニ東京勸業博覽會開催ニ際シ開鑿セラレタルモノアルニ過キス從テ其連絡設備ニ關シ企圖スルノ必要ヲ認メタリト雖モ多大ノ經費ヲ要スルカ爲メ遂ニ決行スルニ至ラサリシカ偶、興行物トシテ「エスカレーター」ノ設置ヲ出願セシ者アリ本會ハ調査ノ結果之ニ許可ヲ與ヘ以テ連絡通路ノ一ト見做セリ

第二節 會場ノ配置

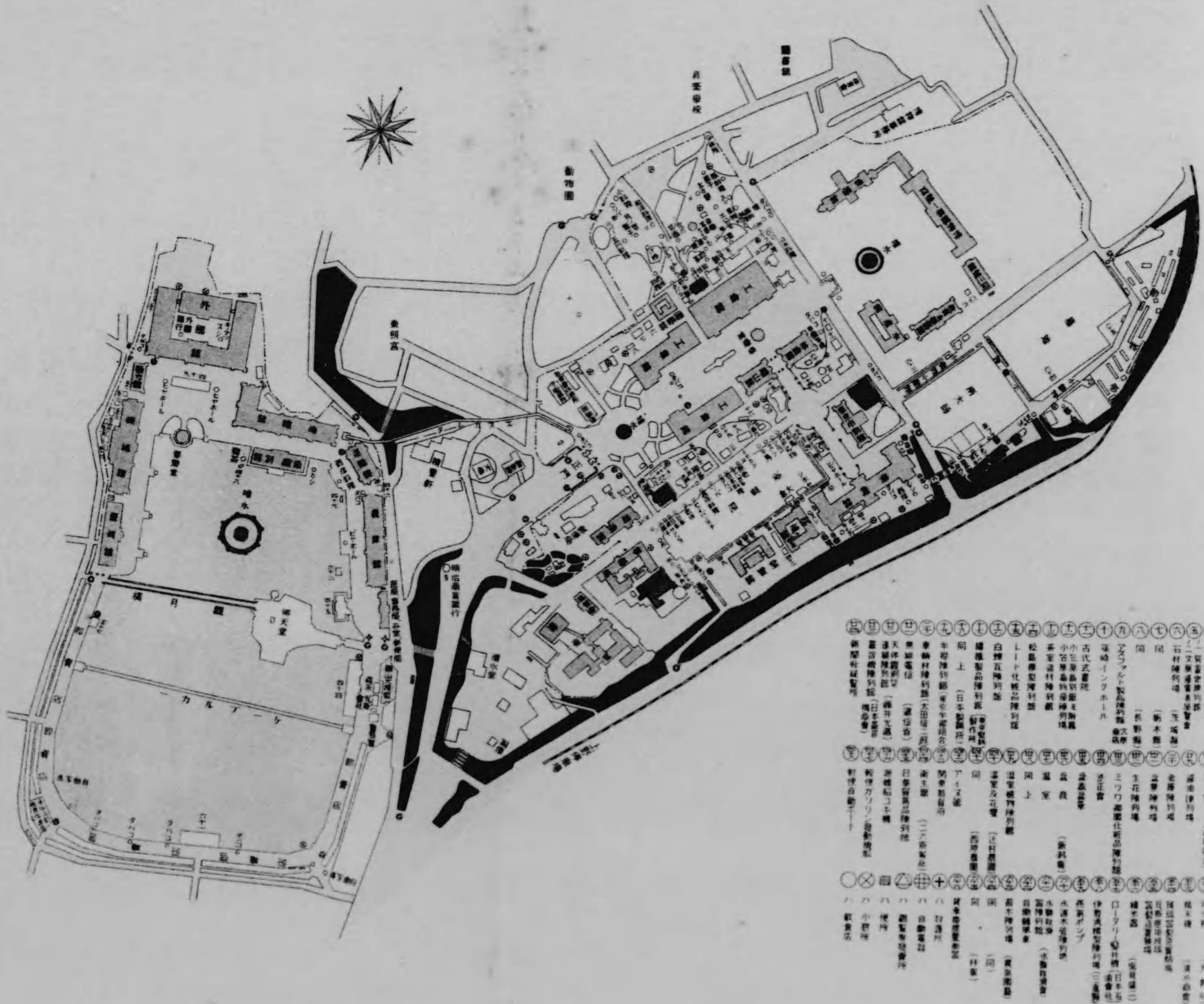
各館及重ナル建築物ノ配置ハ土地ノ狀況及背景各建築物ノ連絡等ニ就テ深甚ナル注意考案ヲ要スルコトハ論ヲ俟タサル所而シテ本會ノ如キ規模曠大ナルニアリテハ多大ノ敷地ヲ要スルコト亦明カナルニ拘ハラス土地ノ制限アリ且第一會場ノ如キ到ル處樹木多クシテ是カ伐採移植ハ博物館ノ容易ニ許容セラレサルト墓地山林等ニ妨ケラレ配置上幾分亂雜ノ傾キアリシヲ免カレス第二會場ニ於テモ亦不忍池畔ノ土地狹隘ニシテ各館長ク軒ヲ竝ヘ附屬建築物ノ敷地ニ乏シク且構内樹木尠ナキ爲メ風致ヲ缺クノ憾ナキニシモ非サリシカ東叡一體ノ森林ヲ背景トシ不忍池ニ臨ンテ巍々タル大館ノ圍繞セシハ壯麗ヲ極メタリ今各會場ニ於ケル重ナル建築物ノ配置ヲ列記セハ左ノ如シ

一、第一會場

本會ノ名譽的代表タル名譽門ハ上野公園入口ニ當ル廣場ニ設ケ其正面ニハ智德塔ヲ建設セリ正門ハ小松宮御銅像ト大佛背後トノ間竹之臺正面大道路ノ中央ニ建設シ正門ヨリ博物館表門ニ通スル大道路ヲ利用シ其左右ニ第一號第二號ノ工業館ヲ相對峙セシメ第三號工業館ハ第二號工業館背後帝室博物館所屬ノ陳列館ヲ以テ之ニ充テ其正面ニハ鑛山、林業ノ兩館ヲ設置セリ噴水ハ正門ヲ入りタル中央ニアリ奏樂堂ハ其與大道路ノ中央美術館ニ到ル大道路ノ交互點ニアリテ正門ヨリ噴水ヲ通シテ其壯麗ナル容姿ヲ望觀スルヲ得園藝館ハ第二號工

業館ノ左側背後ニ巢鴨病院出品館及鳴禽舎ハ第三號工業館ノ右側ニ小笠原及伊豆諸島館並
 遞信省出品館ハ第一號工業館ノ右側背後ノ山林中ニアリ其他事務局ハ元バノラマ館跡ニア
 リテ其前面通路ハ公開シ内外交通ニ便ナル場所ニ置キタリ郵便局ハ雷神山ノ麓正門前ノ大
 道路ニ面セル小丘ノ山林中ニ置キ内外ノ交通ニ便セシモ内部ヨリノ通路ハ迎賓館及公園内
 茶亭ノ爲メニ支ヘラレ一目其所在ヲ認ムル能ハサルニヨリ開會後はヲ構外トナシタリ守衛
 本部及詰所ハ小松宮御銅像ノ背後ニ置キ第壹救護所ハ第二工業館左端ノ山林中最モ閑靜ナ
 ル位置ト人目ヲ惹キ易キ場所ヲ選定シ看守人食堂ハ凌雲院構内ニ置ケリ竹之臺ヨリ元四軒
 寺跡ニ至リテハ林業館ト鑛山館トノ中間ニ連絡門ヲ設ケ其中央ヲ四軒寺跡ニ通スル大通路
 トシ此通路ノ左右ニハ裝飾柱列ヲ建設シ大通路タルヲ示シ且美觀ヲ添ヘタリ此大通路正面
 ニハ美術館ヲ置キ其右方ニハ特別館及拓殖館アリ盆栽及温室植物陳列所ハ共ニ拓殖館ノ前
 凌雲院ノ土手際ニアリ博物館構内ニ到レハ其門前ニハ博物館構内ノ會場タルコトヲ知悉セ
 シメムカ爲メ工學博士伊東忠太氏ノ考案ニ係ル華表六基ヲ建設シ構内ニハ右方ニ表慶館ト
 相對シ教育學藝館アリ其右方ニ接シ水産館ヲ置キ博物館第三號館ヲ借用シテ衛生經濟西陣
 織物ノ陳列場ニ充ツ而シテ此三號館ノ外博物館全部及表慶館ハ特ニ博物館ノ厚意ニヨリ入
 場者ヲシテ觀覽セシメムカ爲メニ教育學藝館ト第三號館ノ間ニ廊下ヲ附シ下足預リ場ヲ設置
 セリ動物舎ハ大動物及小動物ノ二ニ區分シ小動物舎ハ博物館ト兩大師トノ中間道路ヨリ兩
 大師背後迄ニ建設シ其先方ニ動物審査所及審査員詰所等ヲ設ケ大動物舎ハ鶯坂上東園一面

東京大正博覽會配置圖



ノ山中ニ建テ連ネ事務所管理人詰所飼料調理所等ヲモ建設セリ苗木陳列場所ハ大動物舎ノ
前面及博物館構内ニ設ケ蜜蜂陳列所ハ苗木陳列所内ニ置キ審査所ハ櫻ヶ岡日本美術協會陳
列館全部ヲ借入レ之ニ充テタリ協賛會ハ其事務所ヲ本會事務局ニ隣接セル日本美術協會構
内ニ置キ迎賓館ヲ雷神山ノ麓本會事務局ノ前面ニ演藝場ヲ本會事務局ノ後方元バノラマ館
跡ニ教育活動寫真館ヲ迎賓館ノ右道路ヲ隔テタル丘上ニ休憩所ヲ四軒寺跡見晴シニ夫々設
置セリ特設館ノ重ナルモノニアリテハ東京市出品館ハ美術館前大道路ノ左側ニ朝鮮館ハ拓
殖館ト近接シ樺太館其傍ニアリ朝鮮樺太南滿洲等ノ休憩所並ニ臺灣喫茶店朝鮮賣店等モ亦
四軒寺跡見晴シ丘上ニ建設セリ日本體育會ノ設備ニ係ル體育館ハ第一會場附屬地ニ淺沼商
會及ヒ後藤毛織陳列館ハ第三工業館右方側面ニ巽畫會表裝陳列館並ニ文展優賞者日本畫陳
列館ハ第三工業館ノ背後ニ宮崎縣林業別館ハ博物館門前大道路ノ左方ニ篠崎インキホール
村田木材陳列所桑木造古代書院小笠島別館等ハ林業館ノ左側及脊後ニ大賣杉材陳列宮城縣
松島模型館平尾レト館三輪及胡蝶園化粧品陳列館生花及盆景金庫并ニ野田醬油陳列所等
ハ美術館前大道路ノ兩側ニ簡易植物温室ハ美術館脊後ト凌雲院裏側ニアリ第一工業館背後
ニハ品川白煉瓦會社日本製鋼所半襟商組合車輪材藤井レンズ日本蓄音器商會ノ各出品館ア
リ迎賓館庭園内ニハ茶室庭先門客室雷神山上ニ茶室ノ各建築物出品アリ第一工業館左ニ穴
原商會出品館アリ其他賀美法生會等ノ陳列所並ニ館外出品物等ハ枚舉ニ遑アラヌ興行物ハ
正門内左ニ第二會場へ通スル「エスカレーター」右ニ「サークラングウエーブ」及座禪堂アリ第三

工業館裏ニ電氣應用娛樂館アリ東京館ノ背後ニ美人島旅行館アリ凌雲橋北側ニ南洋館アリ
 飲食店ハ二本杉遊園地一體及凌雲院前及同南側道路ニ沿ヒ元四軒寺跡竝ニ凌雲橋ヨリ東園
 ニ到ルノ間夫々土地ノ狀況ニ依リ點々又ハ一列ニ配置セリ
 本會各門中一般觀覽人ノ出入シ得ヘキモノハ正門ノ外朝鮮館脇車阪門美術館脇屏風阪門東
 園鴛鴦坂門博物館事務所脇ノ櫻木門動物園前ノ錦小路門トシ通用門ニハ事務局脇園藝館
 裏屏風坂ノ三箇所ヲ充テタリ觀覽券賣場ハ正門前柱列ノ中央左右ノ二箇所ハ本會ニ於テ建
 設シ其他ハ協贊會ノ經營ニ係ルモノニシテ智德塔背後ニ一箇所正門前大佛下ニ道路ヲ挾ミ
 テ左右ニ二箇所其他各門前一箇所所ツツ置キ個人ノ經營ニ係ルモノハ名譽門左柱背後ニ
 一箇所アリキ揭示場ハ正門前一箇所其他ノ各門ニ各一箇所宛之ヲ立テタルカ別ニ告知板ト
 稱スル揭示板ヲ場内六箇所ニ置キ非常報知迷子其他用件告知等ニ關スル諸種ノ事項ヲ揭示
 シ觀覽人ニ便宜ヲ與ヘ福引當籤番號揭示場ハ場内外三箇所ニ之ヲ設置セリ
 警備ニ關シテハ正門前大佛山上ニ警視廳ノ設置ニ係ル上野警察署出張所アリ小松宮御銅像
 背後ニハ守衛詰所ヲ置キ其他巡查休憩所二箇所(警視廳設備巡查守衛哨舎二十二ヲ各要所ニ
 配置シ消防ニ關シテハ蒸氣ボンブ置場警視廳設備)ヲ博物館表門内ニ設ケ水管車置場ト消防
 詰所ヲ三箇所ニ配置セリ非常報知柱ハ各館其他重ナル建物ノ周圍竝ニ各要所ニ四十五ヲ設
 置シ消防第五分署及場内蒸氣ボンブ置場竝ニ消防詰所等へ連絡セシメ公衆休憩所ハ第一工
 業館前山林中ノ新聞縱覽所ヲ始メ四箇所ニ設備シ簡人出願ニ係ル無料休憩所ハ數箇所ニ公

衆便所ハ場内二十箇所場外三箇所ニ設置シ内外國人便所二箇所婦人專用便所一箇所アリ今
 回ノ便所設備ニ就テハ特ニ衛生ニ留意シ警視廳醫務部ト打合セ略完全ナルヲ設置セントセ
 シカ故ニ個人出願ニ係ル有料便所ハ許可セサルコトニ決シ本會ノ便所モ大ナル惡評ナカリ
 シハ幸トスルトコロナリシ公衆水呑所ハ各要所ニ數箇所ヲ設置シ内二箇所ハ「ドリンキング
 フアウンテン」ヲ大通路花壇ノ中央ニ置キタリ花壇ハ正門内噴水周圍及奏樂堂前及其周圍林
 籟兩館中央竝ニ美術館大通路ノ中央等ニシテ各館ノ周圍ハ芝及小樹ヲ植付ケタリ出品花壇
 ハ美術館ノ正面及背面等ノ左右ニアリ明治商業銀行出張所ハ場外第二會場通路ノ傍ニ赤十
 字社救護所ハ山王臺清水堂ノ背後ニアリキ

二、第一會場附屬地

第一會場附屬地ハ博物館事務所前茗荷山ニアリテ全部日本體育會ノ施設ニ係リ體育館ヲ建
 設シ體育上ニ要スル各種ノ體操器械類ヲ設備セリ

三、第二會場

第二會場ノ正門ハ辨天入口ノ右方ニ設ケ門内右方ニハ道路ニ沿ヒ第二郵便局事務局分室第
 二救護所等ノ一棟トシ次テ農業館運輸館染織館外國館動力館機械館等相連續シテ池畔ヲ繞
 リ染織別館ハ染織館ノ前面池中ニ突出シテ外國館別館ハ外國館裏ニ就レモ建設セリ而シテ
 外國館ハ東京勸業協會ノ陳列館ヲ借受ケテ之ニ充テタリ大噴水塔ハ不忍池中ニ奏樂堂ハ外
 國館前池中ニ建設シ周圍ニハ湧水池ヲ設ケタリ特設館ノ重ナルモノハ觀月門ト機械館トノ

間ニ臺灣館アリテ壯麗人目ヲ惹キ其對岸ニハ日華貿易參考館アリ中華民國ノ建築ヲ模シ其他冷藏庫ハ外國館前ニ精米機廻轉稻コキ機械玻璃器製造實驗場等散在シ場外ニアリテハ二六新聞社主催衛生館及水難救濟會陳列場アリ興行物ハ場内狹隘ナリシ結果場外ニ鑛山模型「ケーブルカー」教育活動寫真館等アリ飲食店休憩所ハ池中張出シノ場所ヘ五箇所外國館前二箇所同中庭ニ二箇所アリ第二會場ノ各門ハ正門以外觀月橋西詰ニアルヲ觀月門トシ外國館ノ西ヲ遠見門トシ東照宮下ヲ花園門トシ通用門ハ遠見花園兩門ノ傍ニアリ非常門ハ各要所ニ二箇所ヲ設ク觀覽券賣場ハ第一會場ト同シク協贊會ノ經營ニ屬シ正門前二箇所花園遠見ノ各門ニ一箇所觀月門ハ門柱ヲ利用シテ賣場ヲ設ケ箇人經營ニ係ル分ハ龍門橋脇ニ一箇所アリ揭示場ハ各門前ニ一箇所ツツ四箇所ヲ置ケリ警備ニ關シテハ正門外ニ上野警察署第二出張所ヲ置キ守衛詰所ハ染織館ト外國館トノ間ニアリ巡查休憩所ハ場内一箇所場外賣店間ニ一箇所アリ巡查守衛哨舎ハ場内外トモ十三箇所ヲ各要所ニ配置セリ消防ニ關シテハ蒸氣ポンプ置場ハ花園門脇ニアリ消防詰所水管置場ハ場内ハ遠見門脇場外ハ龍門橋ノ傍ニアリ非常報知器柱ハ第一會場ト同シク四十一箇所ヲ各要所ニ配置セリ公衆休憩所ハ染織館裏及外國館中庭ノ三箇所及機械館前張出一箇所無料休憩所ハ臺灣館前張出一箇所アリ公衆便所ハ場内外ヲ通シ十四棟ヲ設備シ公衆水吞所モ又場内外ヲ通シテ五箇所ヲ置キ花壇ハ重ニ出品ヲ利用シテ各館前面冷藏庫前ニ設ケタリ而シテ他ノ半面場外ニ屬スル分ハ賣店敷地トシ協贊會ノ經營ニヨリ第一ヨリ第五ニ至ル各棟一樣ノ建築方式ニヨリ整然トシテ並列セル

ハ從來ノ博覽會等ノ如ク大小各種ノ雜然タルモノニ比シテ改善ノ實ヲ舉ケタルモノ其他各個別ニ建設セル重ナルモノハ大阪府及愛知縣ヲ始メ十數軒アリ

四、青山飛行場

青山飛行場ハ本會ノ施設トシテハ飛行機格納庫ト是ニ關聯セル附屬建物竝ニ飛行場ノ設備ニシテ他ハ概ネ興行物及飲食店賣店ナリ而シテ格納庫ハ練兵場ノ北部 明治天皇御葬場跡ニ隣リ其東方ニ將校詰所事務室巡查守衛詰所等アリ滑走場ハ格納庫前ヨリ南ヘ約三百六十間巾四十間中央ヨリ二股ニ分割シ方向ヲ轉セシメ其域内ハ地均シヲ爲シ飛行ノ際ハ危險區域ヲ表示ノ爲メ所々ニ赤旗ヲ樹テタリ興行物ハ軍艦模型御即位式模型活動寫真等アリテ場ノ東側及青山二丁目入口ヨリ民家側ニ沿ヒタル場内ニ置キ飛行觀覽席ハ格納庫前滑走場ノ左右ニ飲食店賣店ハ共ニ興行物ト同一ノ場所ニ設置セリ

五、芝浦飛行場

芝浦飛行場モ亦青山ト同シク本會ハ格納庫其他附屬建物ヲ建設シ尙格納庫前ヨリ海中ニ滑走臺ヲ設ケ無線電信ノ設備ヲ爲セリ興行物ハ千里眼展望臺ケーブルカー等アリ飲食店賣店ハ共ニ格納庫ノ右方ニ一劃ヲ爲シテ建設セリ

飛行ノ場合ニヨリ隅田川ヘ着陸地ノ必要アルヲ以テ向島須崎園藝花壇脇地先ヨリ河中ニ滑走臺ヲ設備セルモ使用セシコト無カリキ

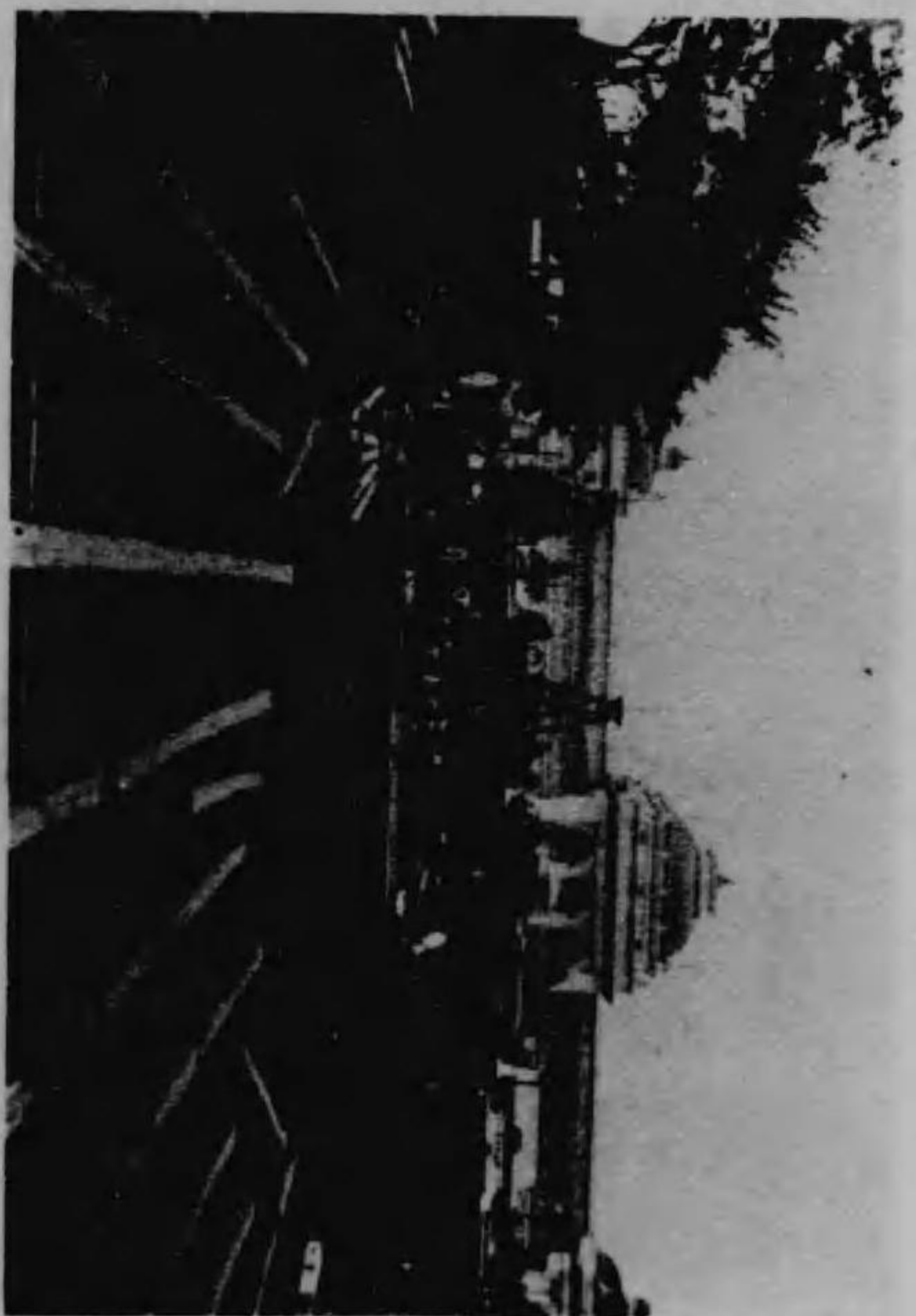
第六章 工事

第一節 起工及竣成

大正元年十二月通常東京府會ニ於テ博覽會開催並ニ之カ經費九十五萬圓ヲ可決セラレ大正二年一月ヨリ準備委員ヲ置キ調査ニ著手セシカ出品ノ範圍漸次擴大シ其規模モ亦隨テ擴張セサルヲ得サルニ至リ更ニ大正二年四月臨時府會ニ更正豫算ヲ提出シ之カ可決後爰ニ工事ノ準備ヲ了リ四月廿五日上野公園内博物館門前ニ工事課假事務所ノ建築ニ著手シ之カ落成迄ハ東京府廳構内東京府農會樓上ニ於テ建築ノ設計及其他ノ事務ヲ處理シ五月廿一日上野ニ移轉セリ其間現場ニ於テハ各館其他重ナル建築物配置ノ地割障害樹木移植ヲ始メトシ不
忍池中張出シ工事試杭打等ニ從事シ六月上旬ヨリ事務局ノ建築並ニ各館建築ニ著手シ大正二年十月三十一日上棟式ヲ舉行シ豫定ノ通り進行セリ而シテ重ナル功程ヲ列記セハ左ノ如シ

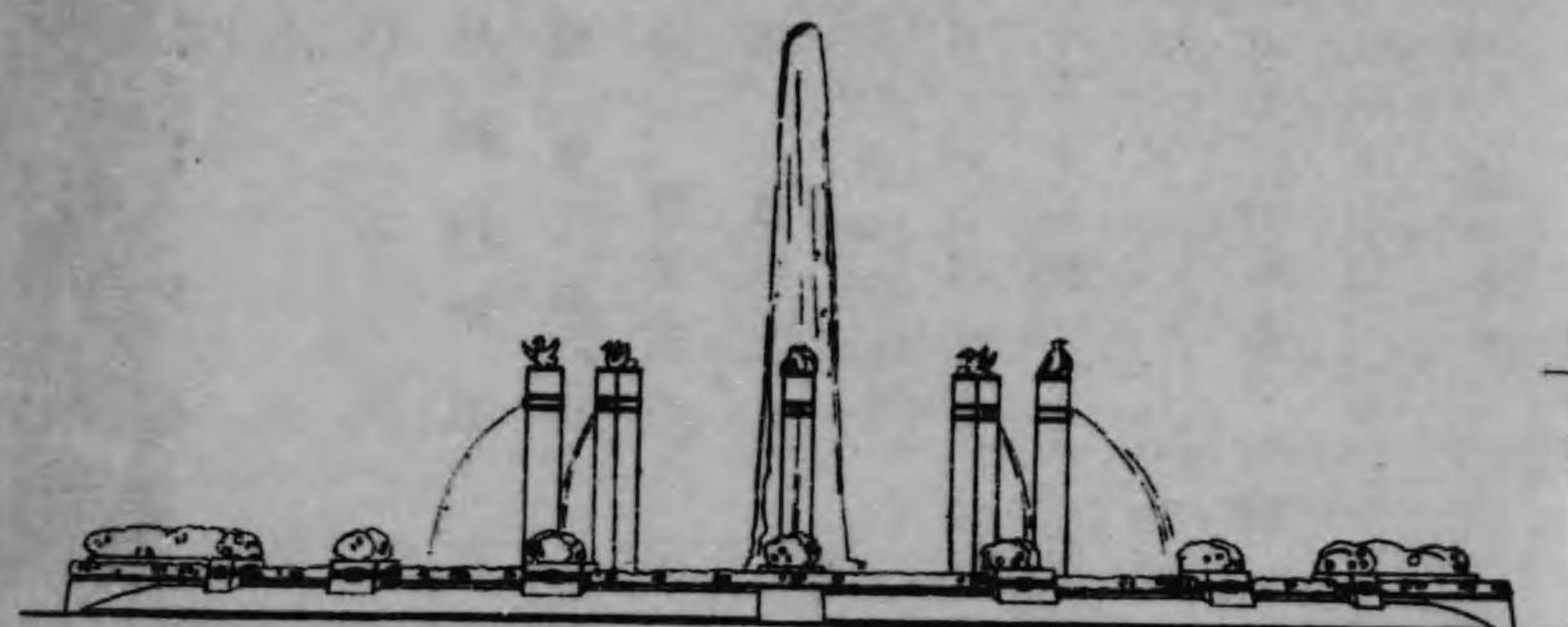
	起工	竣成
第一工業館	大正二年八月十三日	大正二年十二月六日
第二工業館	同	同
鑛山館	同	同
林業館	同	同
教育及學藝館	大正二年七月二十一日	大正二年十二月十五日

況 狀 行 進 築 建

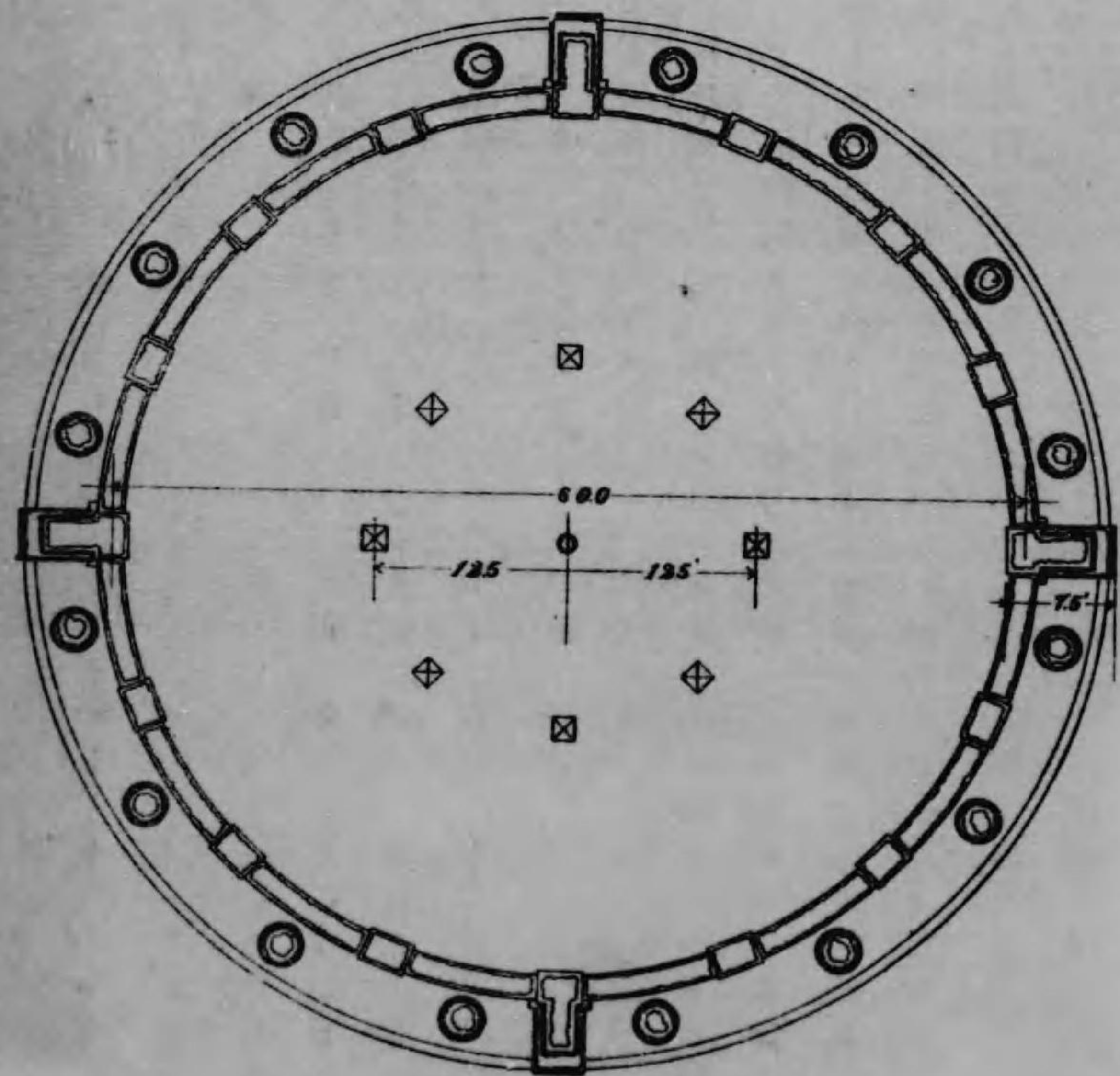


水產館	同	同
美術館	大正二年八月十六日	大正二年十二月十八日
特別館及拓殖館	同	同
園藝館	大正三年二月二日	大正三年三月五日
小笠原及伊豆諸島館	大正二年二月十六日	大正三年三月五日
遞信省出品館	大正三年二月十七日	大正三年三月十日
大動物舍	大正三年二月二十三日	大正三年三月十日
小動物舍	大正三年二月二十七日	大正三年三月十日
事務局	大正二年五月三十一日	大正二年八月十日
鳴禽舍	大正三年三月四日	大正三年三月十五日
巢鴨病院出品館	大正三年三月八日	同
第一會場正門	大正三年二月三日	同
第一會場噴水	大正三年二月二十一日	大正三年三月十日
第一會場奏樂堂	大正三年一月十日	大正三年三月十五日
名譽門及智德塔	大正三年三月十三日	大正三年三月十九日
農業館	大正二年七月二十六日	大正二年十二月二十三日
運輸館	大正二年八月六日	大正二年十二月十九日

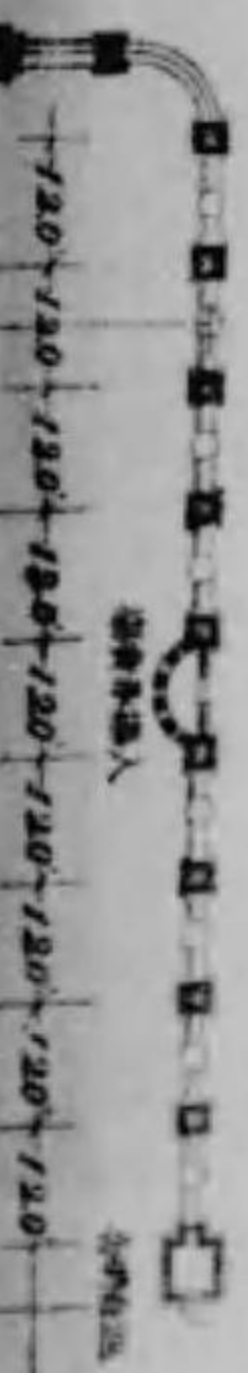
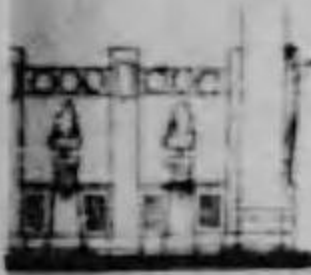
噴水設計圖
縮尺二百分の一



正面圖



平面圖



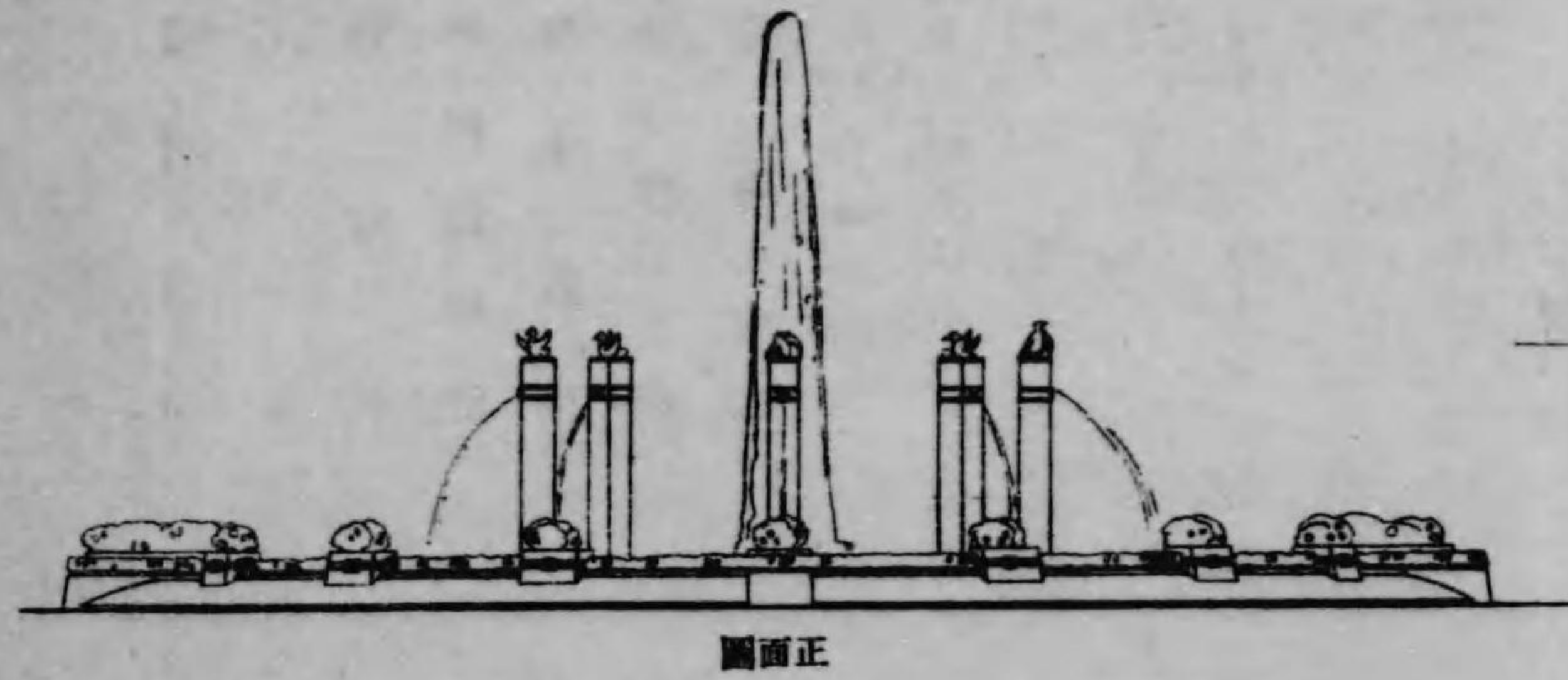
染織別館	大正二年七月二十六日	大正二年十二月二十三日
染織別館	大正三年一月十三日	大正三年二月二十八日
動力館	大正二年八月十六日	大正二年十二月二十五日
機械館	同	同
外國館増築	大正二年十月十六日	大正二年十二月二十二日
池中張出	大正二年七月八日	大正二年十月三十日
第二會場正門	大正三年一月十七日	大正三年二月二十八日
第二會場噴水	大正三年一月二十六日	大正三年三月十日
第二會場奏樂堂	大正三年一月二十八日	大正三年三月十五日

以上ノ如ク各主要建築物カ幸ニシテ其工期ヲ誤ラス豫定ノ如ク竣成スルヲ得タルハ天候順調ナリシニ加フルニ顧問技師指導ノ下受負人職工等ノ熱心努力ノ致ストコロニシテ本會ノ喜悅ニ堪ヘサルトコロ殊ニ本會建築工事ノ設計ニ就テハ相談設顧問工學博士塚本靖氏第一會場受持工學士中條精一郎氏第二會場受持工學士池田稔氏ノ最モ熱心ニ其衝ニ當ラレタルハ短期限ニ於テ廣大壯麗ナル建築物ヲ顯出セシニ與ツテ力アリ

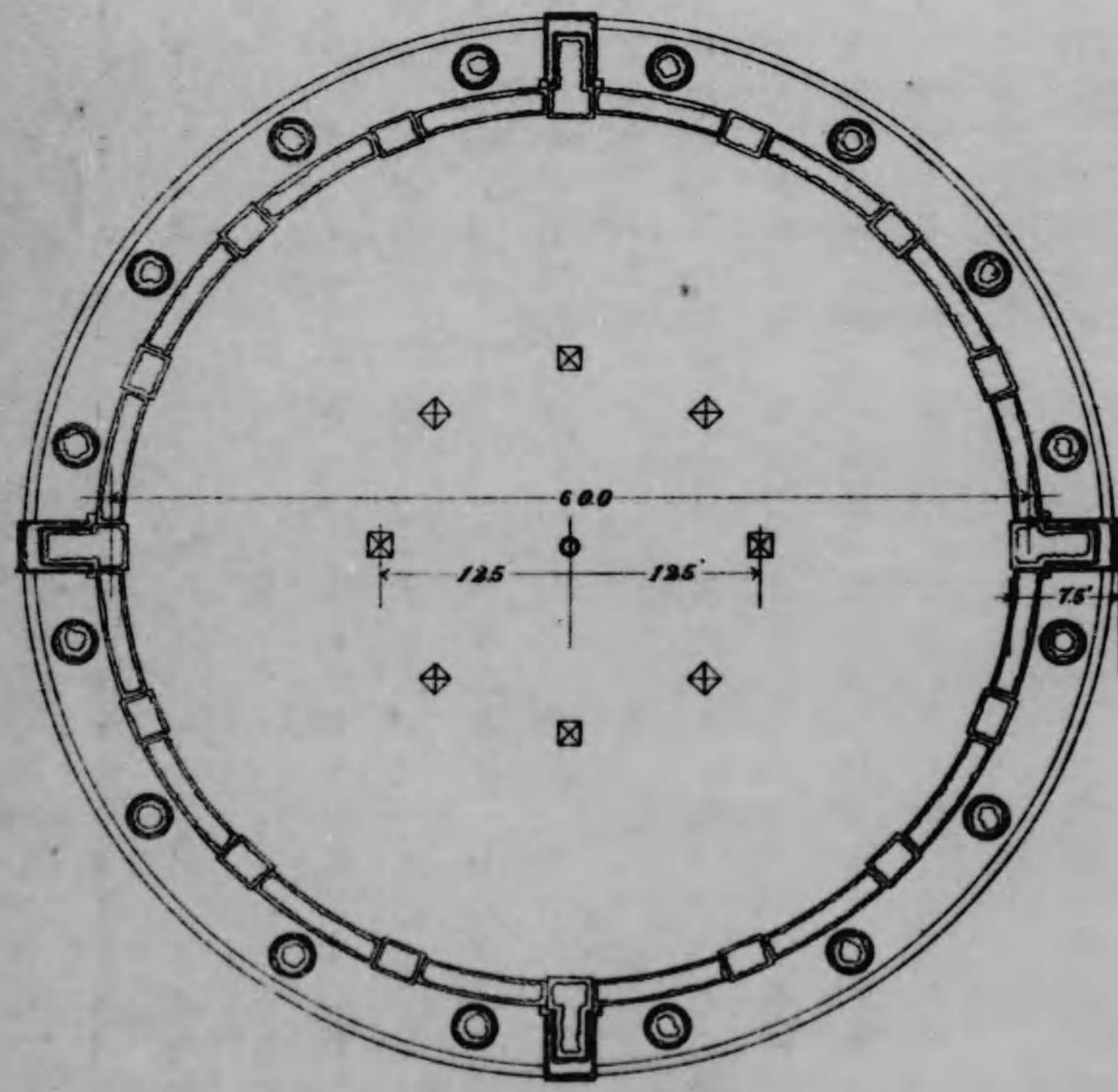
本會ノ建築ニ就テ從來ノ博覽會及共進會ニ比シ構造及設備上異リタル重ナル點ヲ擧クレハ各館内部天井及周壁ハ防火布ヲ張り出入口ヲ多クシ且ツ外壁下部ニ通風口ヲ設ケ換氣通風ノ注意ヲ須ヒタルト消防機關ニ蒸氣ポンプ二臺ヲ常備シ場内私設電話交換所ヲ置キ事務局

第一會場

噴水設計圖
縮尺二分之二

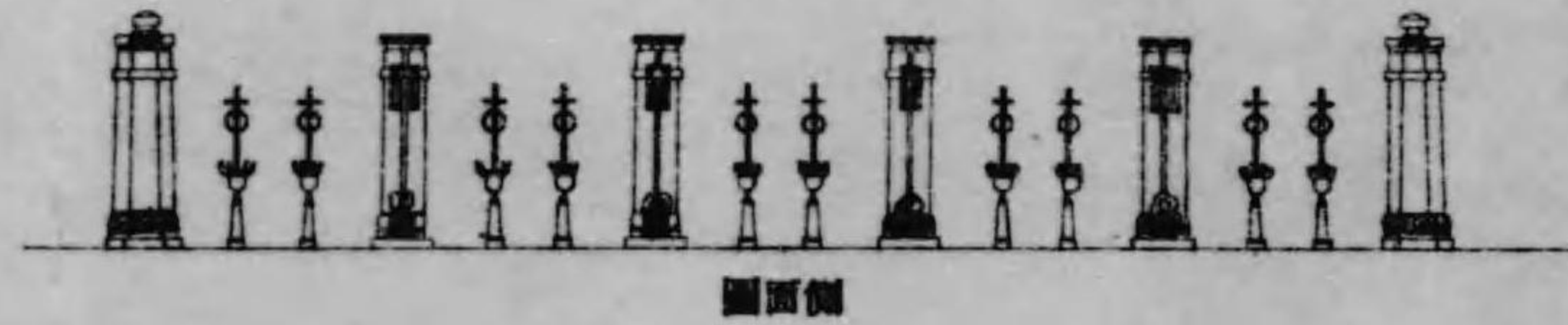


正面圖

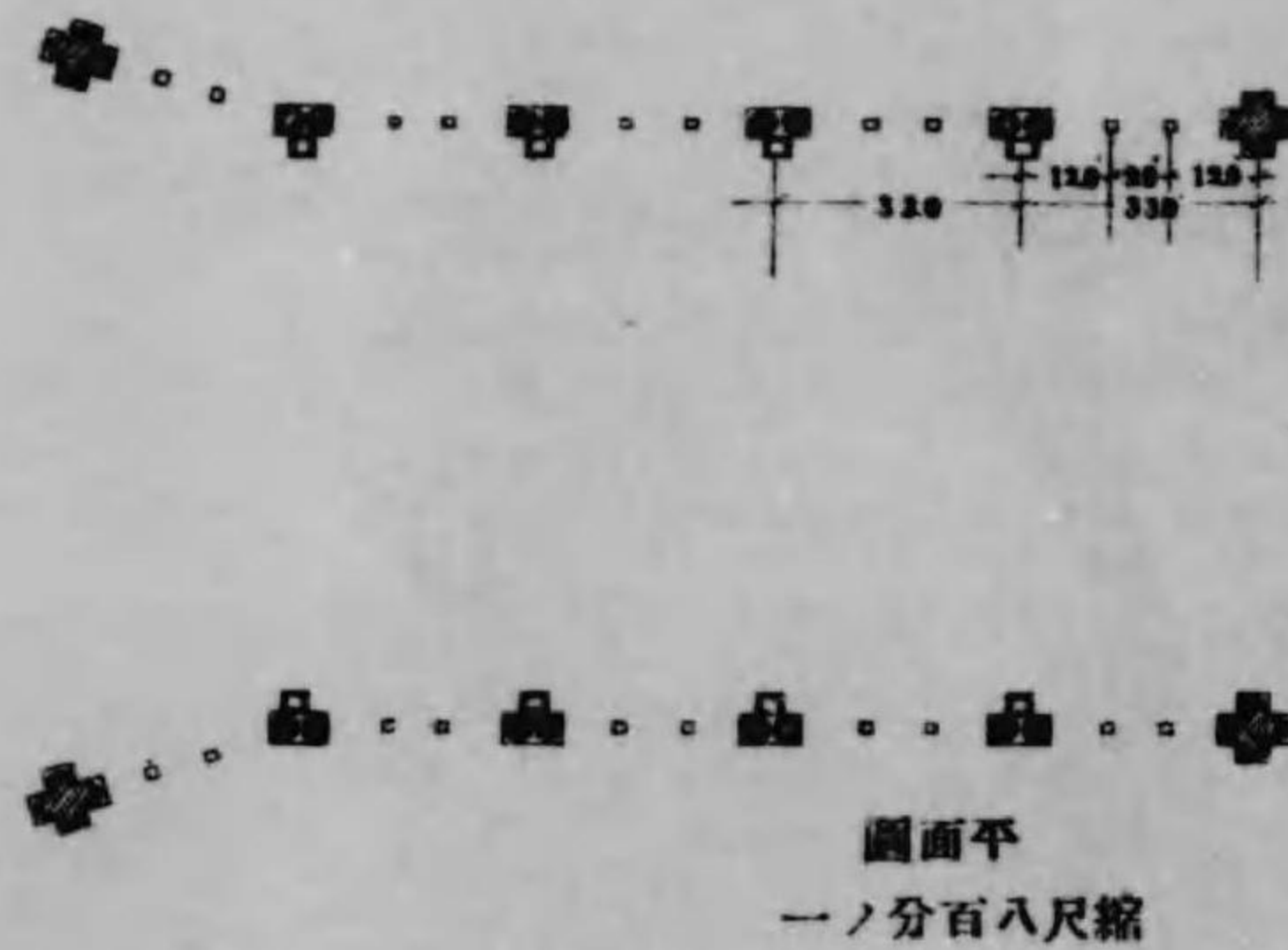


平面圖

名譽門設計圖
縮尺六分之二

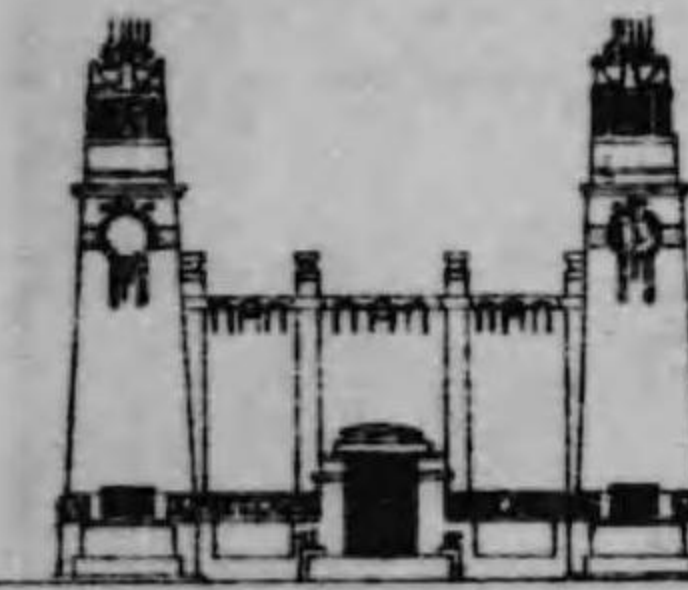


側面圖



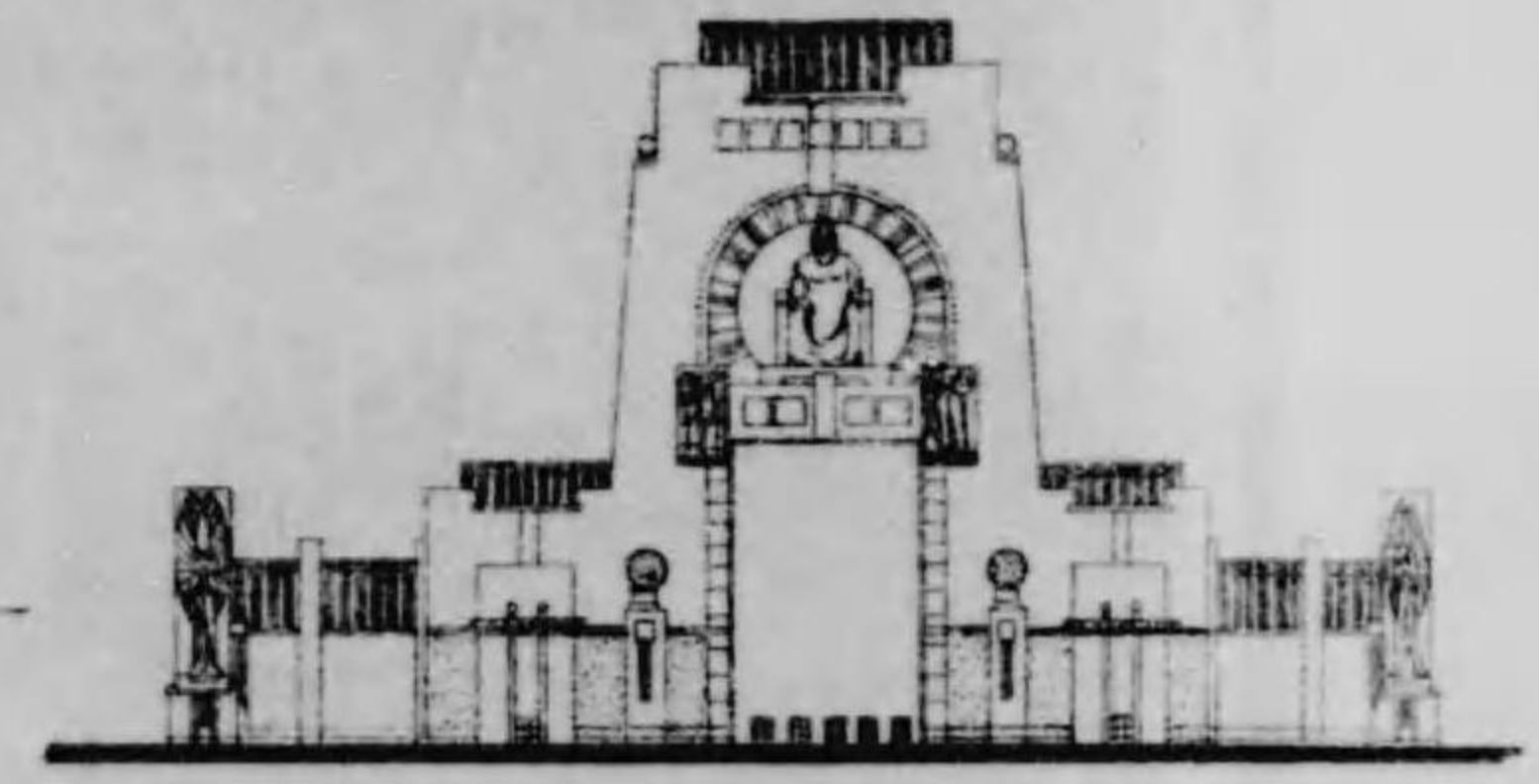
平面圖
縮尺八分之二

智德塔設計圖
縮尺六分之二

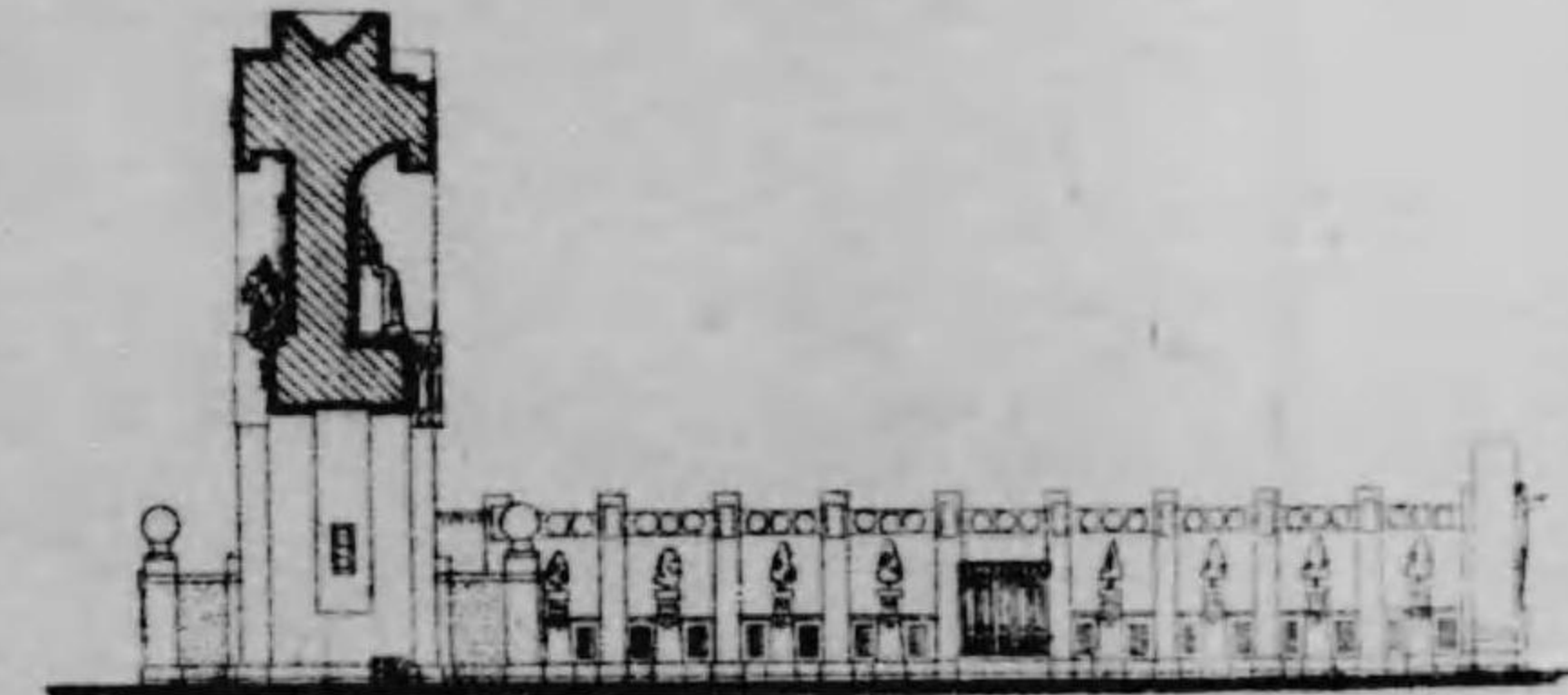


正面圖

正門設計圖
縮尺六分之二

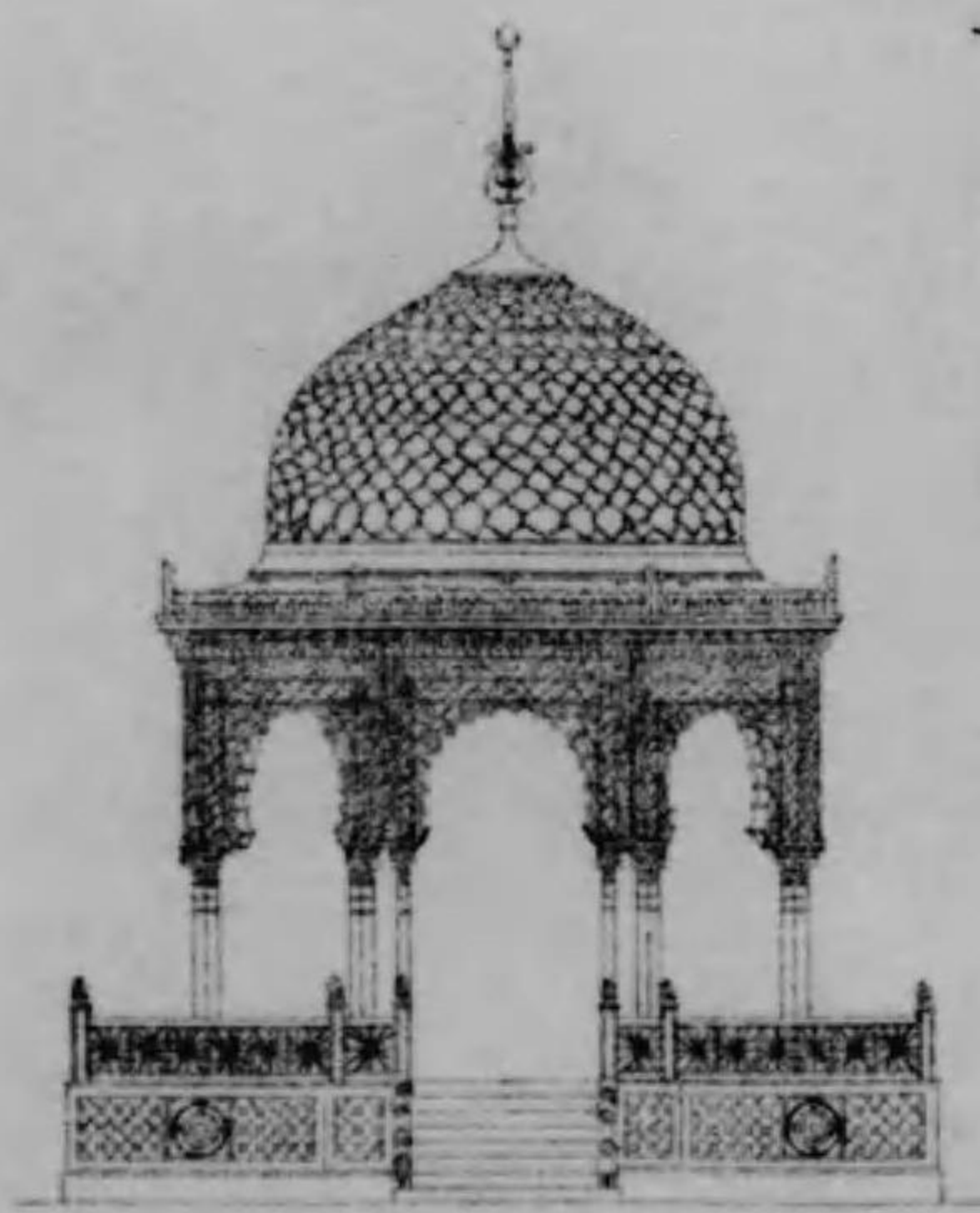


正面圖

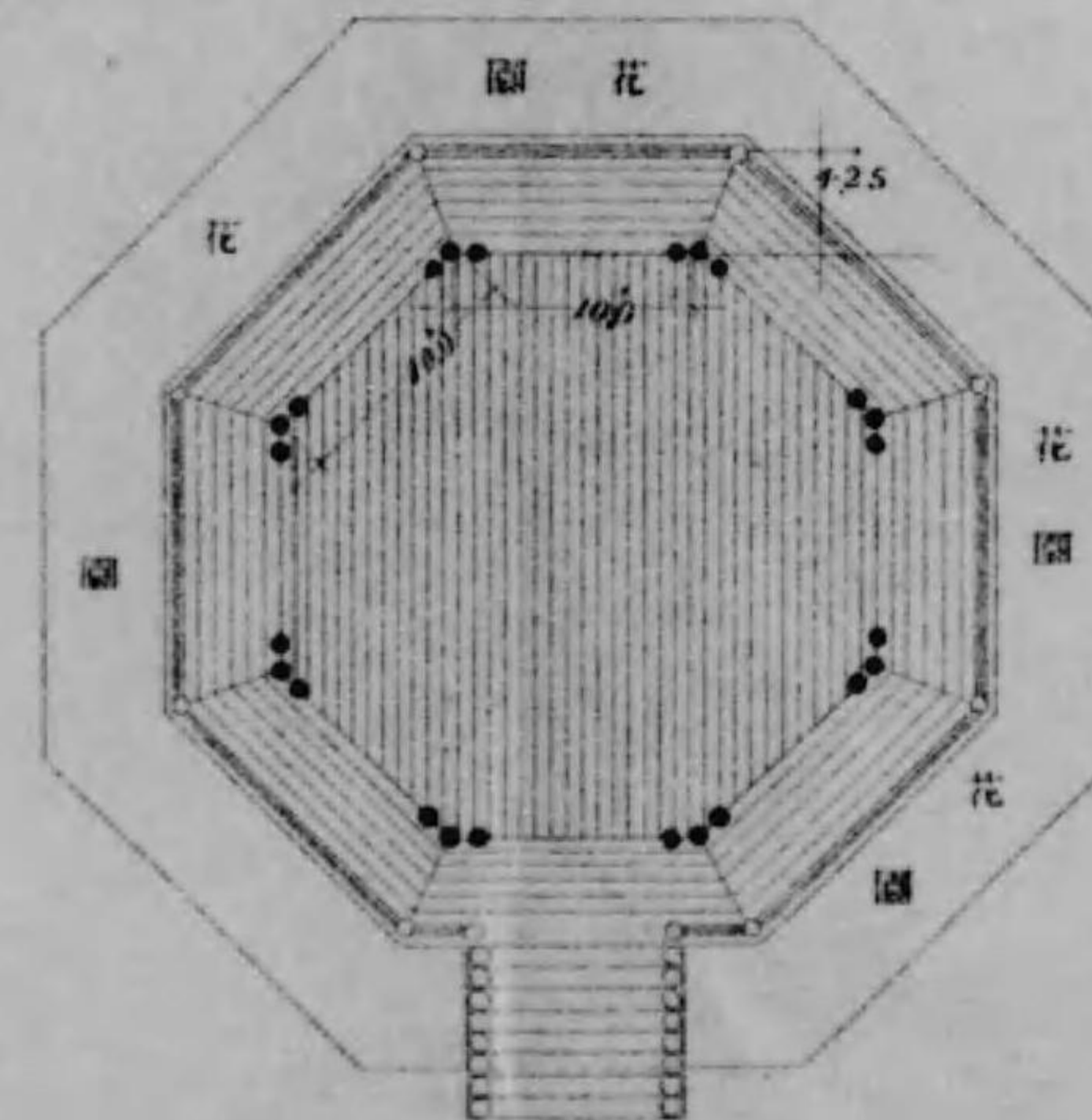


側面圖

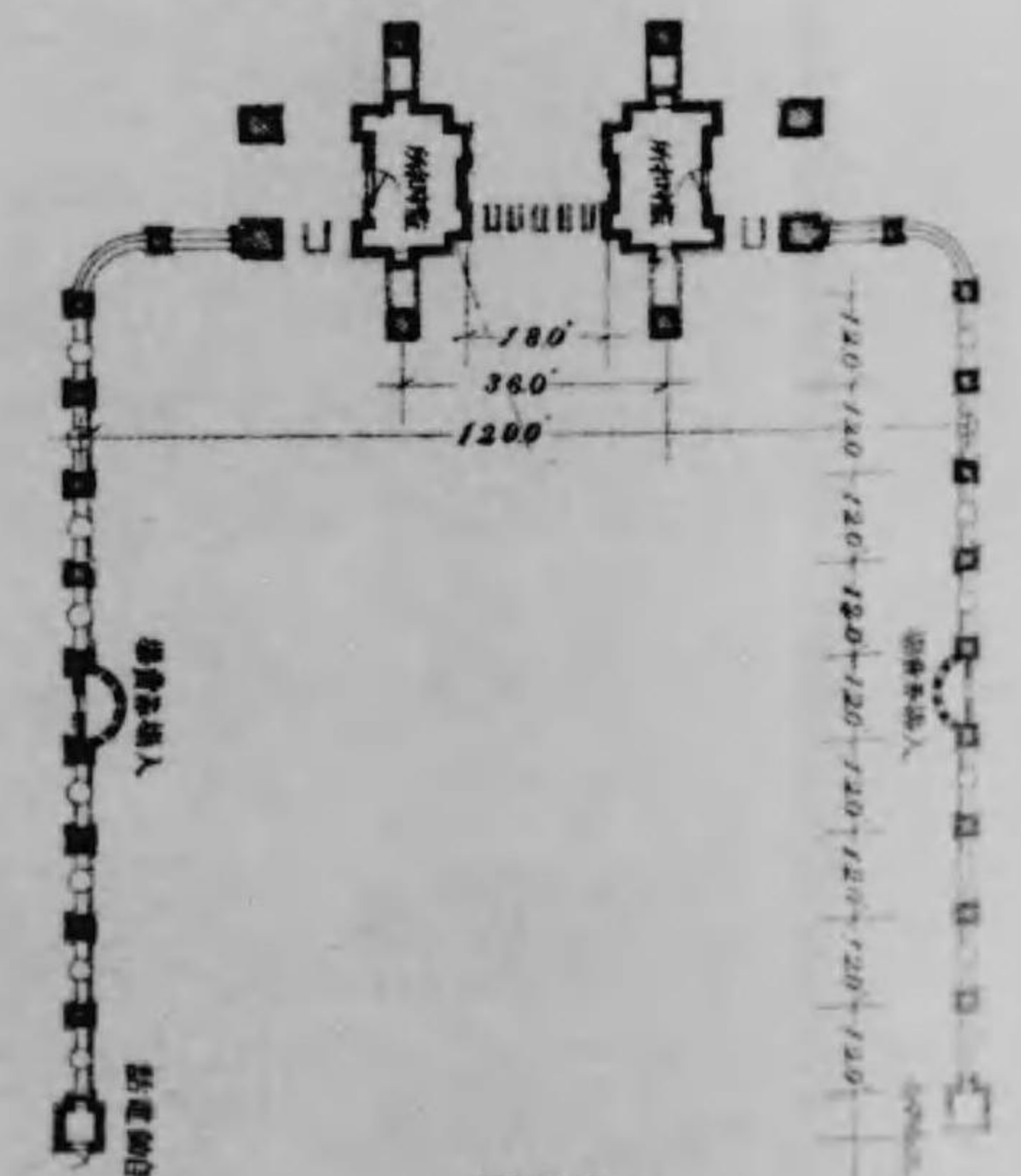
奏樂堂設計圖
縮尺二分之二



正面圖

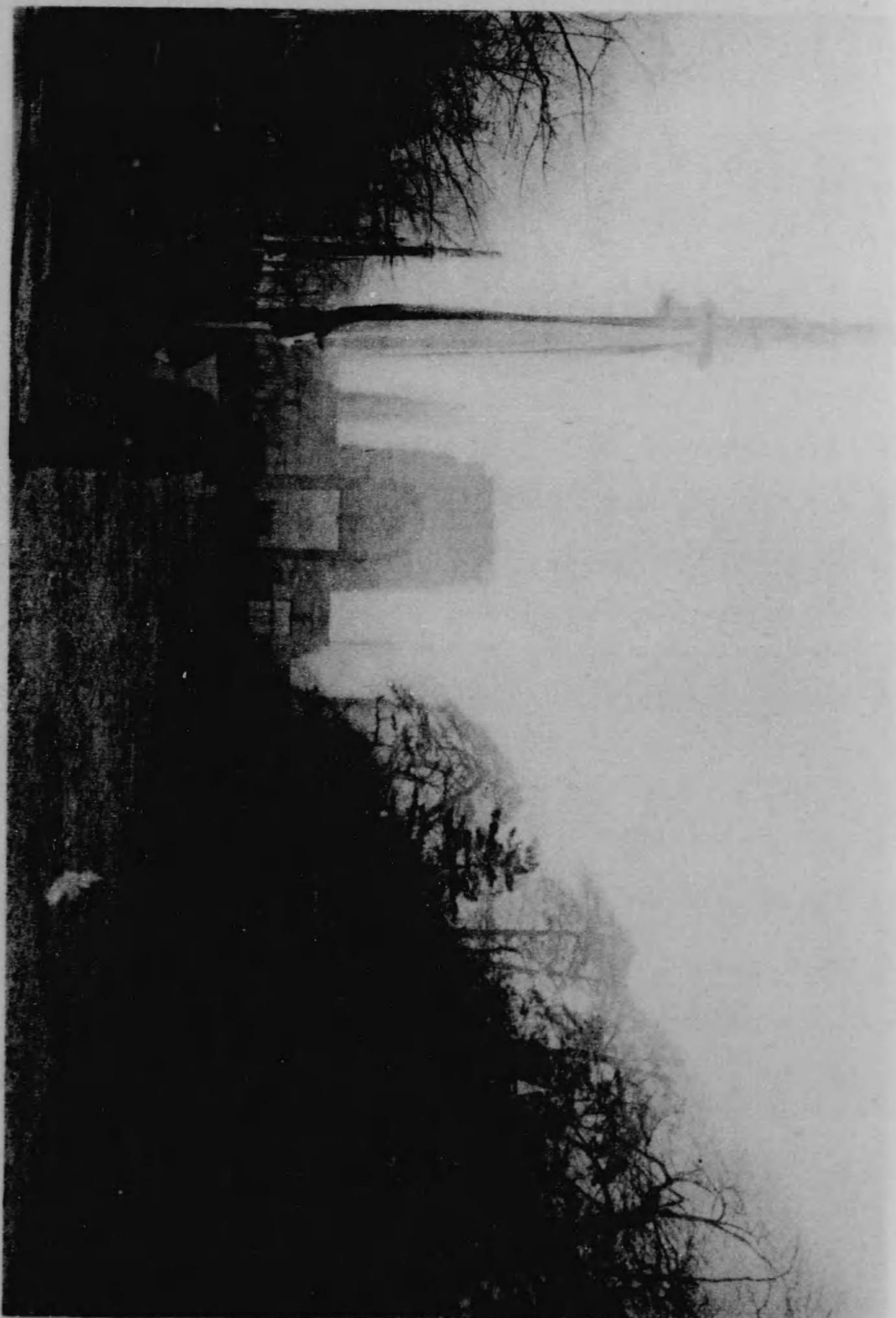


平面圖



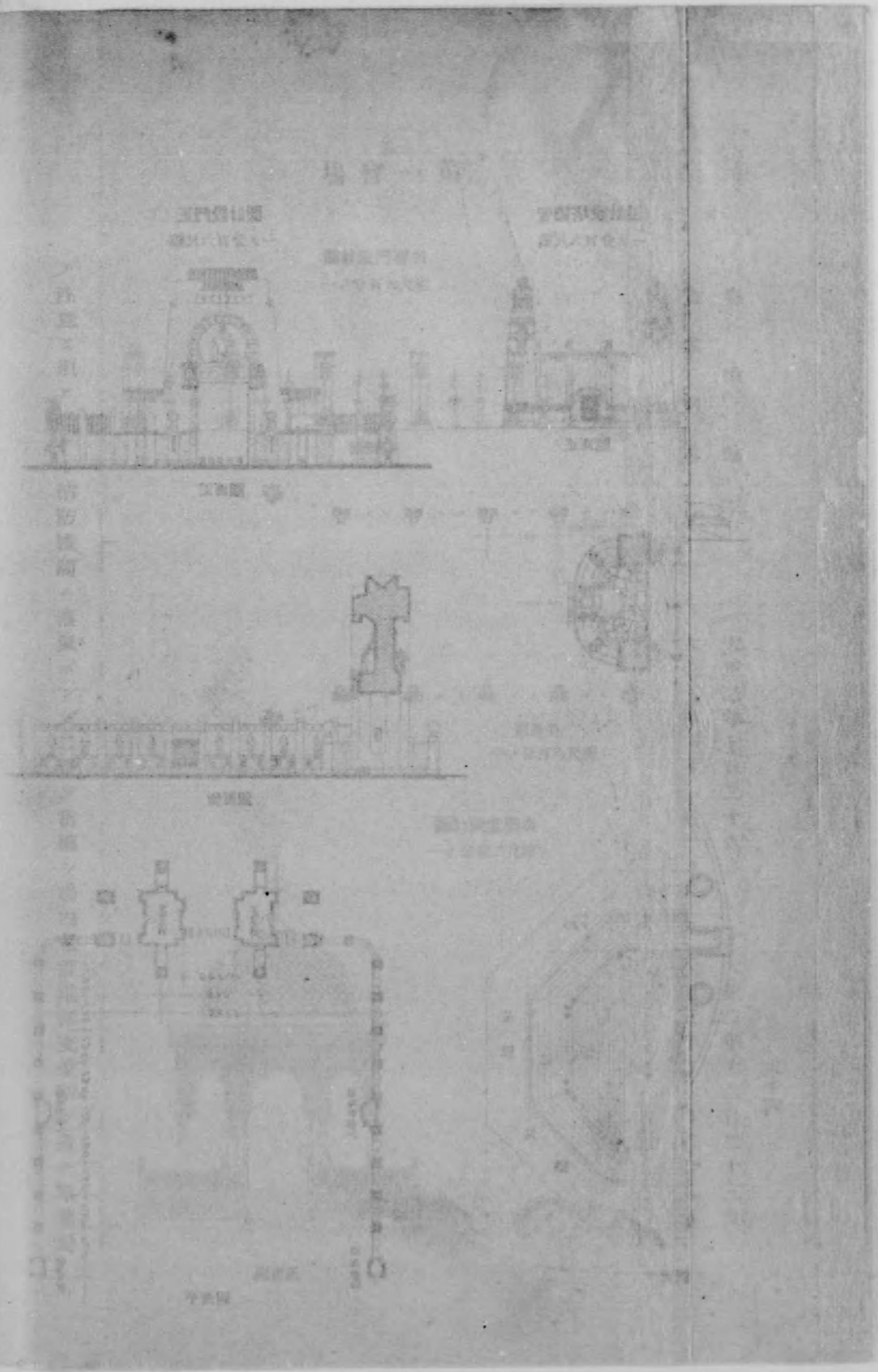
平面圖

本會ノ建築ニ就テ從來ノ博覽會及共進會ニ比シ構造及設備上異リタル重ナル點ヲ擧ケルハ
各館内部天井及周壁ハ防火布ヲ張り出入口ヲ多クシ且ツ外壁下部ニ通風口ヲ設ケ換氣通風
ノ注意ヲ須ヒタルト消防機關ニ蒸氣ポンプ二臺ヲ常備シ場内私設電話交換所ヲ置キ事務局



門

正



及各主要場所ハ勿論各館内迄内外ヨリ通話ヲ得セシコトト觀覽人ノ便ヲ圖リ非常報知迷子
用件等ノ揭示場ヲ設ケ第一第二ノ各會場正門内ニハ會場内主要建物ノ案内配置圖ノ大額ヲ
掲ケ且各所ニ紙屑入箱ヲ置キ新式水呑機ドリソキソグフアウンテンヲ設備セルコト電燈線
電話線非常報知機線ヲ總テ地中ニ埋設セルトニアレトモ此施設ハ開期中杭打又ハ掘上ケ工
事ノ際切斷セラレタルモノ數多アリテ當事者ヲ困難セシメタルコト屢々アリキ

第二節 第一會場建築物

名譽門及智德塔

名譽門及智德塔ハ上野公園入口廣場ニ建築セルモノ名譽門ハ廣場ノ左右ニ柱列ヲ作り智德
塔ハ其正面ニアリ當初此計畫ヲ有セザリシカ開會十日前開會式ノ爲メ同所ニ一大綠門ヲ建
設セントスルニ際シ特ニ人目ヲ惹クニ足ルヘキ建築物ヲ必要トスルノ議起リ最モ短期ノ日
子ニ於テ建設セルモノナリ其構造ハ「セセツシヨ」式ニ法リ木造漆喰塗リトシ智德塔ノ全長
六十二尺高サ頂上瓦斯篝火迄五十一尺五寸名譽門ハ三十三尺ノ間隔ニ於テ高サ三十二尺ノ
親柱ヲ建テ其間木製小柱二本ヲ建ツ裝飾ハ智德塔上部ニ智育德育ニ因ミタル彫刻ヲ顯シ塔
上瓦斯ノ篝火ヲ焚クノ裝置ヲ爲シ左右塔間中央ヨリ塔前ノ池ニ向ヒ獅子口ヨリ淨水ヲ進シ
名譽門柱ニハ裝飾旗ヲ掲ケ各親柱ノ前ニハ綠樹ヲ殖ヘタル角鉢ヲ備ヘタリ而シテ名譽門及
智德塔ト命セシハ名譽門ハ博覽會ヲ代表セシ意味ニ於テ智德塔ハ國民ノ智育德育ヲ涵養ス

ルノ意味ニ於テシ塔上瓦斯篝火ハ智徳ノ焰ヲ顯シ獅子口ヨリノ噴水ハ智徳ノ淨水ヲ送セルノ意ニヨリ設計セシモノナリ

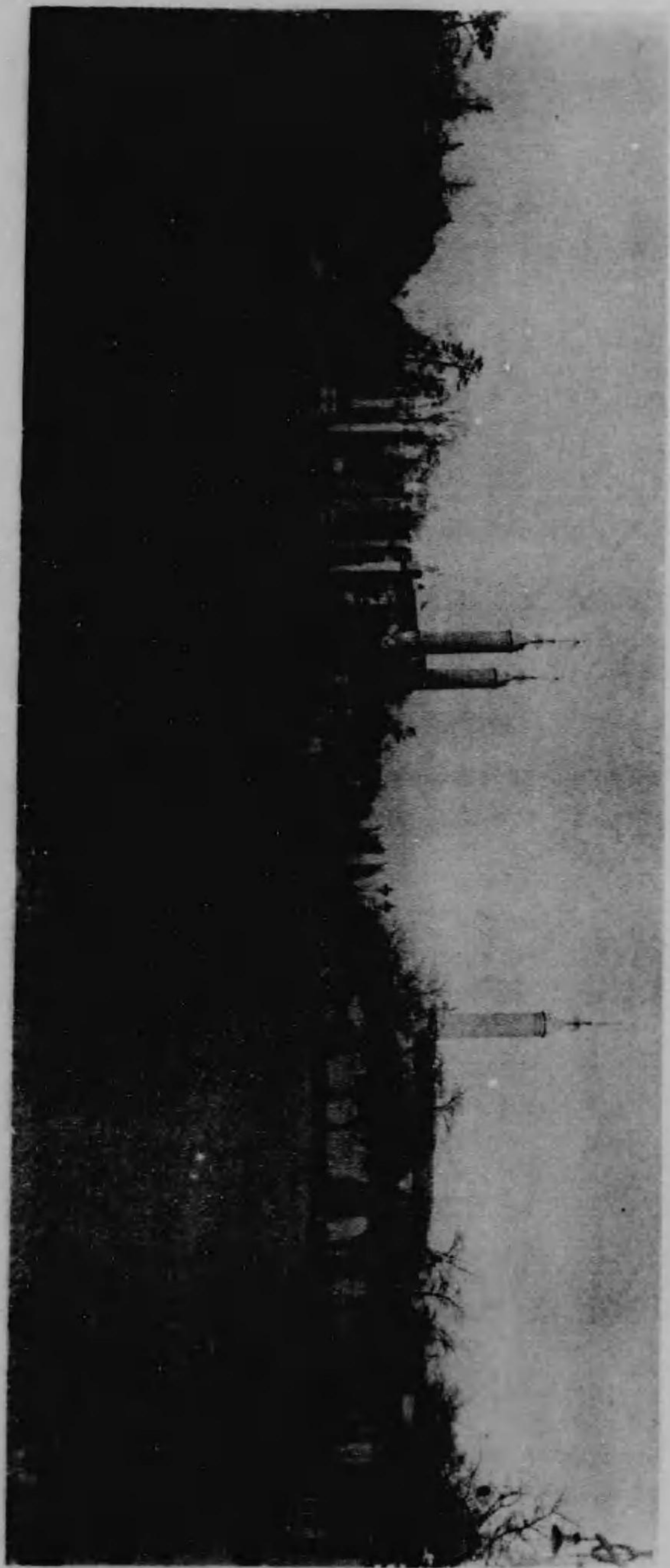
柱列瓦斯裝飾柱

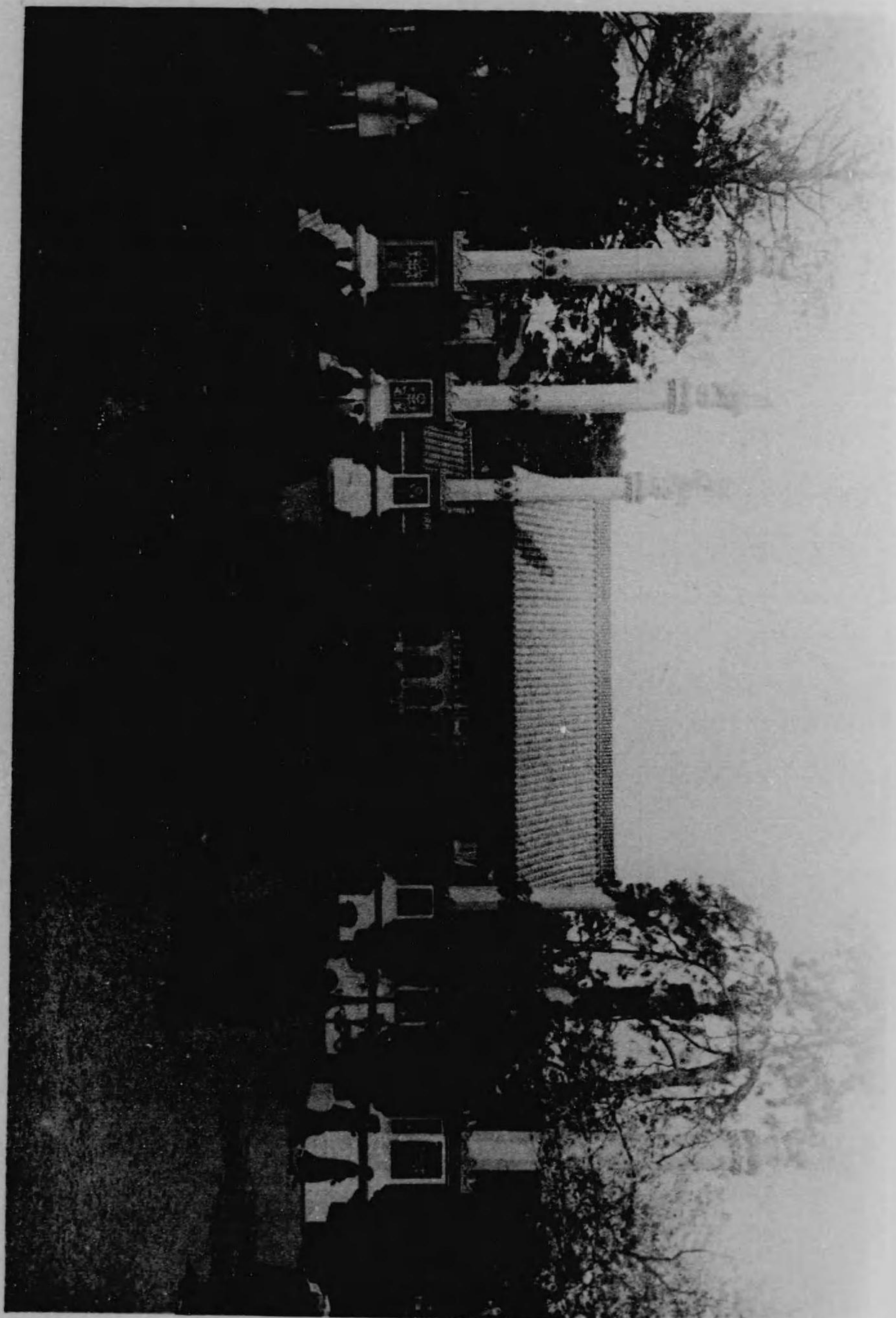
名譽門ヨリ第一會場正門内ニ到ル迄大道路ノ左右約十五間毎ニ高二十六尺ノ杉丸太ヲ建テ頂上ニ飾リ及腕木ヲ附シ其兩端ニ千燭乃至三千燭ノ「キース」燈二個ツツヲ垂下シ全部ペンキ塗リ五色ノ布ヲ垂下シ大道路連絡上ノ裝飾的設備トセリ

正門

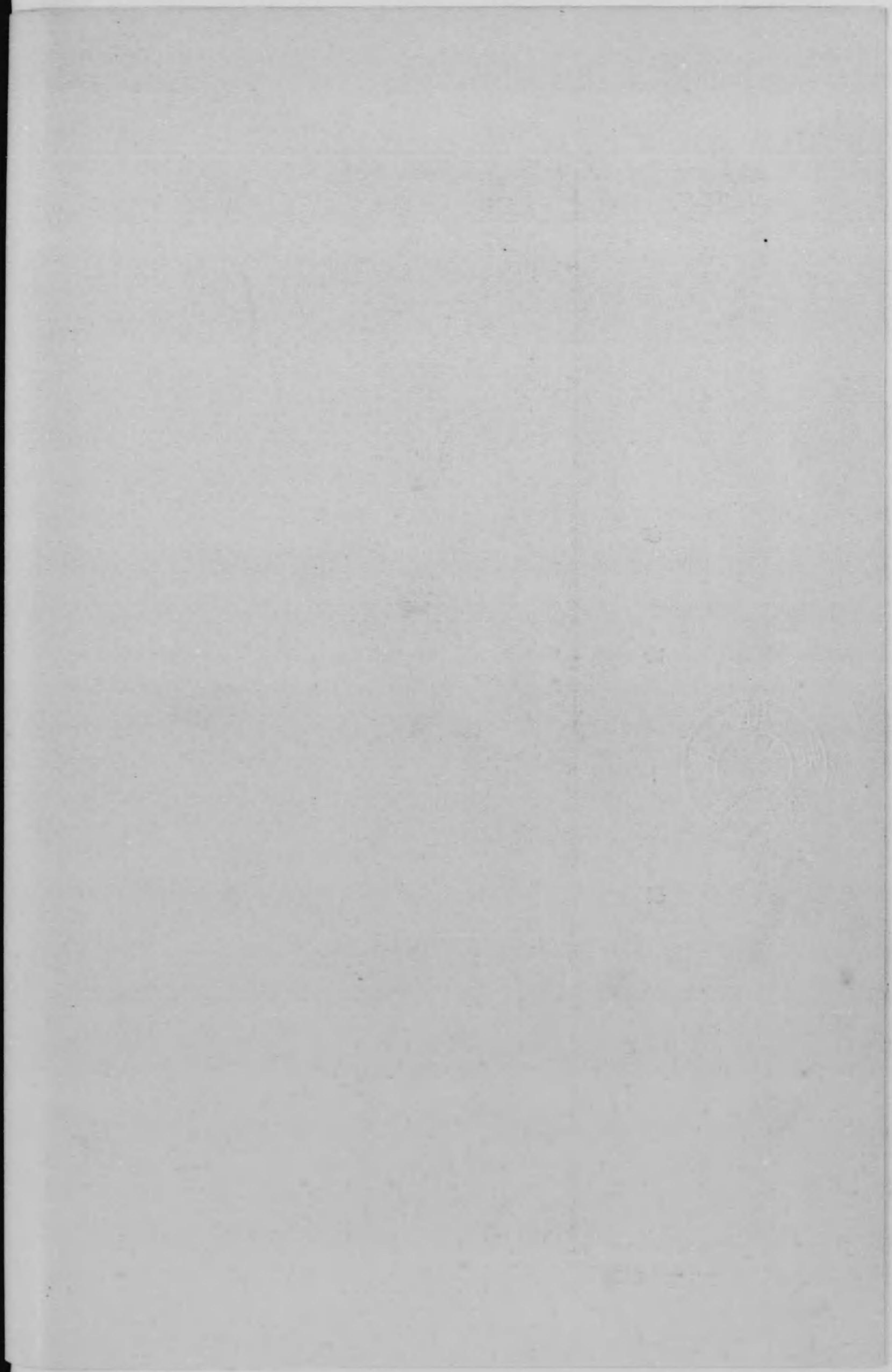
正門ハ大道路ノ中央ニ一字形ニ配置シ中央左右ヲ出入口トシ正門左右兩端ヨリ道路側ニ沿ヒ柱列ヲ設ケ柱列ノ中間ニハ入場券賣場ヲ置キ柱列先端ハ自動電話及巡查見張所ニ充テタリ構造ハ「セセツシヨ」式木造掘建漆喰塗り正門中央部高七十五尺左右ハ二十八尺五寸トシ中央上部壁面表裏ニ徳川家達公揮毫ノ東京大正博覽會ノ題字ヲ掲ケ同所表面「アーチ」内ニハ即位ノ化身像ヲ安置シ其左右ニハ文武百官ノ參列セル意味ノ彫刻ヲ顯シ裏面ニハ古式舞樂ノ能面ヲ掲ケ入口上壁面表裏ニ股野藍田氏撰田口米舩氏揮毫ノ萬邦協和及龍舞鳳飛ノ題字ヲ「モザイク」型ニ顯セリ柱列各柱ノ高サハ二十尺五寸ニシテ柱頂上正面ニ各國旗模様ノ裝飾ヲ爲シ柱列ノ先端ニハ博覽會ヲ廣ク紹介スルノ意義ニヨリ竝ニ進歩鼓吹ノ意ヲ以テ「ラッパ」吹ケル女神ノ像ヲ置キタリ

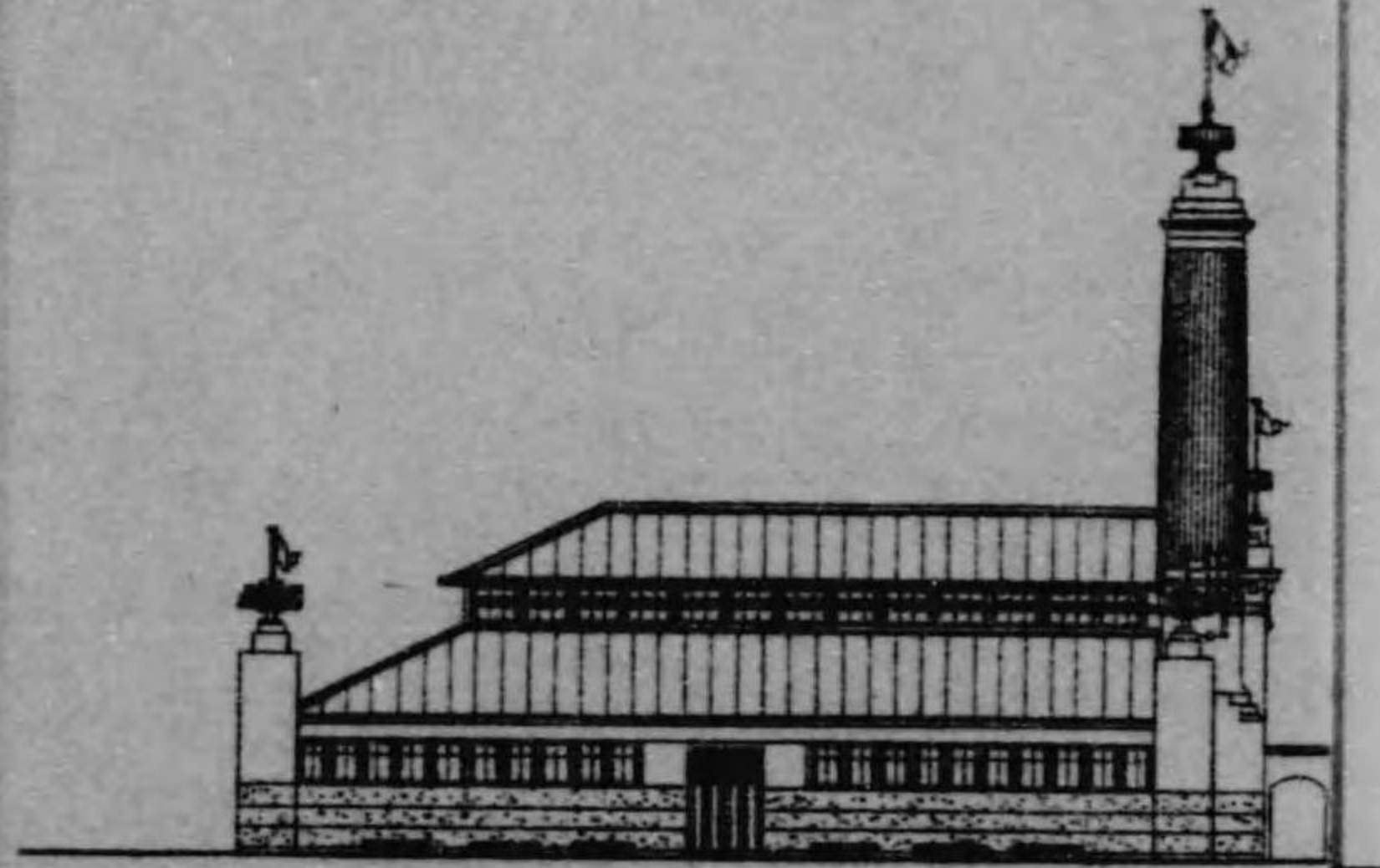
第一號及第二號工業館



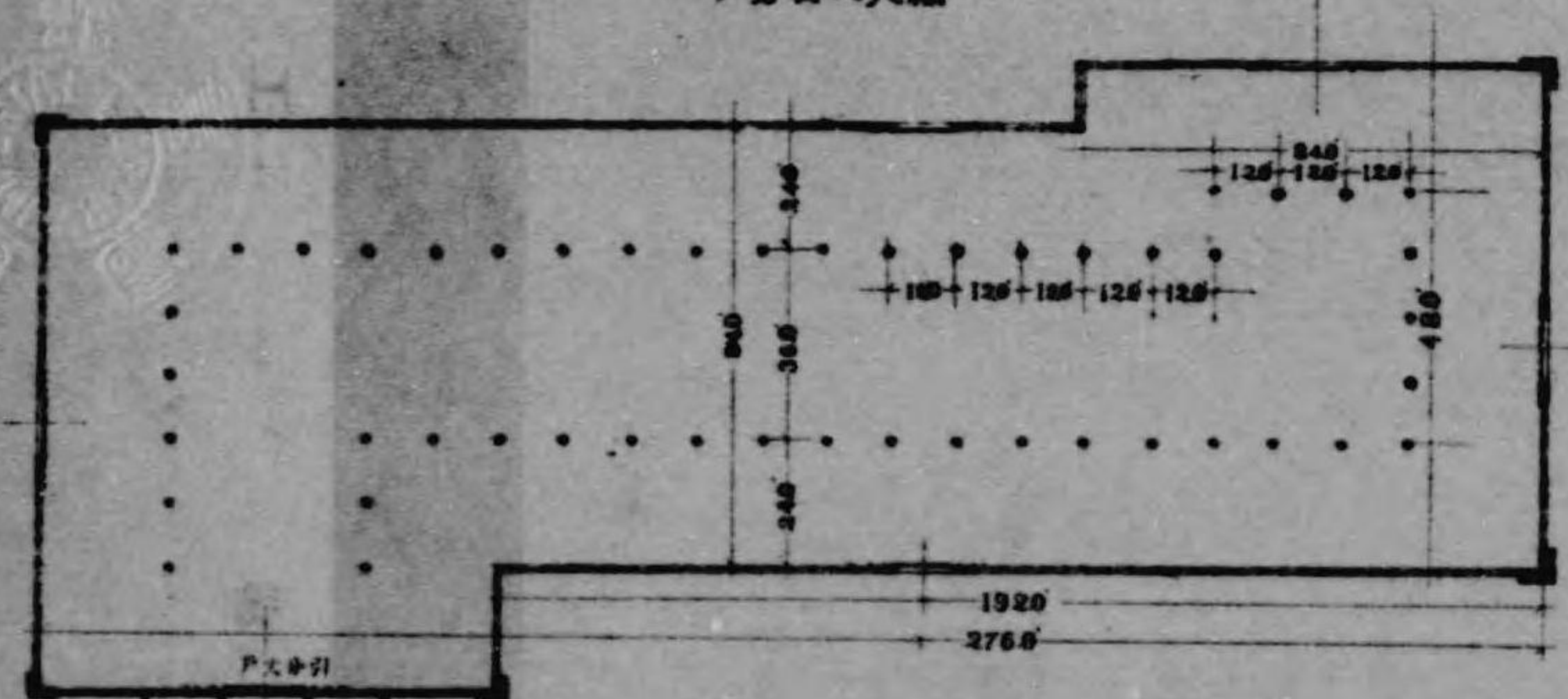


博 物 館 入 口 標 柱

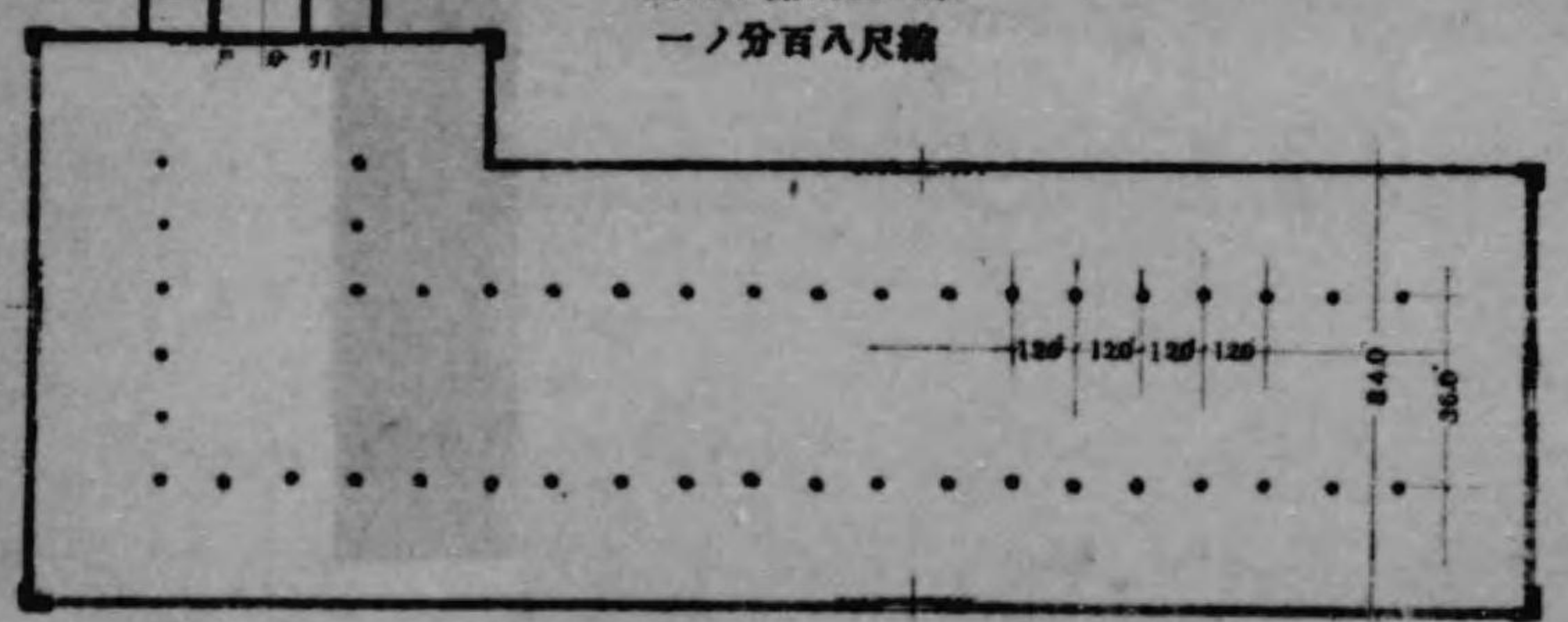




圖面平館樂工一第
一ノ分百八尺縮

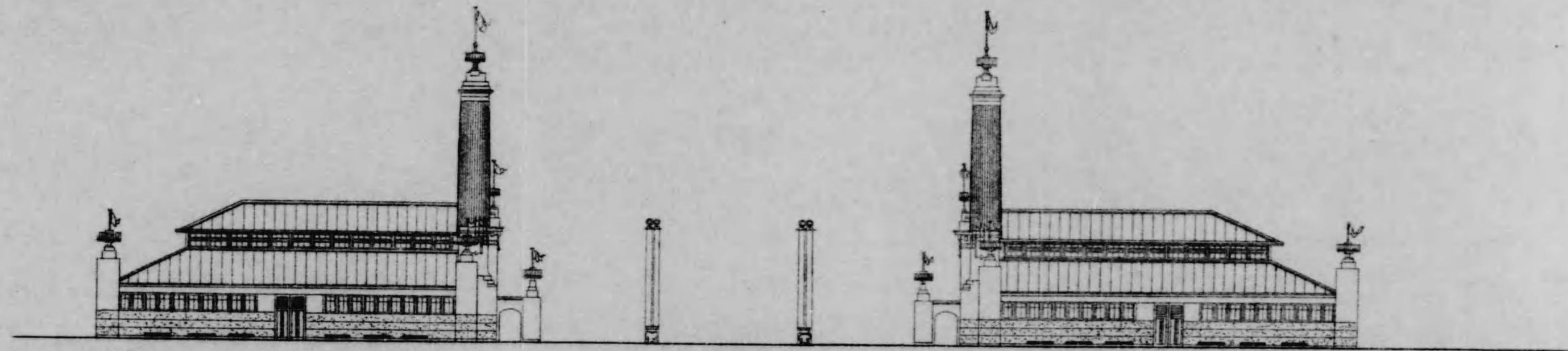


圖面平館樂工二第
一ノ分百八尺縮



圖計設館業工二第及壹第

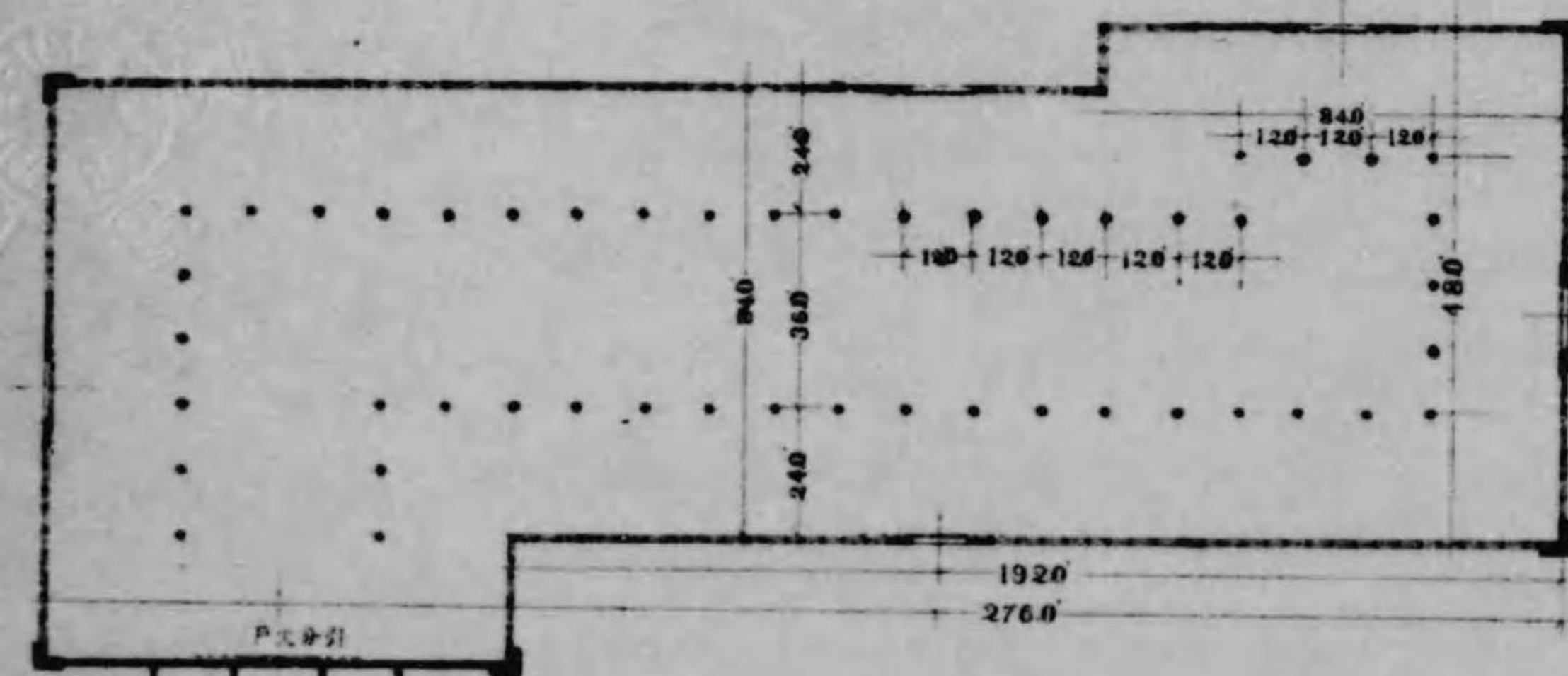
一ノ分百六尺縮



圖面側

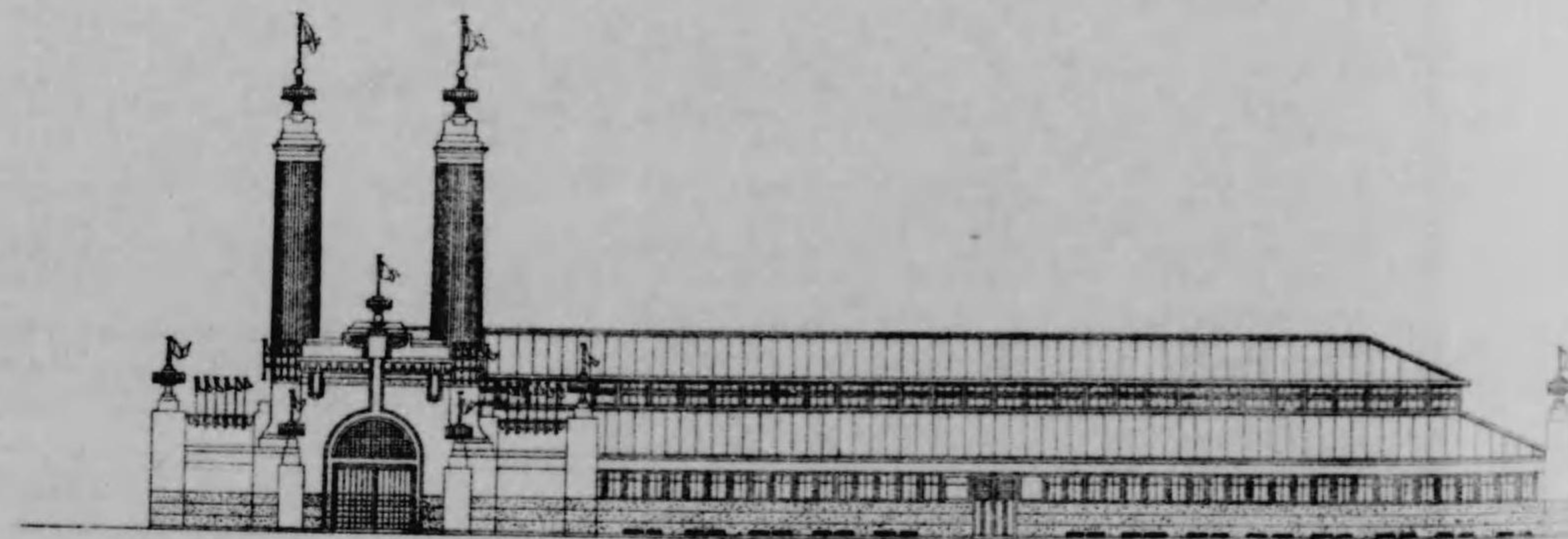
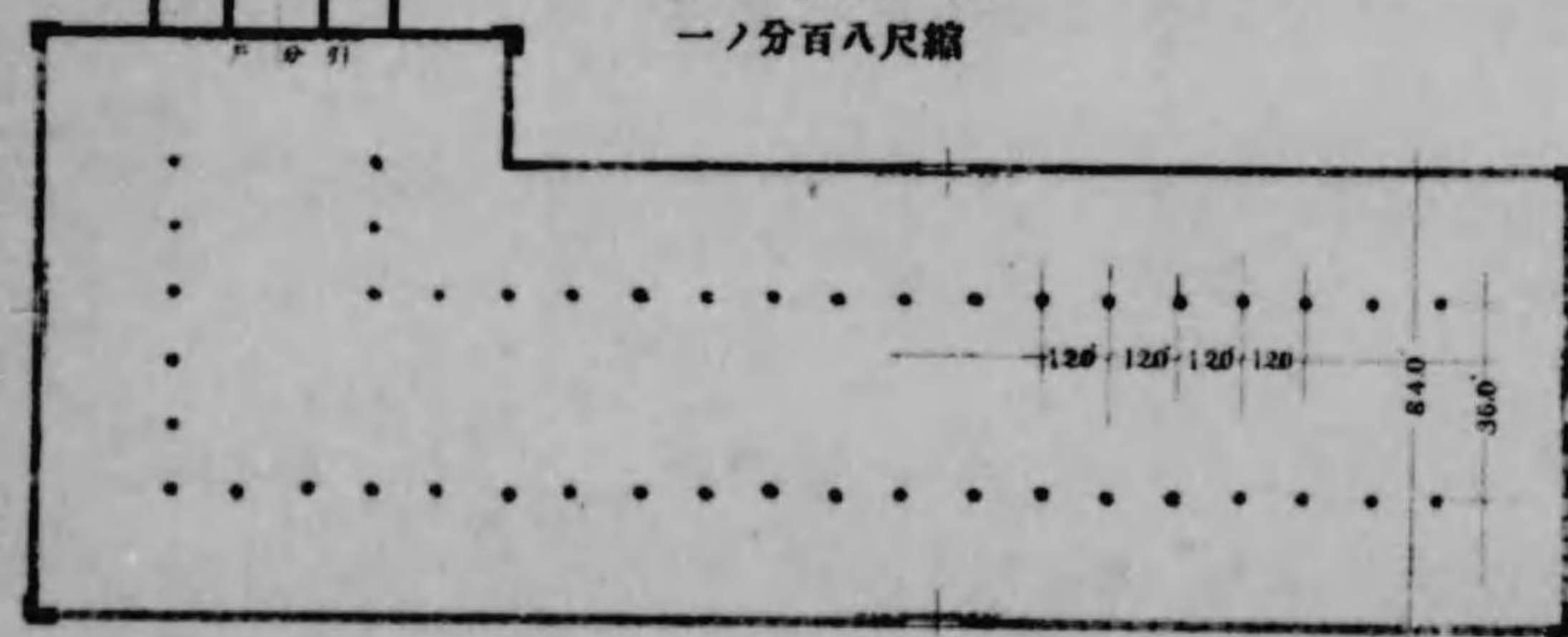
圖面平館業工一第

一ノ分百八尺縮

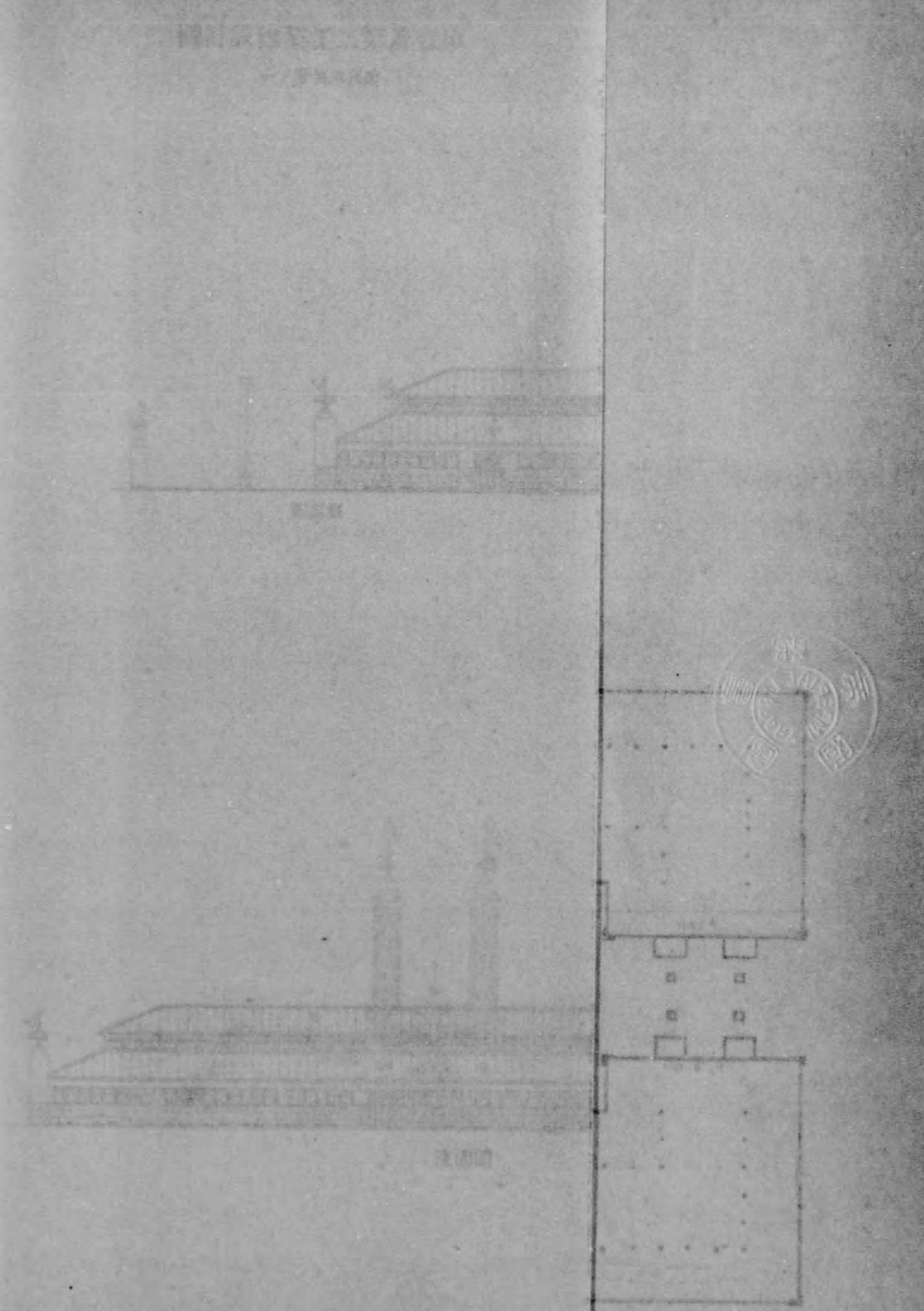


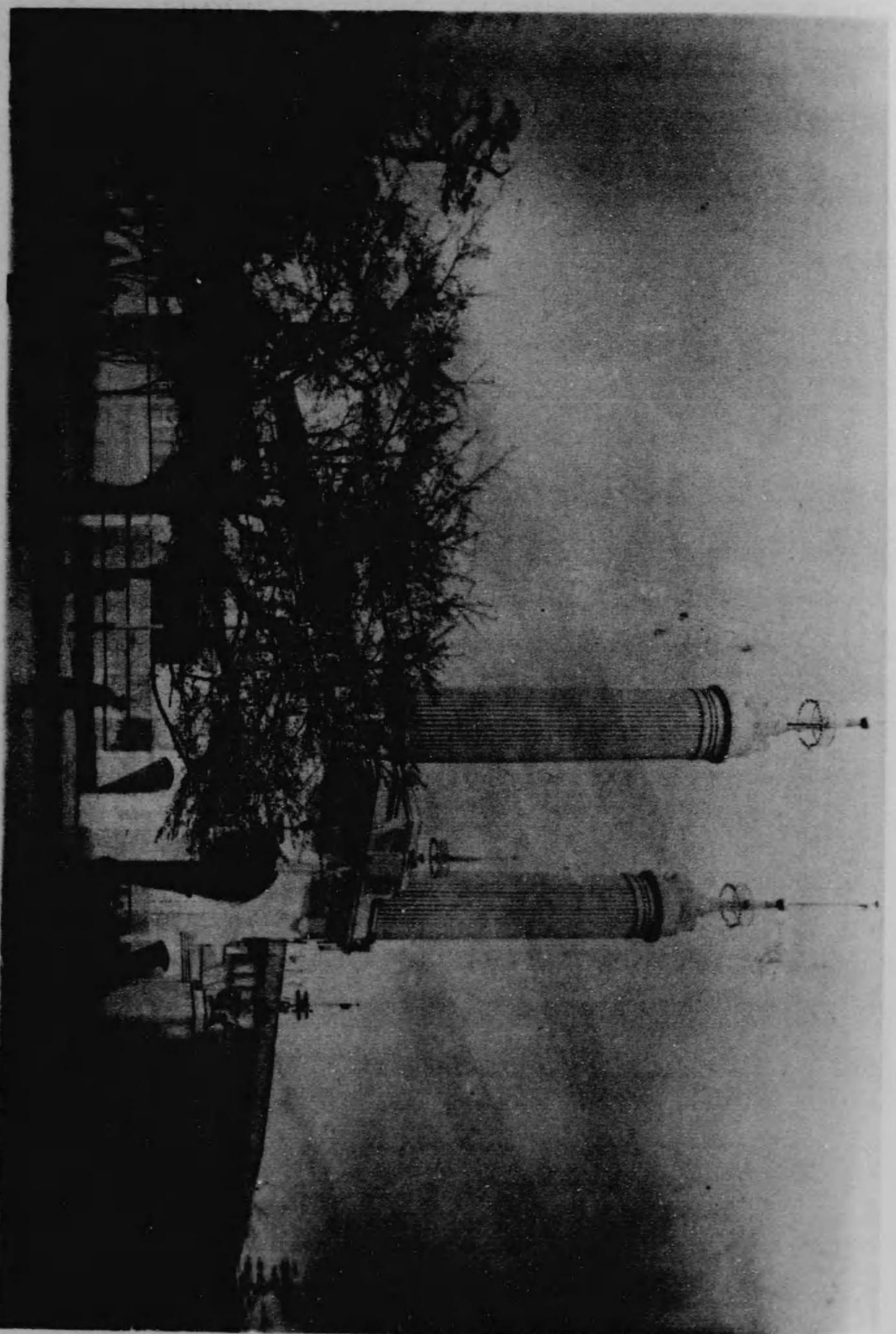
圖面平館業工二第

一ノ分百八尺縮

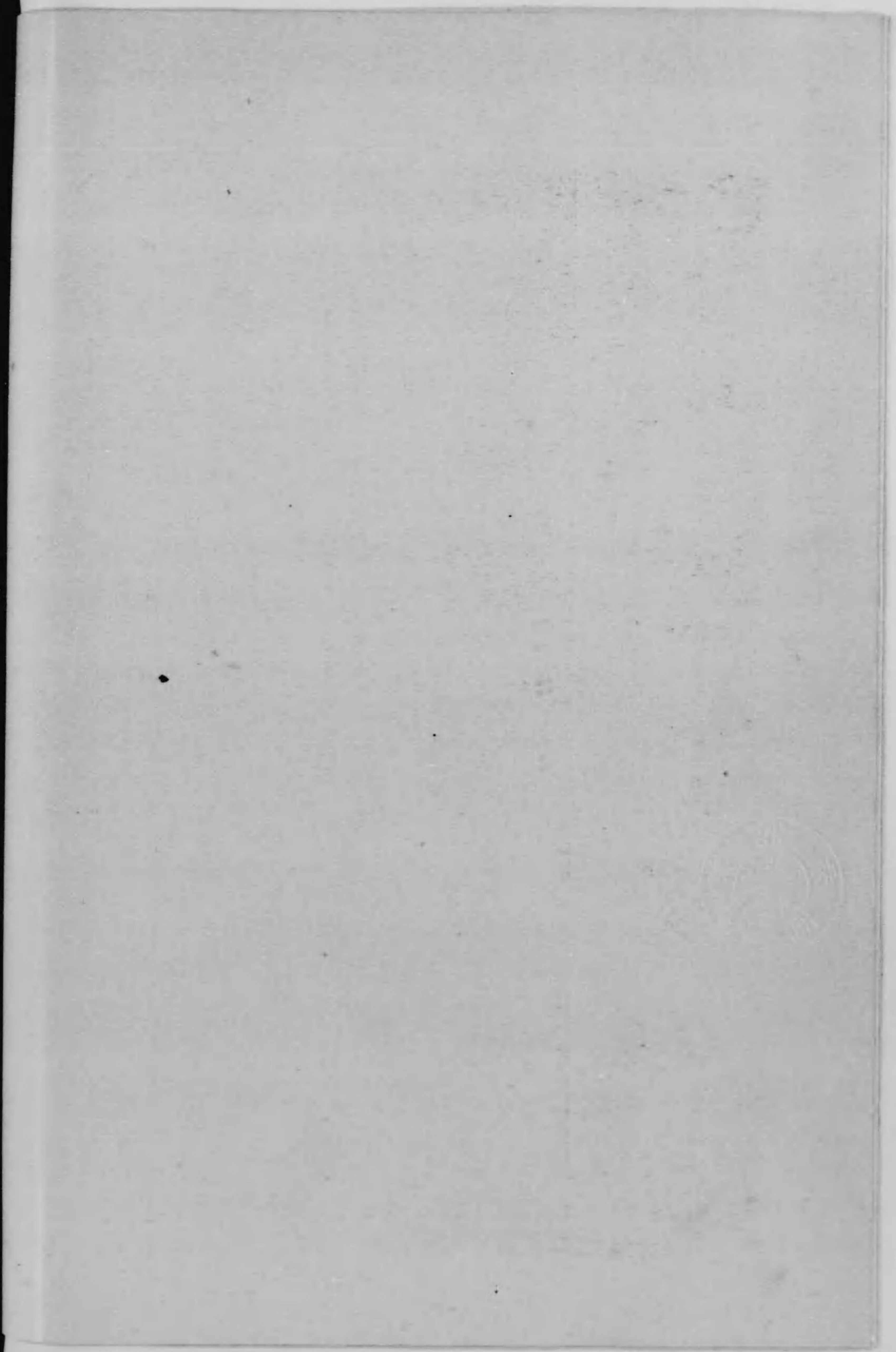


圖面正

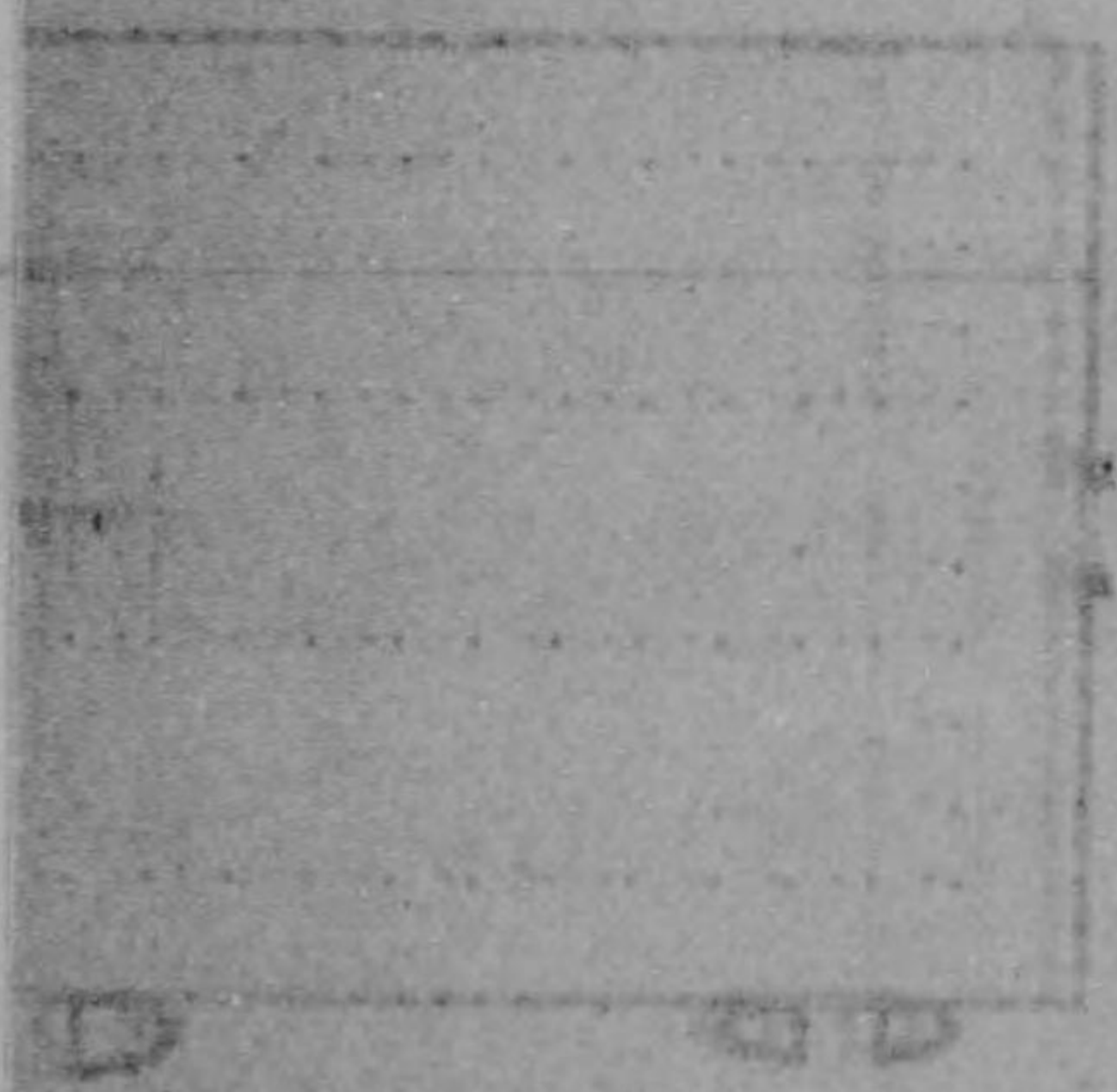
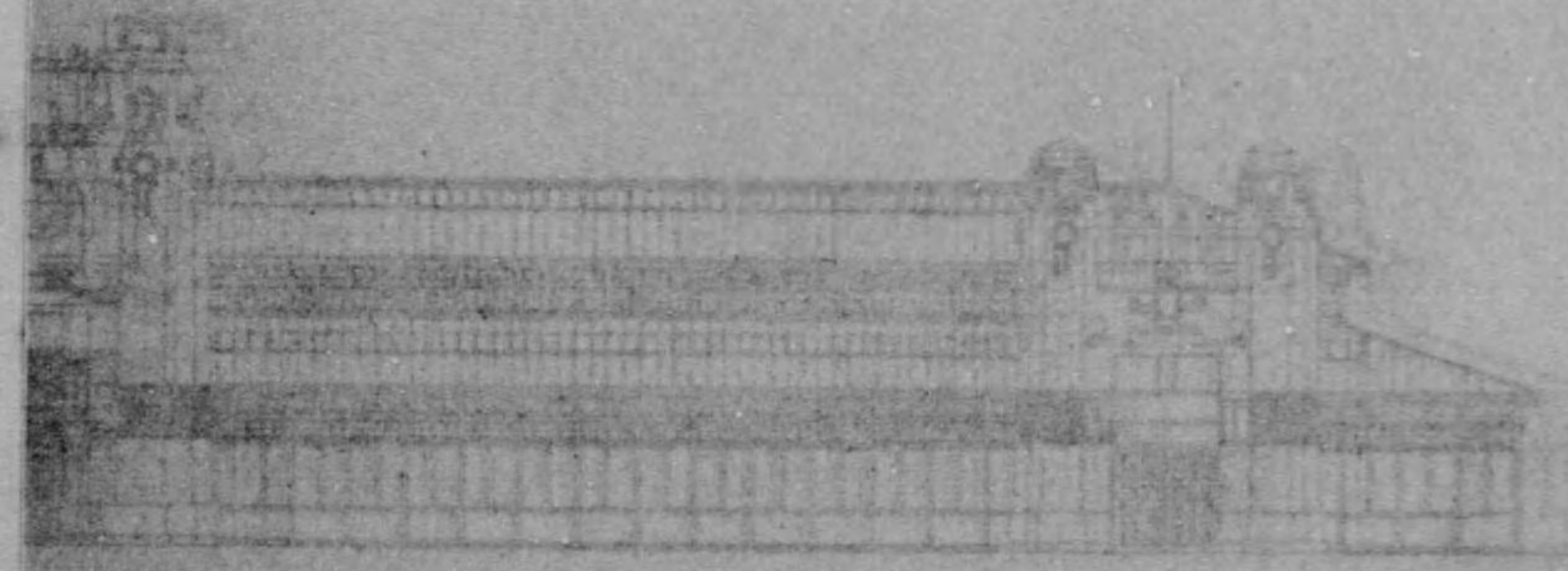




館 業 工 二 第

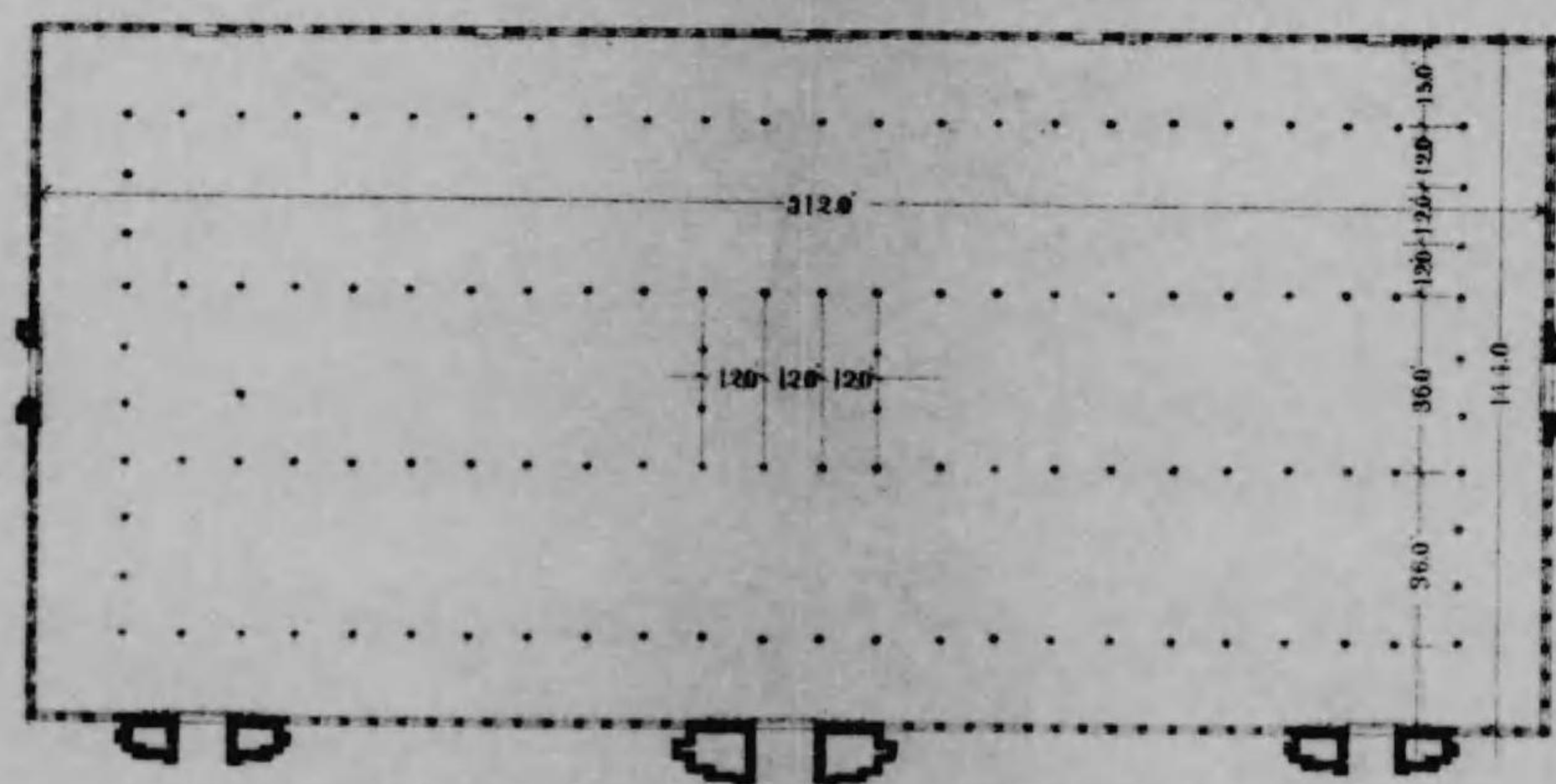
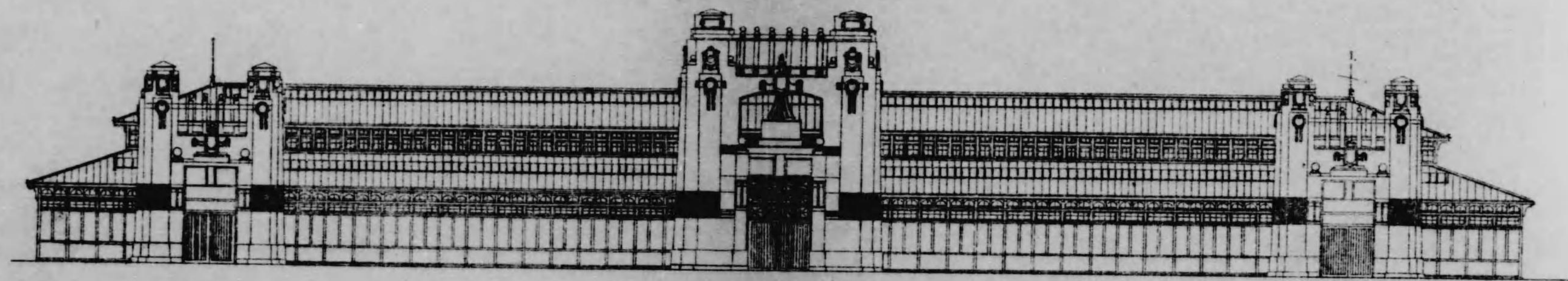


新嘉坡圖



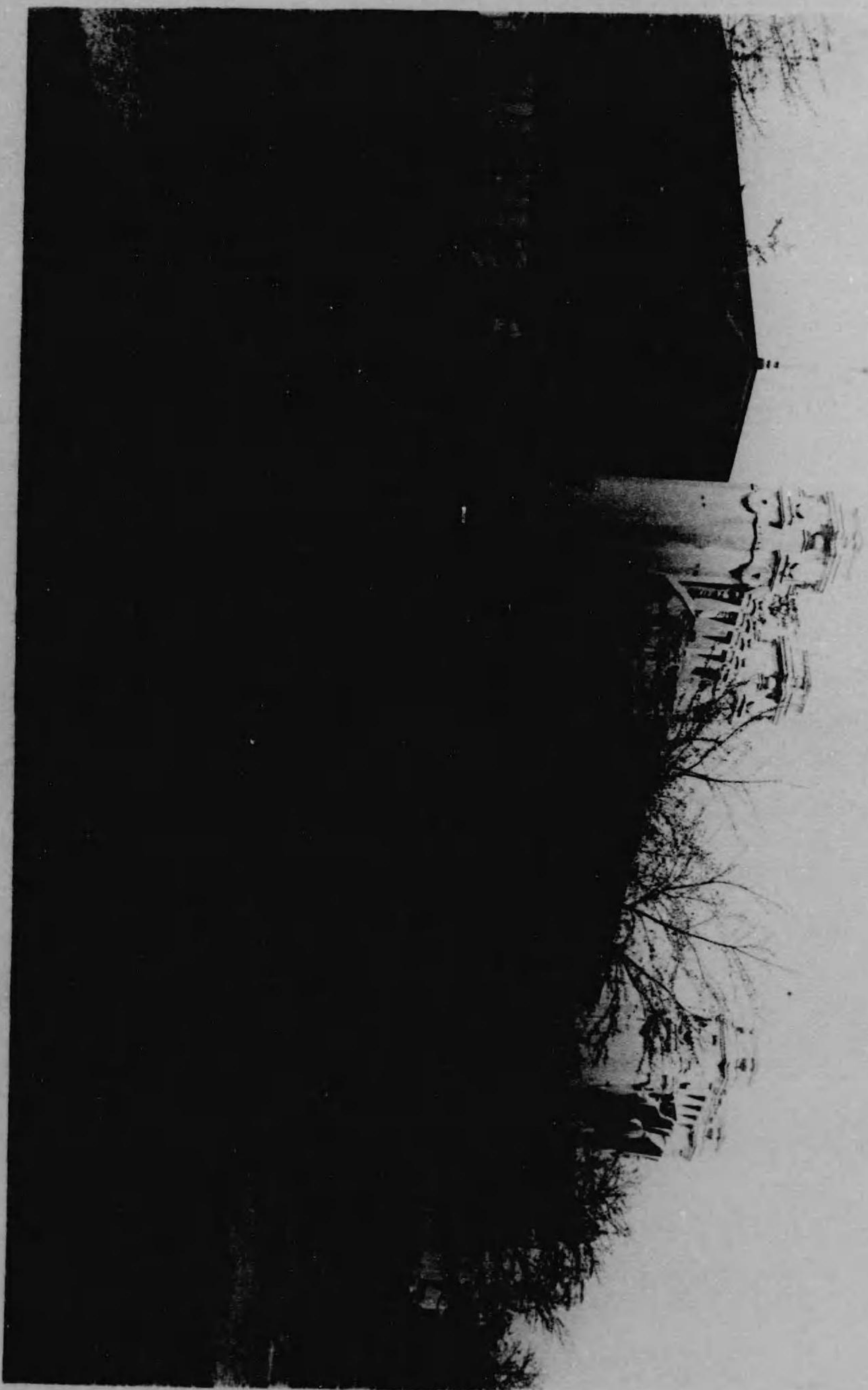
第三工業館設計圖

縮尺四分百一

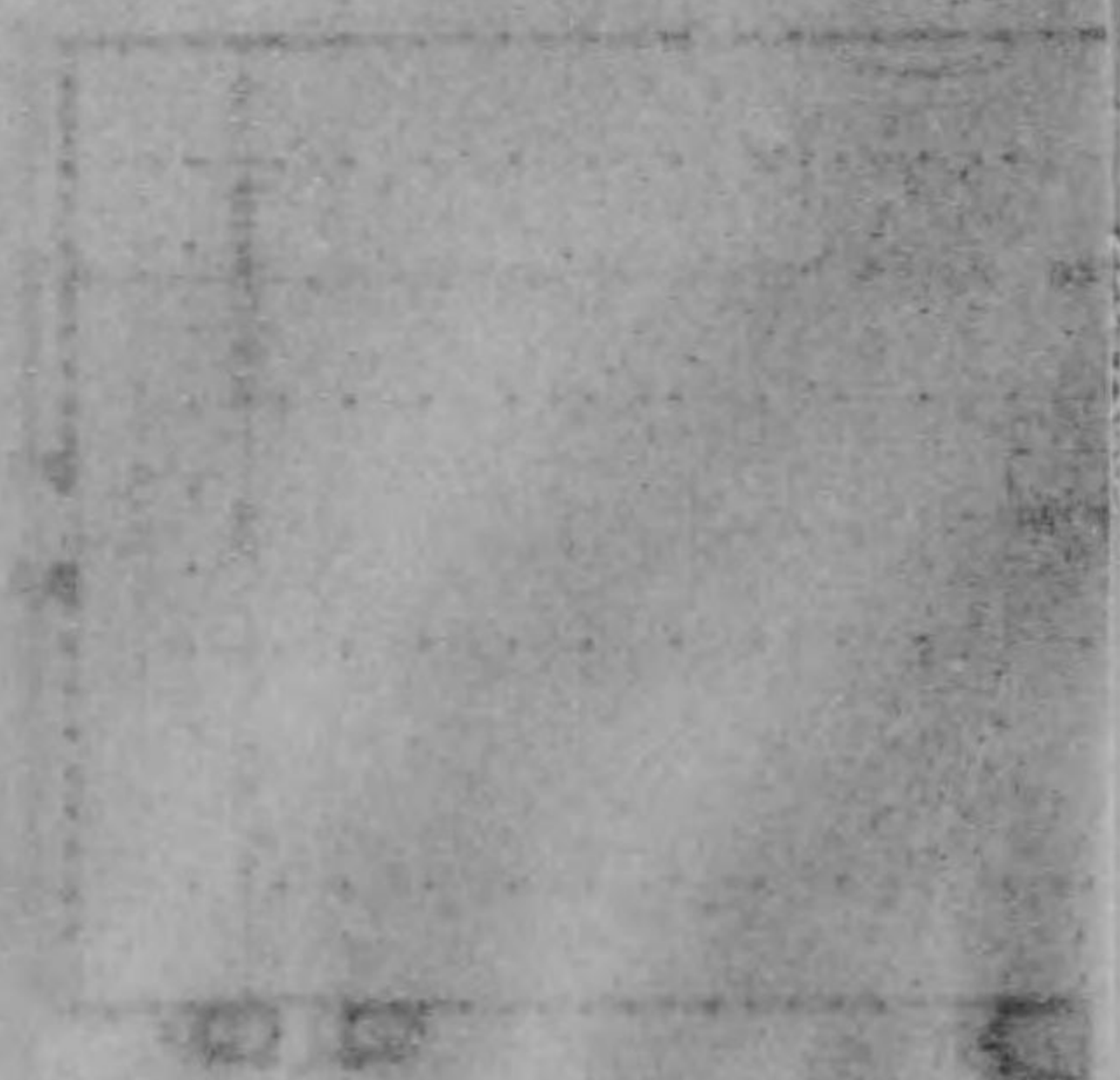
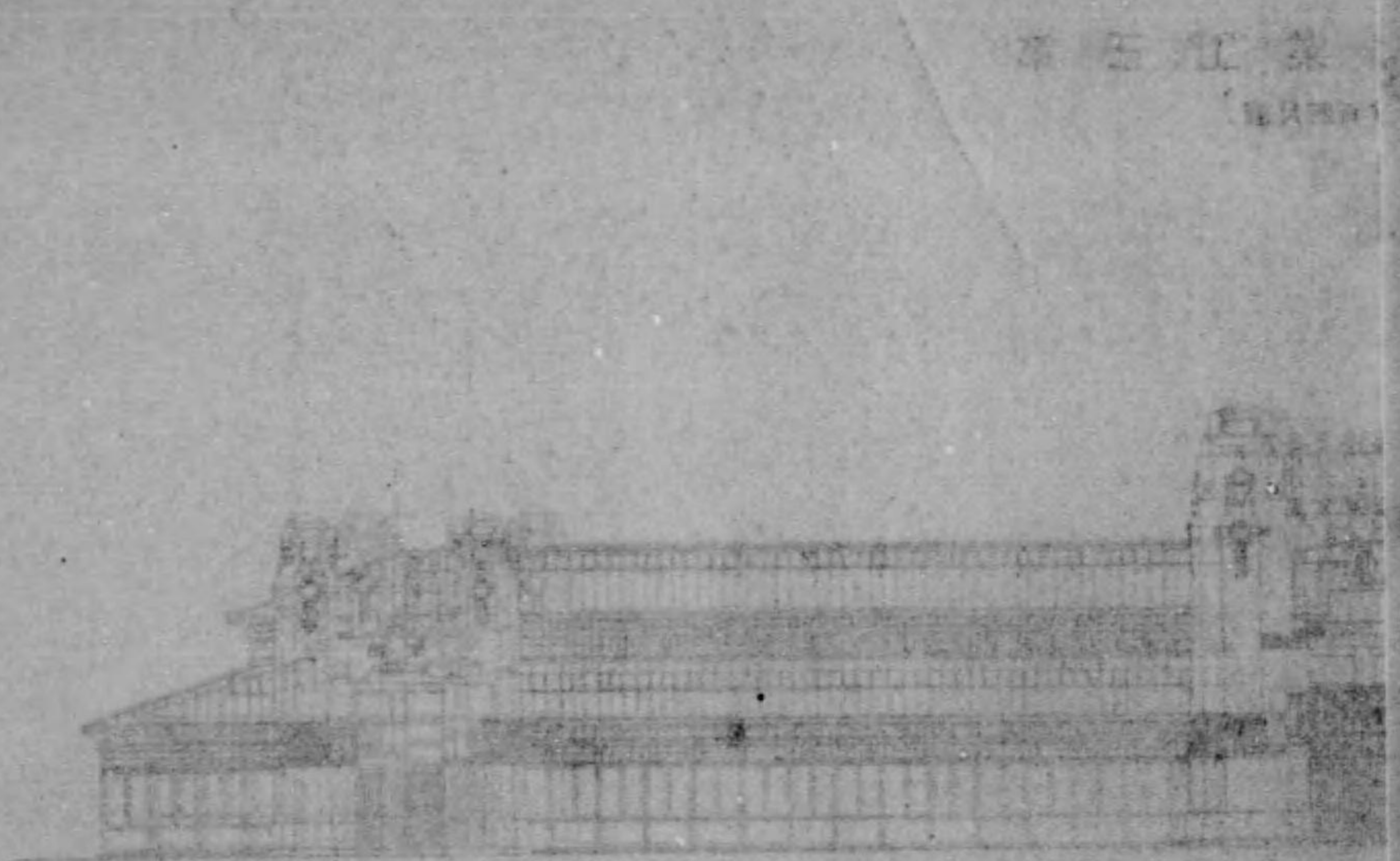


平面圖

縮尺八百分一

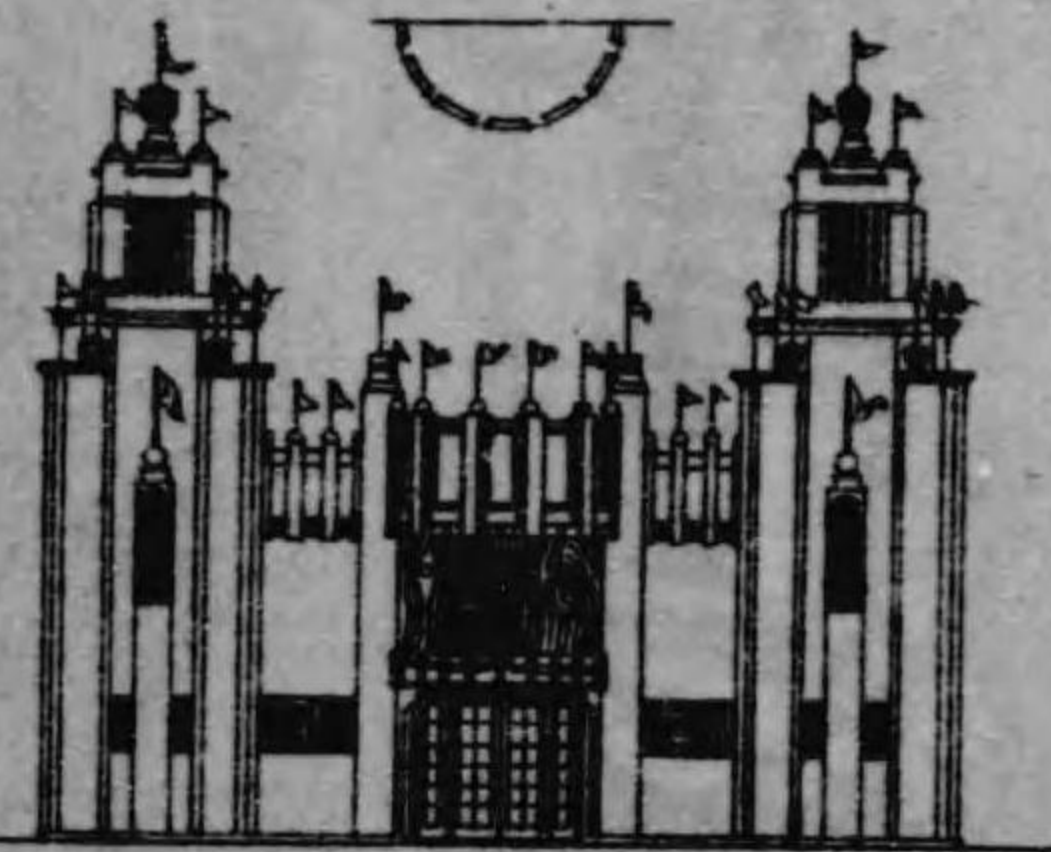


第三工業館

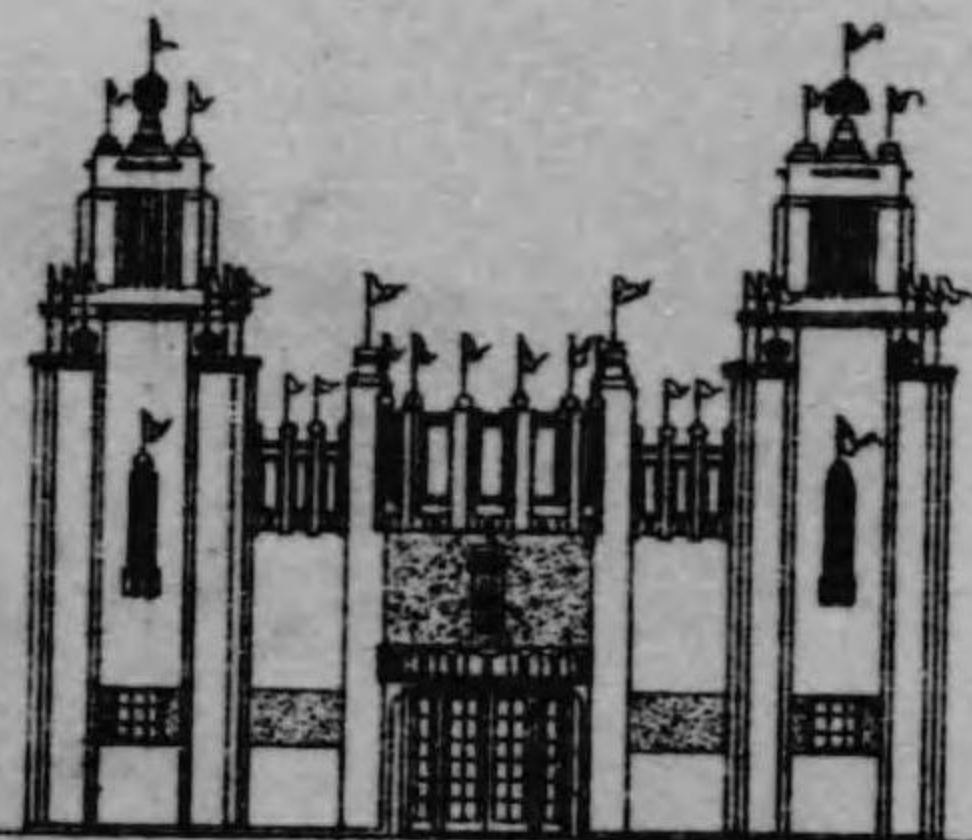


圖計設館山鑛業林
一ノ分百六尺縮

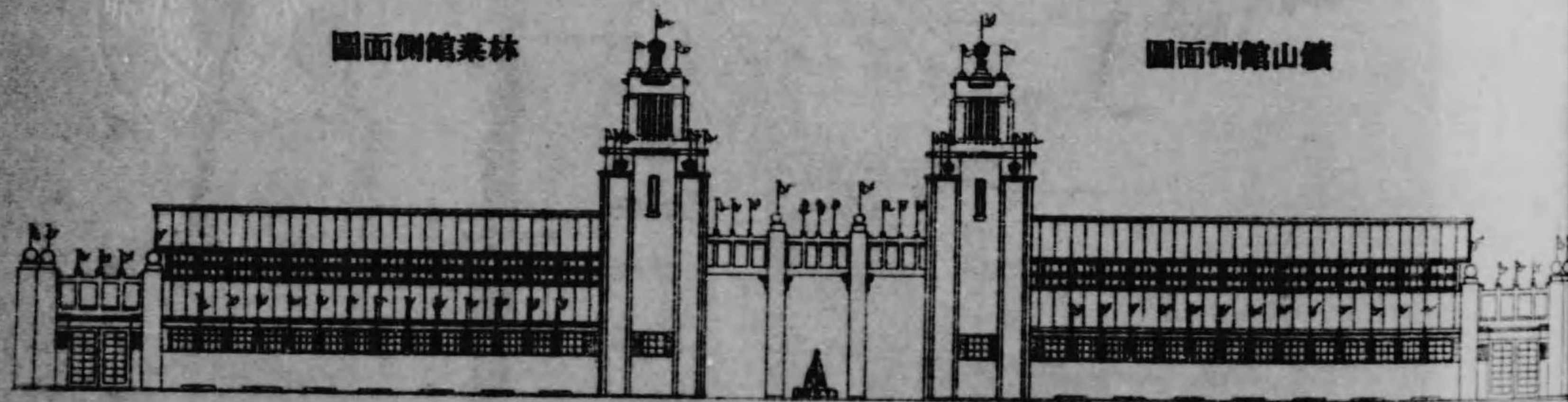
圖面正館業林



圖面正館山鑛

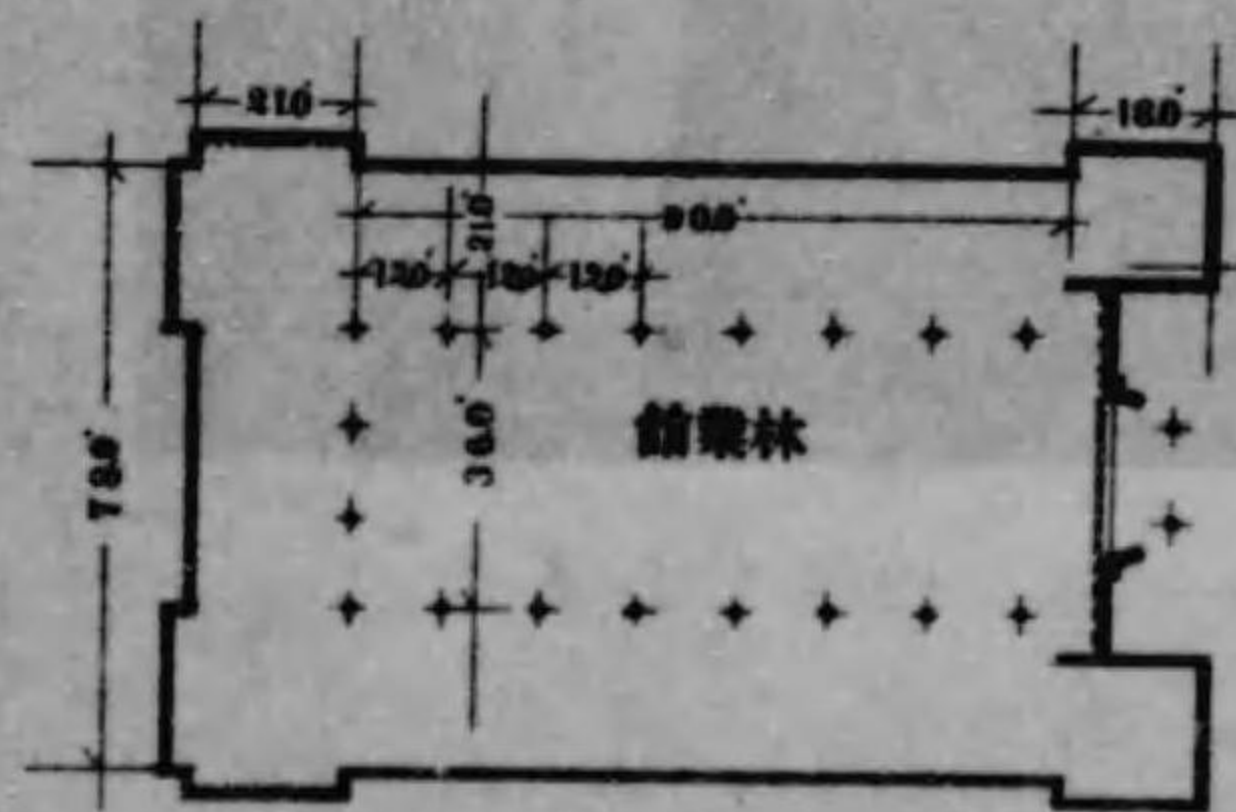


圖面側館業林

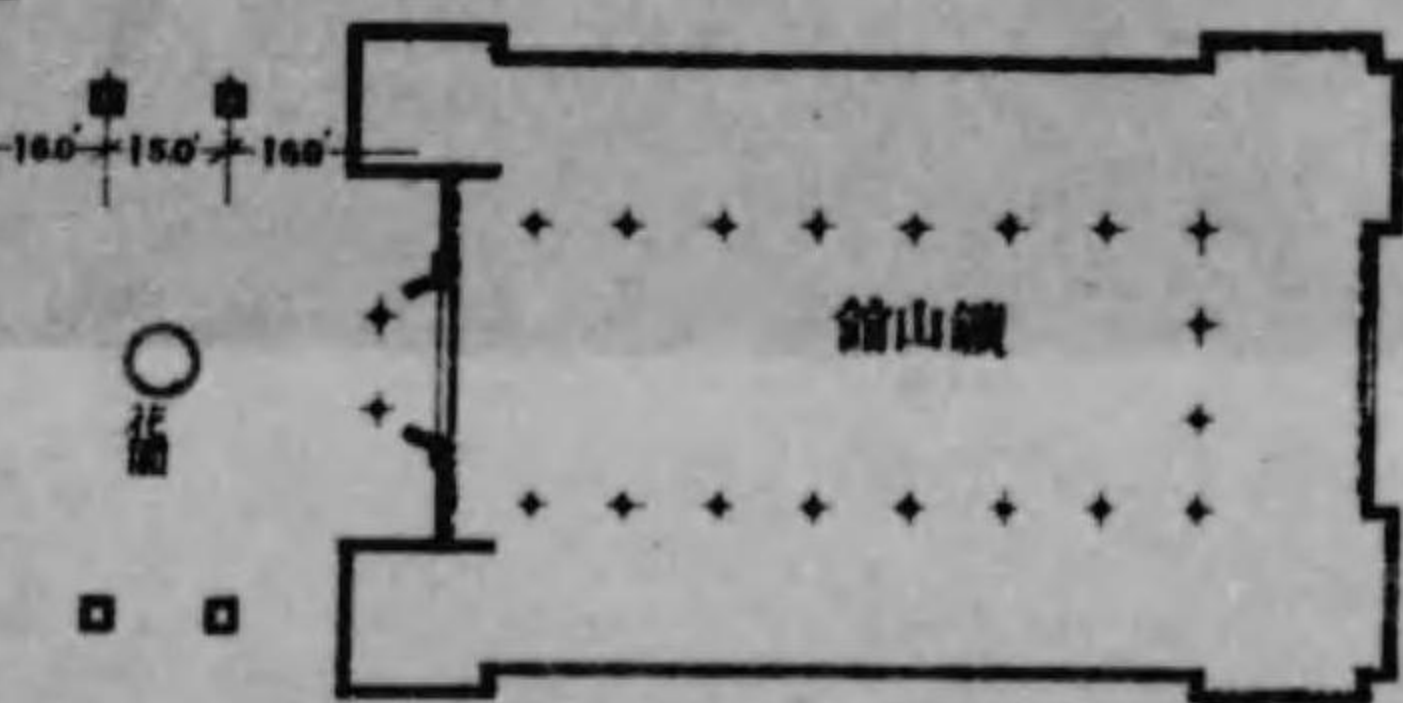


圖面側館山鑛

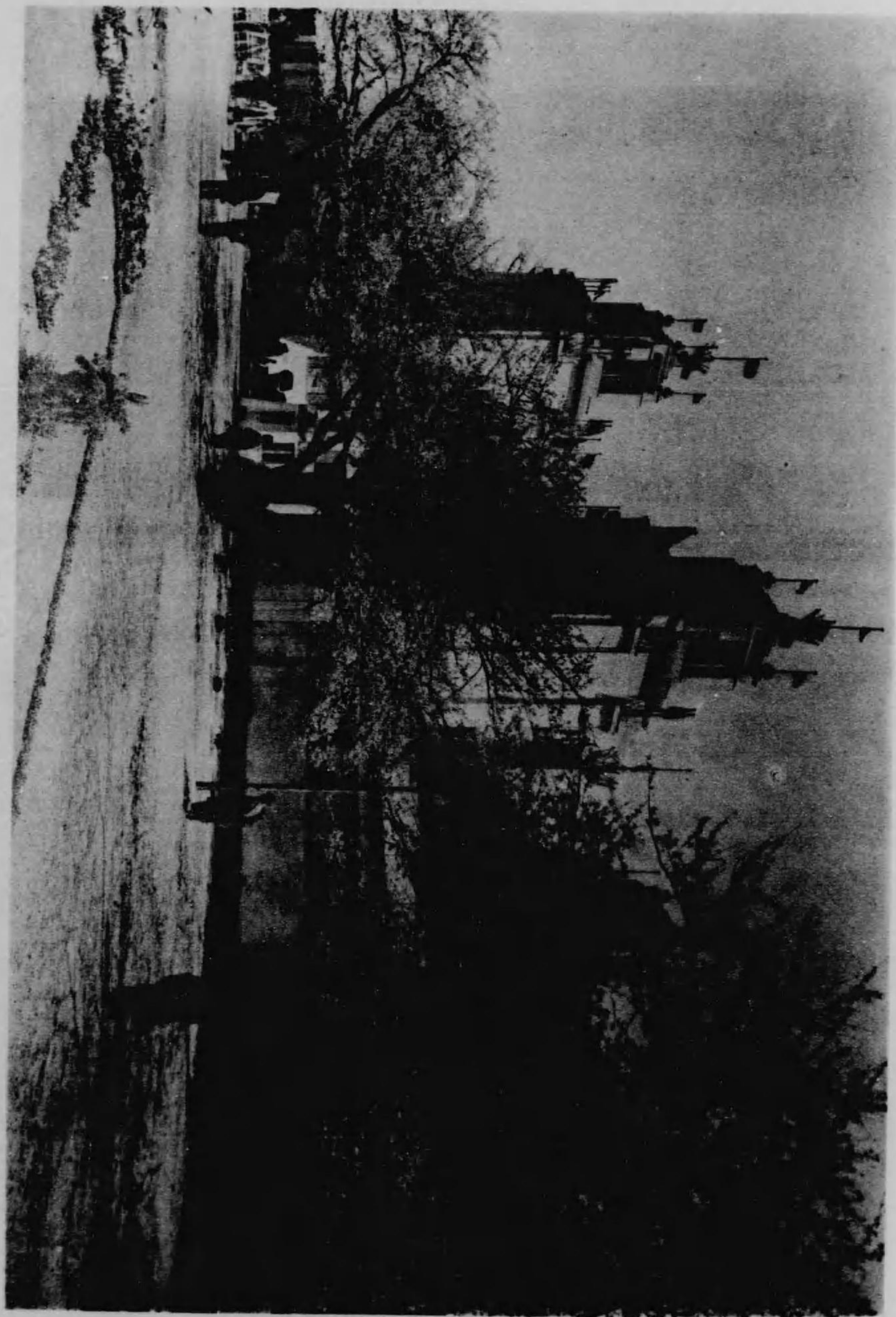
圖面平館業林
一ノ分百八尺縮



圖面平館山鑛
一ノ分百八尺縮



林業山嶺及森林



林業山嶺及森林

總平面圖



林業山嶺及森林

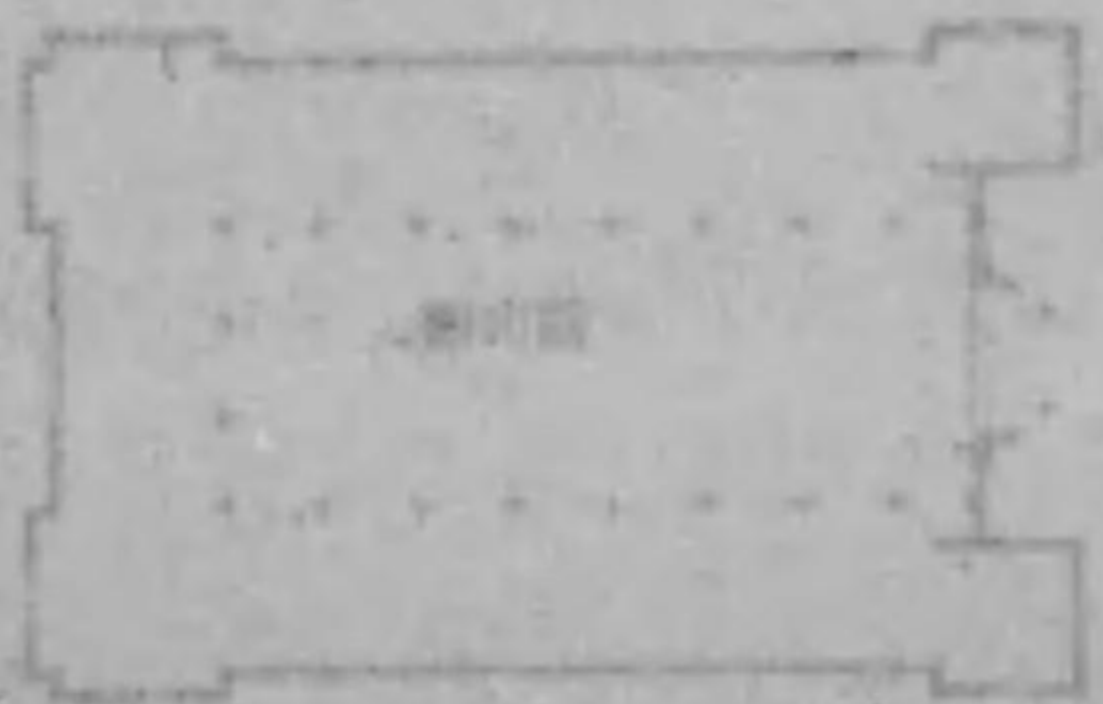


林業山嶺及森林

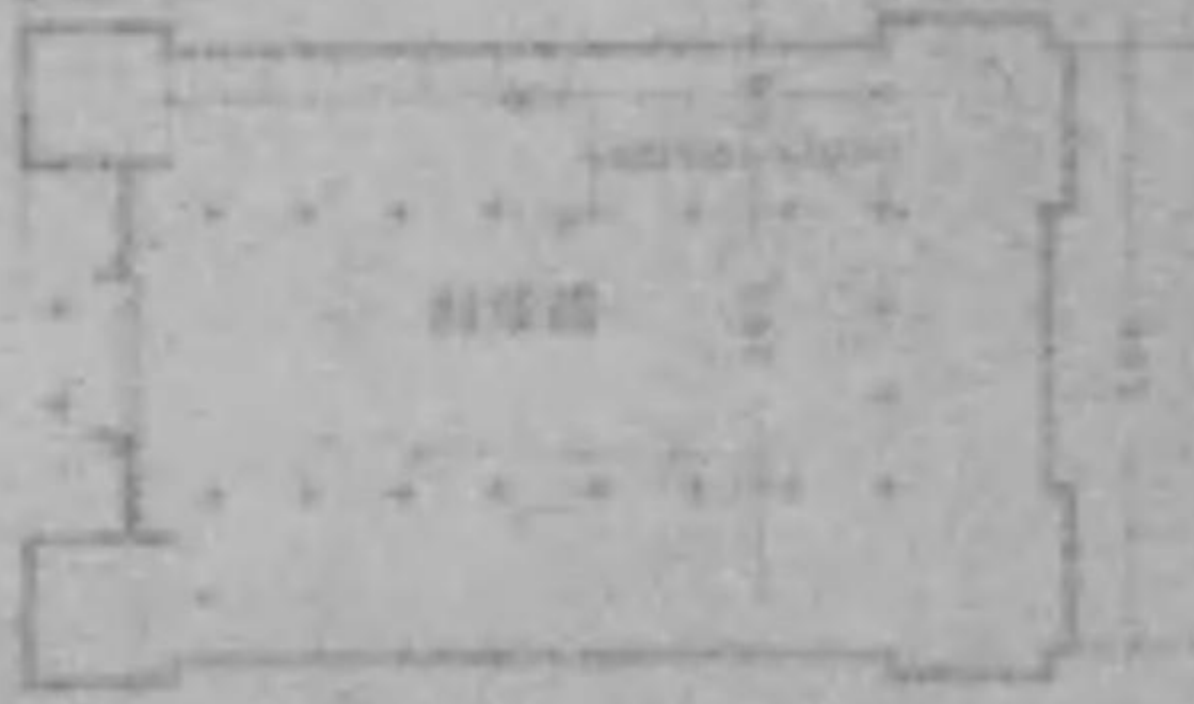


林業山嶺及森林

林業山嶺及森林



林業山嶺及森林



第一號工業館ハ正門内大通路ノ右ニアリ桁行延長五十間梁間十四間乃至十四間半此建坪七百十二坪第二號工業館ハ大通路ノ左ニアリ桁行延長五十二間梁間十四間乃至十四間半此建坪七百三十九坪アリ「セセツション」式ニ法リ各正面角屋ニ二本宛高百尺ノ大圓塔ヲ建テ塔間「アーチ」内ニハ工業ニ因ミタル油繪ヲ以テ「マジヨリカ」模造ノ裝飾ヲ施シ入口左右ノ壁面ニモ亦工業ニ因ミタル各種人物ノ彫刻模様ヲ現シタリ構造ハ木造掘建テ外部漆喰塗リ内部壁面及本家小屋ノ部分布張り下家小屋ハ化粧「ムラリン」塗リ屋根ハ亞鉛引鐵板瓦葺床ニハ横濱「アスファルト」會社製「アスファルト」タイルヲ敷ケリ「損料」借リ以下各館トモ同様軒高地盤ヨリ本家桁峙迄三十一尺下家十五尺三寸トス

第三工業館

總坪千二百四十八坪明治四十年東京勸業博覽會開設ノ際建築セルモノニシテ閉會後博物館ニ讓渡ヲ爲セシモノナリ今回之ヲ借入レ屋根其他ニ大修繕ヲ加ヘ且正面三ヶ所ノ入口ニハ他ノ各館トノ對照上特ニ「セセツション」式ノ裝飾壁ヲ設ケタリ

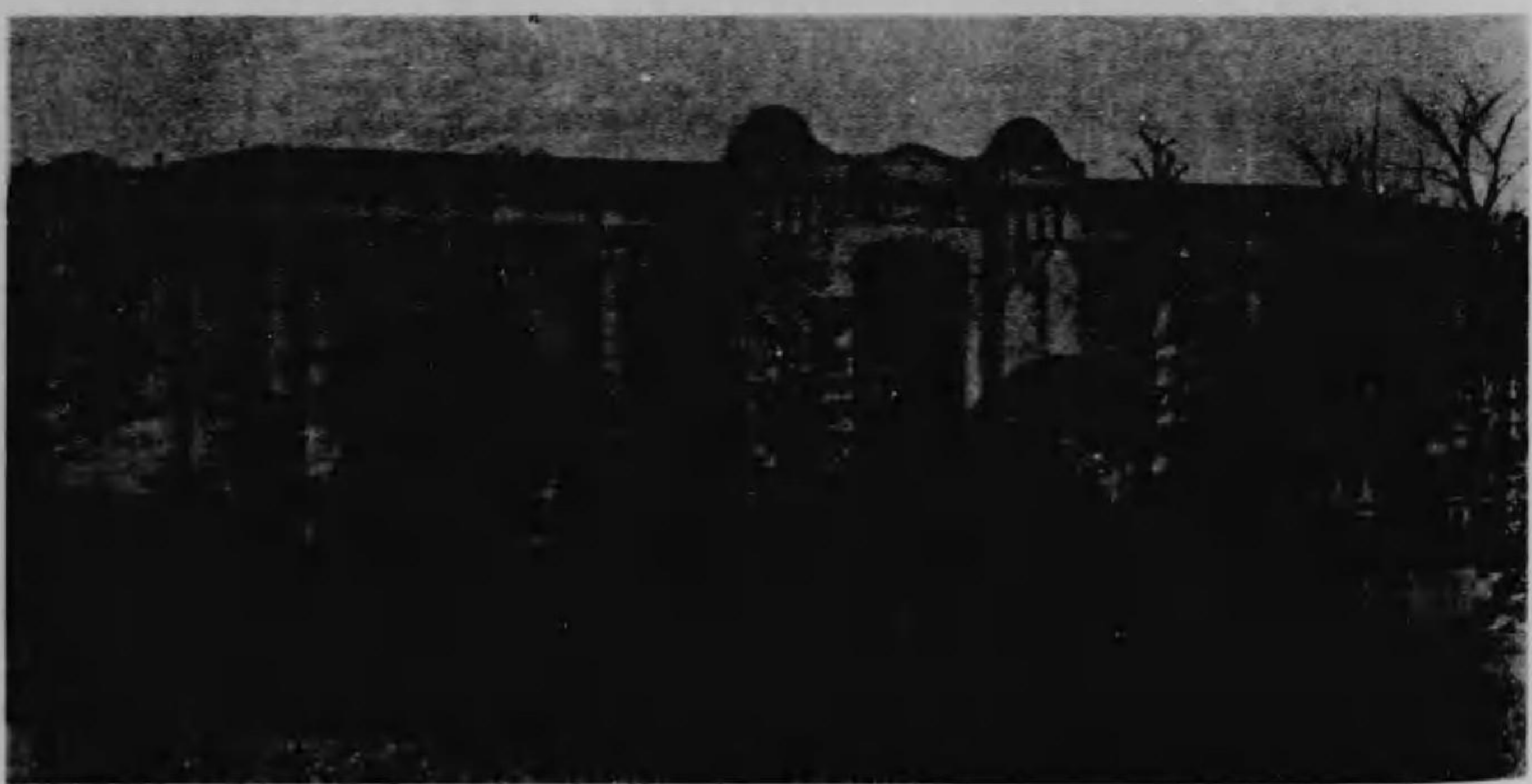
此壁ノ高サハ中央部五十四尺七寸左右部四十一尺九寸トシ木造掘連漆喰塗リトス其他ノ構造ハ前博覽會ノ報告ニ詳カナレバ茲ニ之ヲ省略ス

鑛山館及林業館

鑛山及林業ノ兩館ハ共ニ梁間十三間桁行十九間三分外ニ塔家等ヲ合セ總建坪二百七十七坪トシ「セセツション」式ニ法ル而シテ兩館相對スル所正面入口ヲ設ケ其面テ角及ヒ中央トモ高



館 術 美



館 藝 學 及 育 教

塔ヲ設ケ且兩館ノ連續トシテ其中間ニ前後角塔ヨリ柱形軒飾付ノ門ヲ設ケ第三工業館中央ヨリ美術館ニ到ル大道路ノ裝飾的關門ト爲セリ此中間廣場ハ總テ朝日石材會社ヨリノ寄附ニ係ル鐵平石ヲ敷込ミ其中央ニ丸形花壇ヲ設ケリ而シテ此館ノ重ナル裝飾的設備ヲ舉クレハ鑛山館ノ正面入口丸形塔家へハ鑛業用槌鶴嘴等ノ彫刻ヲ施シ館ノ周圍窓間ハ鐵鑛ニ模シタル漆喰塗リトシ林業館ハ正面入口及窓間トモ杉皮モテ張り詰メ一見其館ノ内容ヲ顯出セシメタリ構造ハ第一第二工業館ト同シク軒高地盤ヨリ本家桁峙迄二十九尺下家十五尺三寸入口丸塔高四十九尺二寸左右角塔旗竿臺迄七十尺連絡軒飾上迄三十五尺四寸トス

教育及學藝館

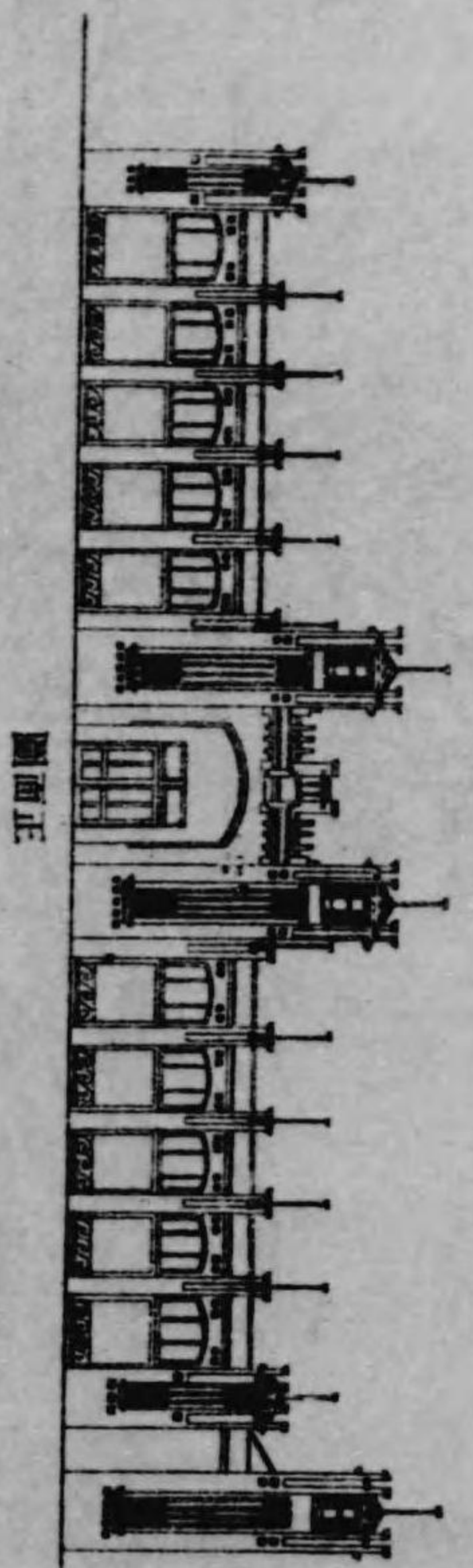
教育及學藝館ハ博物館長ノ希望ニヨリ閉會後ハ博物館へ寄贈ノ目的ヲ以テ府會ノ協贊ヲ經タルニヨリ半永久的ノ構造ト爲シタリ

本館ハ敷地ノ關係及博物館ヨリノ希望ニヨリ二階建トシ且ツ表慶館トノ對照上ルネーサンズ式ニ法リ梁間九間桁行三十一間外ニ塔家及突出部ヲ加ヘ總建坪三百坪構造ハ木造腰煉瓦人造石塗リ正面窓柱間化粧タイル張り其他ハ内外共總テ漆喰塗リトス屋根本家亞鉛鍍金鐵板張り下家「マルソイド」葺而シテ階上階下總テ床板ヲ張レリ軒高地盤ヨリ本家桁峙迄四十一尺八寸下家三十五尺八寸軒「バラベツト」上迄三十九尺二寸

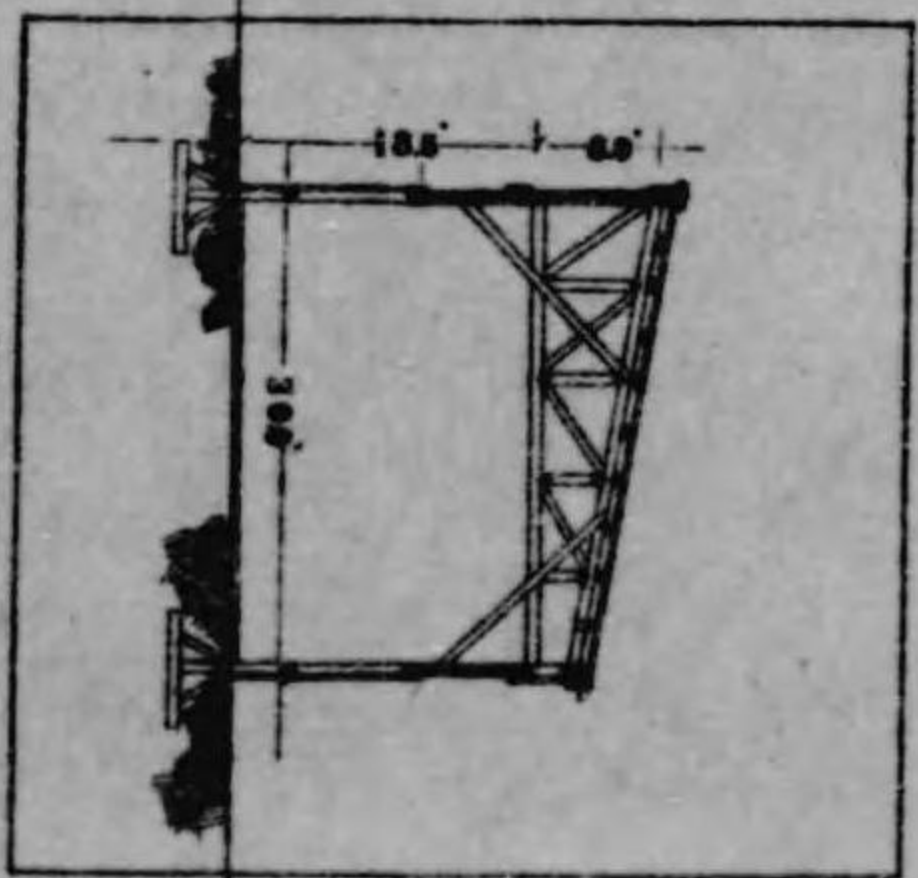
水産館

水産館ハ梁間五間桁行延四十六間外ニ塔家及突出部ヲ加ヘ建坪二百七十七坪外ニ博物館陳

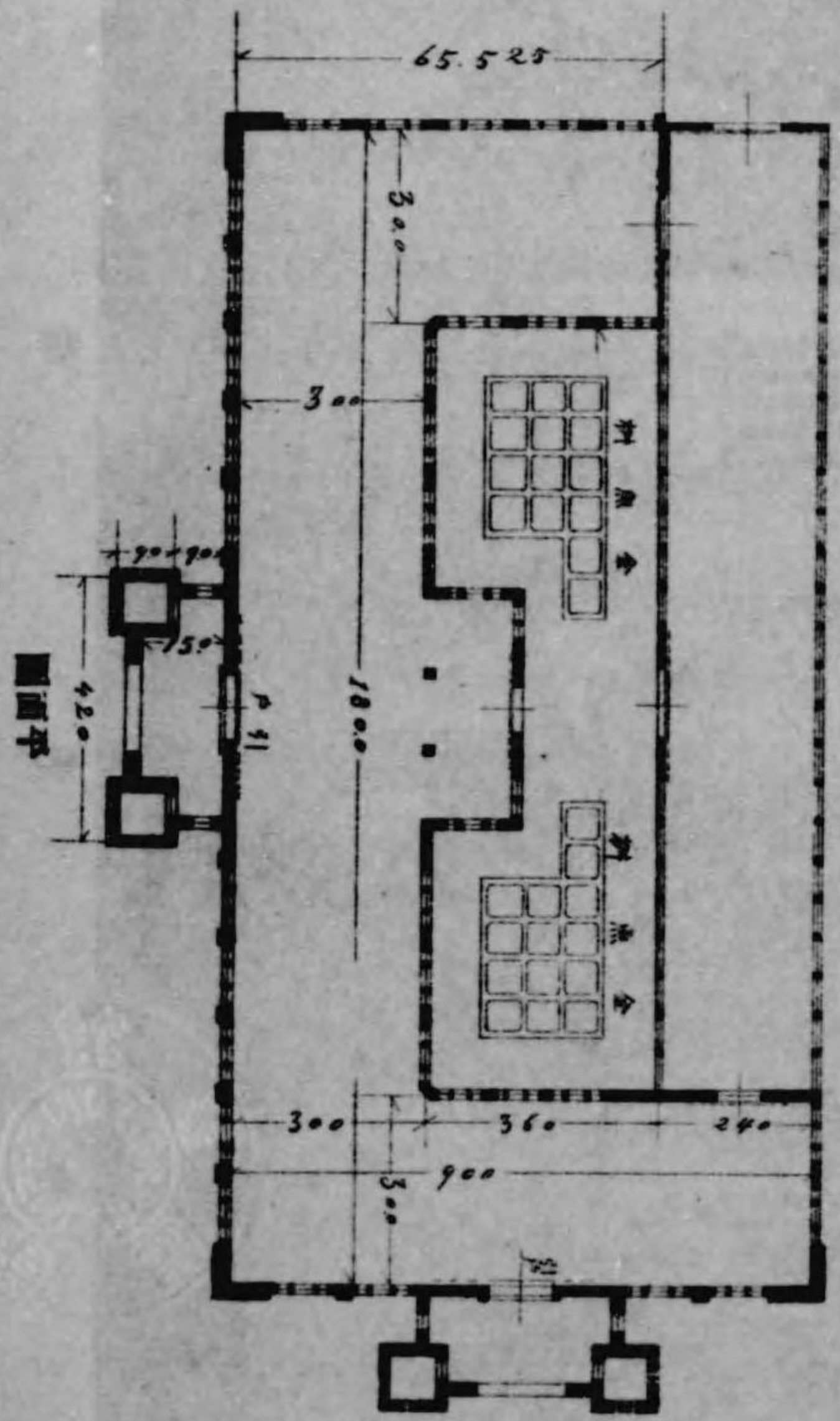
圖計設館產水
一ノ分百六尺縮



圖面正

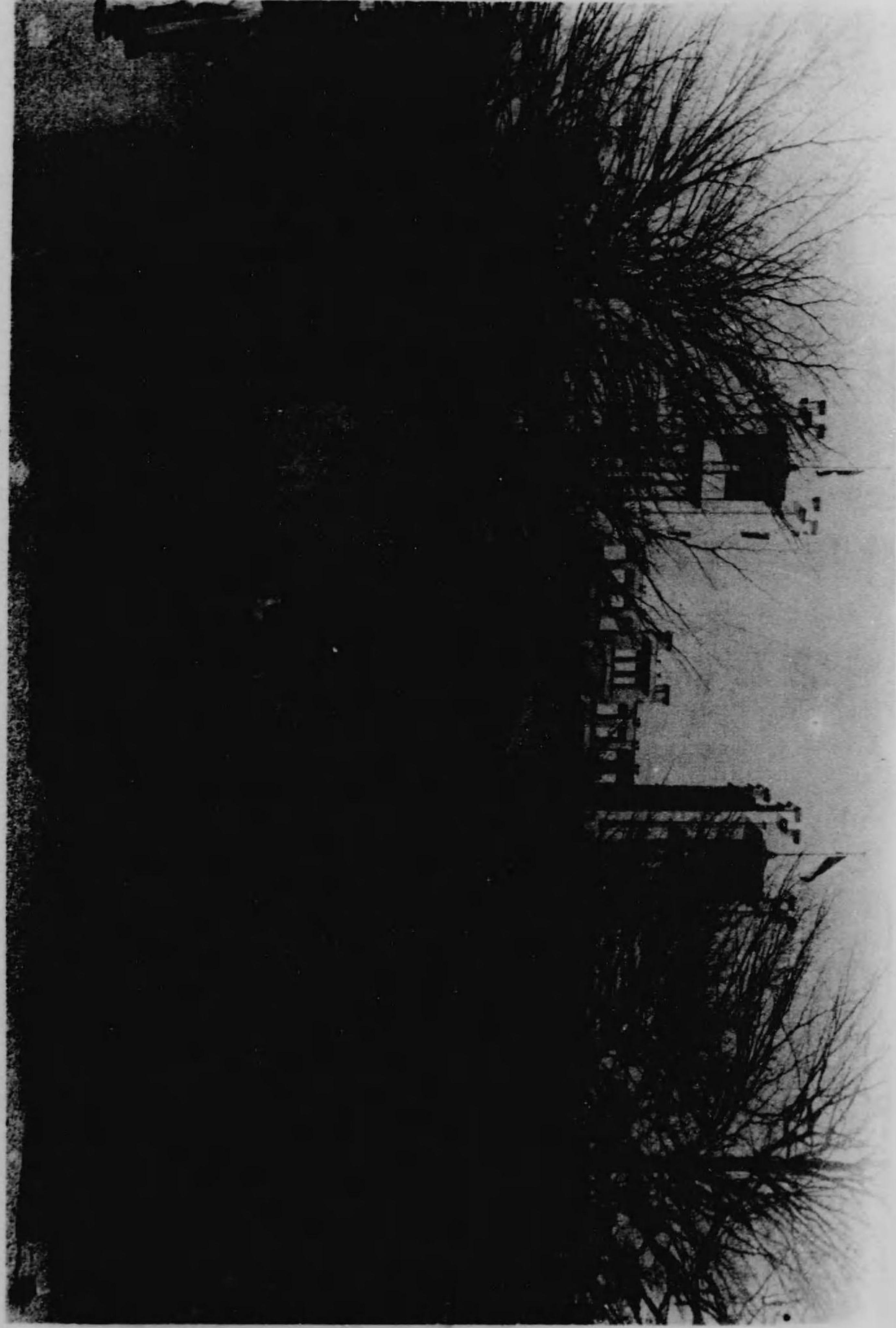


圖面斷
一ノ分百四尺縮



圖面平

水 產 館



水產研究所圖

第一式樣

